宮崎市文化財調査報告書第 110 集

高浜中原遺跡（たかはまなかはらいせき）

－基幹農道整備事業楠見３期地区Ａ工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１６

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書第 110 集

高浜中原遺跡（たかはまなかはらいせき）

－基幹農道整備事業楠見３期地区Ａ工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１６

宮崎市教育委員会

序

本書は基幹農道整備事業楠見３期地区Ａ工区に伴って発掘調査を実施した宮崎市高岡町高浜に所在する高浜中原遺跡の発掘調査報告書です。

高浜中原遺跡の周辺は、約３万年前の石器が出土した高野原遺跡や中世日向国の動乱の舞台となった穆佐城跡など多数の遺跡が所在し、本市の歴史を語る上で非常に重要な地域の一つです。

高浜中原遺跡の発掘調査では、縄文時代の遺構、遺物に加え、当初想定されていなかった旧石器時代の遺構、遺物が確認され、本地域の歴史に新たな１ページを加える調査となりました。

基幹農道整備の目的は、物流の利便向上による農業の振興ですが、今回の発掘調査をまとめた本書も歴史的側面から地域振興の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたり、ご理解とご協力を頂きました地元の皆様、宮崎県中部農林振興局をはじめとする関係諸機関の皆様、そして発掘調査、整理作業に従事していただきました作業員の皆様方に、心より感謝申し上げます。

平成 28 年２月

宮崎市教育委員会

教育長　二 見 俊 一

例　言

1. 本書は基幹農道整備事業楠見3期地区Ａ工区に伴っておこなわれた、宮崎県宮崎市高岡町高浜に所在する高浜中原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 本業務は宮崎市教育委員会が、宮崎県中部農林振興局から委託を受け、平成24年度から実施した。発掘調査は平成24年度に終了し、その後、室内整理作業を平成25～27年度にかけて実施した。

3. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　宮崎市教育委員会

平成24年度（発掘調査）

文化財課	課長	田村　泰彦
総括	副主幹兼埋蔵文化財係長	島田　正浩
調整事務	主査	鳥枝　誠
調査担当	主任技師	石村　友規
	嘱託	川野　誠也

平成25年度（整理作業）

文化財課	課長	橋口　一也
総括	副主幹兼埋蔵文化財係長	島田　正浩
事務	主査	鳥枝　誠
調整事務	主任技師	秋成　雅博
整理作業	主任技師	石村　友規
	嘱託	玉谷　鮎美
	嘱託	佐伯美佐子

平成26年度（整理作業）

文化財課	課長	橋口　一也
総括	副主幹兼埋蔵文化財係長	島田　正浩
事務	主任主事	谷口　広清
調整事務	主査	秋成　雅博
整理担当	主任技師	石村　友規
	嘱託	佐伯美佐子

平成 27 年度（整理作業）

文化財課	課長	日高　貞幸
総　括	埋蔵文化財係長	井田　篤
事　務	主任主事	谷口　広清
調整事務	主任技師	河野　裕次
整理担当	主任技師	石村　友規
	嘱託	佐伯美佐子

4. 掲載した図面の作成は、発掘調査・整理作業ともに石村が嘱託職員の協力を得ておこなった。

5. 現場写真は石村・川野が、遺物の写真撮影は石村がおこなった。

6. 本書で使用する方位記号は、すべて真北を指す。

7. 石器実測図、トレース図の作成については一部を（有）ジパング・サーベイに委託し、その監修については石村が秋成雅博・金丸武司（宮崎市教育委員会）の協力を得ておこなった。

8. 本書で使用した土層及び土器の色調は『新版 標準土色帖』に従った。

9. 本書の編集は石村がおこなった。

10. 本書で報告した高浜中原遺跡の発掘調査における出土遺物、実測図、撮影写真などは、すべて宮崎市教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに
　第1節　地理的環境 …… 1
　第2節　歴史的環境 …… 1

第Ⅱ章　発掘調査成果
　第1節　調査に至る経緯 …… 5
　第2節　調査の経過と概要 …… 5
　第3節　基本層序 …… 5
　第4節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 7
　第5節　縄文時代の遺構と遺物 …… 24

第Ⅲ章　総括
　…… 44

挿図目次

第 1 図　高浜中原遺跡周辺遺跡位置図 …… 2
第 2 図　高浜中原遺跡調査区位置図 …… 4
第 3 図　高浜中原遺跡基本層序 …… 6
第 4 図　旧石器時代遺構配置図、
　遺物包含層出土礫分布図 …… 7
第 5 図　礫群 1 実測図、
　出土遺物実測図 …… 8
第 6 図　礫群 2 実測図、
　出土遺物実測図 …… 8
第 7 図　礫群 3 実測図、
　出土遺物実測図 …… 9
第 8 図　旧石器時代遺物包含層
　出土遺物分布図① …… 10
第 9 図　旧石器時代遺物包含層
　出土遺物分布図② …… 10
第 10 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図① …… 11
第 11 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図② …… 12
第 12 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図③ …… 13
第 13 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図④ …… 14
第 14 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑤ …… 15
第 15 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑥ …… 16
第 16 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑦ …… 17
第 17 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑧ …… 18
第 18 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑨ …… 19
第 19 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑩ …… 20
第 20 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑪ …… 21
第 21 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑫ …… 22
第 22 図　旧石器時代遺物包含層
　出土石器実測図⑬ …… 23
第 23 図　縄文時代早期包含層出土
　旧石器時代石器実測図 …… 23
第 24 図　縄文時代早期遺構分布図 …… 24
第 25 図　集石遺構 3 実測図 …… 25
第 26 図　集石遺構 5 実測図 …… 25
第 27 図　集石遺構 6 実測図 …… 25
第 28 図　集石遺構 11 実測図 …… 25
第 29 図　集石遺構 12 実測図 …… 26
第 30 図　集石遺構 13 実測図 …… 26
第 31 図　集石遺構 14・15 実測図 …… 26
第 32 図　炉穴 8・9・17 実測図 …… 27
第 33 図　陥し穴状遺構 16 実測図 …… 27
第 34 図　割礫実測図 …… 27
第 35 図　土坑 1 実測図、出土土器実測図 … 28
第 36 図　土坑 2 実測図 …… 28
第 37 図　土坑 4 実測図 …… 28

第 38 図　土坑 7 実測図 …… 29
第 39 図　土坑 10 実測図 …… 29
第 40 図　土坑 7 出土石器実測図 …… 29
第 41 図　土坑 10 出土石器実測図 …… 29
第 42 図　縄文時代早期遺物包含層出土
　　土器分布図 …… 30
第 43 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土土器実測図① …… 31
第 44 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土土器実測図② …… 32
第 45 図　試掘トレンチ・表土出土
　　土器実測図 …… 32
第 46 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器分布図① …… 33
第 47 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器分布図② …… 33
第 48 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器実測図① …… 34
第 49 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器実測図② …… 35
第 50 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器実測図③ …… 36
第 51 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器実測図④ …… 37
第 52 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土石器実測図⑤ …… 38
第 53 図　縄文時代早期遺物包含層
　　出土礫分布図 …… 39

表目次

第 1 表　出土土器観察表 …… 40
第 2 表　出土石器観察表① …… 41
第 3 表　出土石器観察表② …… 42
第 4 表　出土石器観察表③ …… 43
第 5 表　集石遺構計測表 …… 43

写真図版目次

図 版 1　調査区空中写真 …… 46
図 版 2　旧石器時代調査写真 …… 47
図 版 3　縄文時代早期調査写真① …… 48
図 版 4　縄文時代早期調査写真② …… 49
図 版 5　旧石器時代石器① …… 50
図 版 6　旧石器時代石器② …… 51
図 版 7　旧石器時代接合資料① …… 52
図 版 8　旧石器時代接合資料② …… 53
図 版 9　縄文時代早期遺物 …… 54

第Ⅰ章　はじめに

第１節　地理的環境

高浜中原遺跡が所在する宮崎県宮崎市は九州島の南東部に位置する。市域の大部分は、耳川河口～西都～綾～青島を結んだ三角地帯に広がる宮崎平野の南端に位置するが、北西側は九州山地、南西側は鰐塚山に代表される南那珂山地が連なる。宮崎平野は、主に宮崎層群を基盤としており、宮崎市域では標高 20 ～ 80 ｍの丘陵部と標高 10 ｍ以下の低地部からなる。また市域の東側は日向灘に面しており、青島以北は 30km 余りの砂浜海岸となっている。市街地の中心には、県下最大の河川である大淀川が流れる。大淀川は、南那珂山地の一部である鹿児島県中岳を源流とし、都城盆地を経て宮崎平野部へと東流する。宮崎市街地では東流から南流、再び東流と蛇行し、日向灘に注ぐ。この大淀川の沖積作用によって現在の宮崎市街地が位置する低地部が形成された。

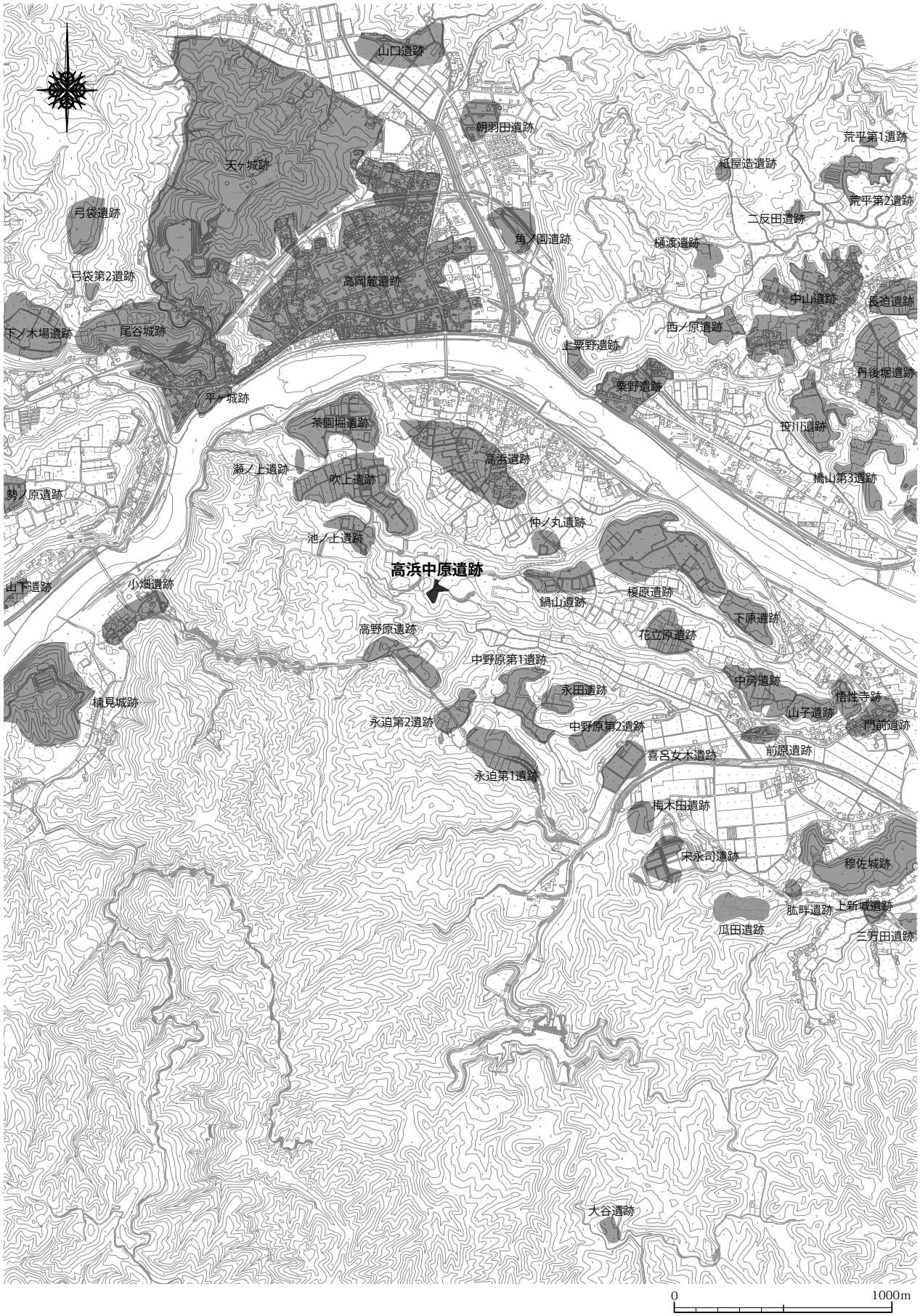
高浜中原遺跡は宮崎市街地の西側に位置し、大淀川の南岸に形成された標高 70 ～ 65 ｍ程度の河岸段丘上に立地する。この河岸段丘の南側は大淀川の支流である瓜田川とその支流である小河川によって谷状の地形となっており、段丘が西から東へと半島状に大きく突き出る形となっている。高浜中原遺跡はその半島状段丘の根元付近に位置する。段丘上は比較的平坦で中央付近は南北幅が約 600 ｍと一定の広さを有しているが、根元に向け南北幅が狭小になっていくことから本遺跡が所在する位置は南北幅が約 300 ｍと狭くなっている。

第２節　歴史的環境

旧石器時代　高浜中原遺跡周辺の旧石器時代の遺跡はいずれも河岸段丘上もしくは台地上で確認されている。その中で最も時期が遡るものは本遺跡から谷を挟んで南側の河岸段丘上に所在する高野原遺跡第４地点と永迫第１遺跡、永迫第２遺跡で、検出層位はＡＴ下位層である。高野原遺跡第４地点では 58 点の接合資料やスクレイパー、石核などを含む遺物と礫群が検出されている。ＡＴ上位層では、永迫第１遺跡出土の剥片尖頭器を中心とした９点の石器群について、石材並びに器種構成から剥片尖頭器を携えた旧石器人の道具立てを示したものとの評価がなされている（藤木 2010）。小林市野尻町との市境界に近接する位置に所在する小田元第２遺跡では、細石刃や細石核、剥片尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器などが出土している。

縄文時代　縄文時代の遺跡も河岸段丘上、台地上において確認されている。草創期は当遺跡の近接地では確認されていないが、小林市野尻町との境界に近い茶屋原遺跡において爪形文土器が出土している。早期になると高野原遺跡、永迫第１遺跡、第２遺跡、的野遺跡、大淀川対岸に立地する天ヶ城跡、橋山第１、第２遺跡、橋上遺跡など調査事例が飛躍的に増加する。前期は永迫第１、第２遺跡で轟Ｂ式、曽畑式が出土している。中期は近接地では確認されていない。後期は的野遺跡や橋山第１遺跡、晩期は学頭遺跡において黒色磨研土器が出土している。

弥生時代　弥生時代になると台地上に加え低丘陵上や微高地上においても遺跡が確認されるようになる。標高 15 ｍ程度の微高地上に所在する学頭遺跡では、断面がＶ字状を呈する溝状遺構や竪穴住居が確認されている。学頭遺跡の南約 2km の位置にある丘陵先端部に立地する的野遺跡からは後期段階の二段掘りの土坑墓や溝状遺構が検出されている。台地上の遺跡としては、大淀川を挟んだ対岸、



第1図　高浜中原遺跡周辺遺跡位置図(S=1/25000)

丹後堀遺跡において中期から後期の竪穴住居が確認されている。

古墳時代　古墳時代には大淀川の氾濫源である低地に集落が展開する。高岡麓遺跡第5地点では、5世紀中頃に比定されている2軒の竪穴住居が検出された。また八児遺跡では7世紀代の竈を有する住居など12軒以上検出された。墳墓としては丹後堀遺跡と同一台地上に県指定史跡高岡古墳が2基存在する。

古代　古代にはこの地域は承平年間（931～938）の「和名抄」によると「穆佐郷」と称されていた。大淀川対岸の台地上に所在する蕨野遺跡では9世紀後半以降の土師器椀、皿などを焼成した土坑が6基以上検出された。的野遺跡では、9世紀後半の越州窯系青磁碗や緑釉陶器が出土している。三万田遺跡では9世紀後半から10世紀前半の大溝による方形区画が検出されている。区画内からは建物の痕跡は検出されていないが、中世城郭である穆佐城跡に近接する位置から、穆佐城の前身となる、この地域の中心、政治的な施設の存在が想定されている。

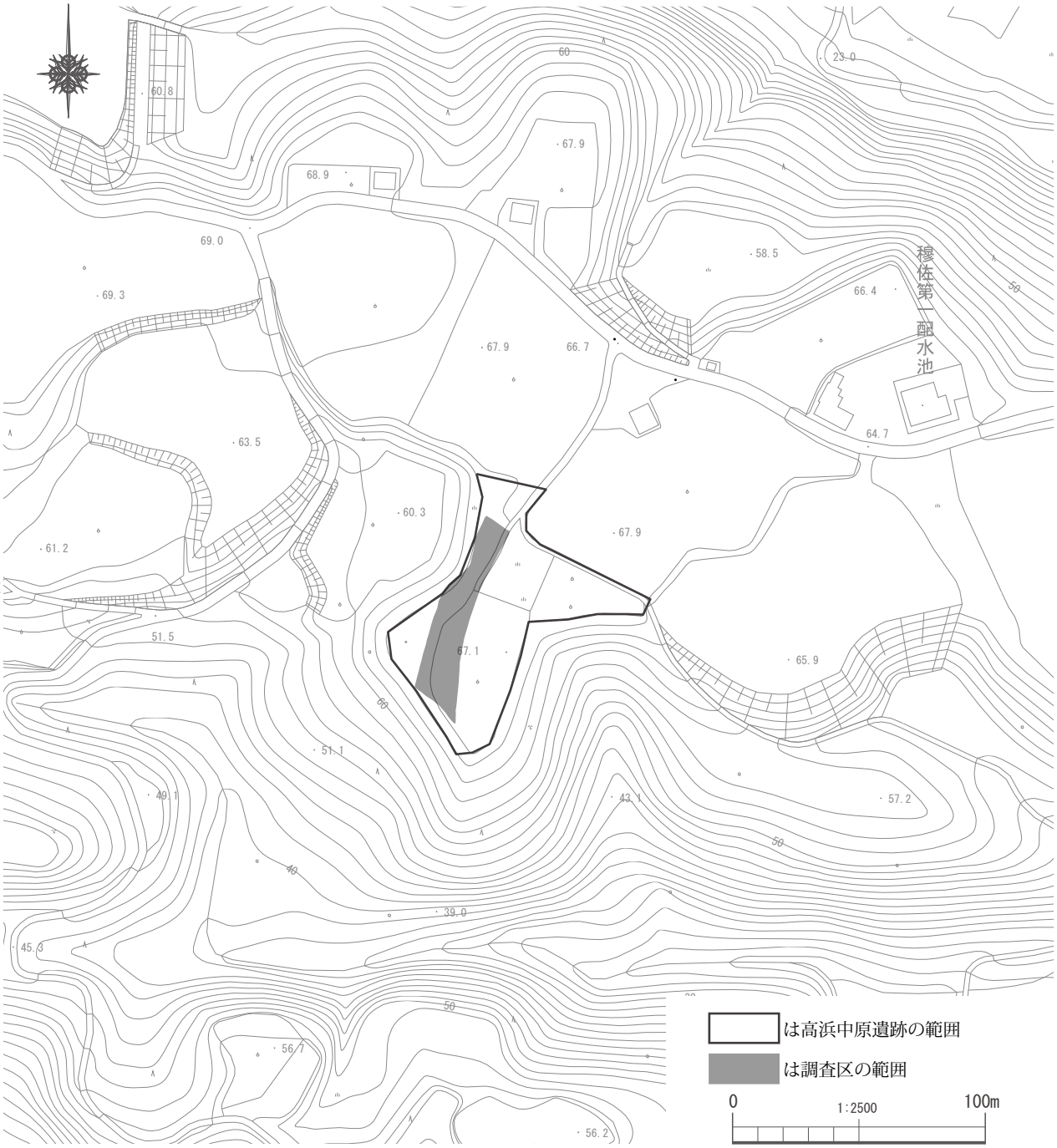
中世　建久図田帳によると12世紀には当遺跡周辺は「島津庄穆佐院」といわれていた。穆佐院の政治的施設である穆佐院政所は穆佐城、もしくはその周辺と想定されている。穆佐城は南北朝期の建武3年（1336）には文献に現れ、その後は中世を通じてたびたび戦乱の舞台となる。中世には穆佐城を中心に、大淀川沿辺に倉岡城、飯田城、天ヶ城（内山城）など多くの山城が築かれている。穆佐城跡では史跡整備に伴う発掘調査が継続的に実施されている。主郭である曲輪7・8では、16世紀後半に埋め戻され造りかえられた虎口が検出された。埋め戻し以前が伊東氏支配下、以後が島津氏支配下の時期に相当する可能性が指摘されている。また曲輪7では曲輪中央を東西に2分する埋められた箱堀が検出されており、虎口と同様に16世紀後半段階に曲輪を大きく改変している可能性がある。天ヶ城跡では公園整備に伴い発掘調査が実施されており、溝により区画された掘立柱建物が2時期にわたって検出されている。出土遺物や溝の方向から、先行する遺構が14世紀末から15世紀中頃、もう一方が17世紀初頭とされている。生産遺跡としては穆佐城の南麓に所在する上新城遺跡、穆佐城から北西に約1kmの位置にある梅木田遺跡において水田遺構が確認されている。穆佐城周辺の低地にはこのような水田域が広がり、穆佐城を支える生産基盤となっていたと考えられる。

近世　近世になると、高岡町の中心は穆佐城のある穆佐郷から、天ヶ城のある高岡郷へと一変する。天ヶ城は近世初期に廃城となるが、島津氏はその山裾に薩摩、大隅、日向から700余名の武士を集住させ麓を形成した。この麓が高岡麓遺跡である。高岡麓遺跡は高岡地頭仮屋を中心に、計画的な街路設計がなされ、郷士屋敷群と町屋敷群に分割されている。高岡麓遺跡は確認調査も含め37地点に渡って調査が成されている。

【主要参考文献】

青山尚友　2010『ここまでわかった宮崎の台地』鉱脈社。

藤木聡　2010「東南九州における剥片尖頭器石器群の特質」『先史学・考古学論究』Ⅴ、龍田考古学会。



第2図　高浜中原遺跡調査区位置図(S=1/2500)

第Ⅱ章　発掘調査成果

第１節　調査に至る経緯

基幹農道整備事業は宮崎県中部農林振興局によって実施される、農産物流の合理化等による地域農業の振興を目的とするものである。楠見３期地区は旧高岡町時に事業計画が策定され、市町村合併を経て宮崎市に引き継がれた。平成 23 年２月に宮崎市高岡総合支所農業振興課を通じて試掘依頼が提出され、平成 23 年３月２日、４日の２日間で試掘調査をおこなった。その結果、縄文時代早期の遺物包含層が確認されたため開発側と協議をおこない、工事により削平を受ける部分の発掘調査を、平成 24 年５月 23 日から８月 28 日にかけて実施した。

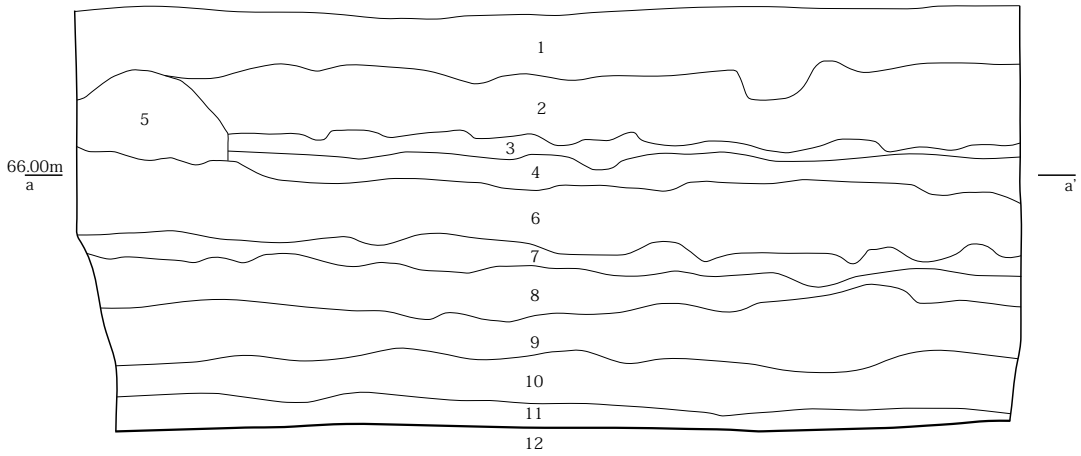
第２節　調査の経過と概要

調査対象地は東西方向に伸びる段丘の一部が、南側に向け舌状に張り出した半島状の地形の上面に立地する。調査以前は果樹栽培に用いられており、それに伴う撹乱が、一部縄文時代早期の遺物包含層に達している部分もみられた。また対象地の北西側は農作業用の砂利敷の道路となっており、やはり撹乱が縄文時代早期の遺物包含層に達していた。調査区は農道新設により削平を受ける部分を対象としたが、調査中も隣接する果樹園で栽培がおこなわれていたことから、安全確保のため１ｍの作業用通路を残した 944㎡を対象とし発掘調査をおこなった。

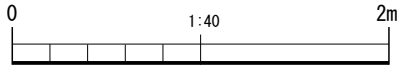
調査は重機による表土剥ぎをおこなった後、アカホヤ火山灰層上面において遺構が確認されなかったことから当層の除去も重機でおこなった。アカホヤ火山灰層下からは牛の脛ローム層が検出されたが、当層上面においても遺構、遺物、礫が確認されなかったため、調査期間を考慮し、当層も重機で数 cm ずつ薄く剥ぎ除去した。牛の脛ローム層下からは縄文時代早期遺物包含層である褐色ローム層が検出された。当該時期の地形を把握するため等高線測量をおこなった後に包含層の掘削をおこなった。包含層の掘削は数 cm 掘削するごとに遺構検出をおこない、遺構が検出されれば遺構の掘削、記録作業をおこない再び包含層の掘削を繰り返し調査を進めた。縄文時代早期の遺構は集石遺構８基、陥し穴状遺構１基、炉穴３基、土坑４基が検出された。包含層出土の遺物、礫はすべてトータルステーションを用い座標値を与え取り上げをおこなっている。縄文時代早期遺物包含層の調査終了後は旧石器時代の調査に取り掛かったが、調査期間の関係から、調査区長軸の中央にトレンチを設定し掘り下げ、遺物や礫が集中して確認された部分のみ拡張する形で調査を進めた。旧石器調査区の掘り下げはＡＴ直上層までおこない、調査区の面積は 229㎡である。旧石器時代の遺構は礫群が３基確認された。

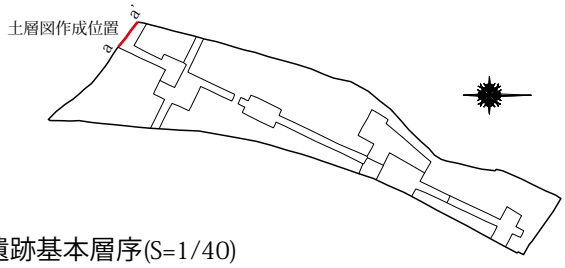
第３節　基本層序

本遺跡における土層堆積状況は比較的良好であるが、地形が北から南へと緩やかに下降傾斜しているため、上方にあたる北側では堆積が薄い層が存在する。基本層序は第３図に示したとおりであるが、この中で縄文時代早期遺物包含層が４・６層、旧石器時代遺物包含層が７～９層である。調査区北側では８層の堆積がほとんどなく７・９層が接するような状況であった。



1.10YR3/4 暗褐色　締りやや弱い　粘性やや弱い　シルト　多量にスコリア含む。耕作土。
2.アカホヤ火山灰層　締りやや弱い　粘性弱い　砂質土　下層に軽石粒が確認されるが顕著ではない。
3.10YR5/2 灰黄褐色　締り硬い　粘性弱い　砂混シルト　牛の脛ローム。傾斜地のため色調が明るく堆積薄い。
4.10YR4/6 褐色　締りやや弱い　粘性強い　ローム　縄文時代早期遺物包含層。
5.土層横転。
6.4層と同質だが10YR6/4にぶい黄褐色ロームブロック含む。縄文時代早期遺物包含層。
7.6層と同一の土に10YR3/3暗褐色硬質土ブロックが多量に混ざる。霧島小林軽石混ローム層。
8.10YR5/6 黄褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム　霧島小林軽石を含まない硬質土ブロック多量に含む。
　ブロックの色調も10YR4/3にぶい黄褐色と明るい。
9.10YR5/6 黄褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム　ブロックを含まない。調査区北側では堆積薄い。
10.10YR5/4 にぶい黄褐色　締り硬い　粘性弱い　ローム　シラスブロック(硬質)中量含む。
11.10YR6/8 明黄褐色　締り硬い　粘性弱い　砂質土　シラス層。軽石や1～5㎜程度の小礫含む。
12.黄色シラス層。





第3図 高浜中原遺跡基本層序(S=1/40)

高浜中原遺跡基本層序(撮影位置は土層図作成位置と同)

第４節　旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構は礫群が３基検出された。調査区の北側で検出された礫群２、礫群３の２基は深さ 0.1 ｍ程度の浅い掘り込みをもつが、南側で検出された礫群１は掘り込みをもたず礫もやや疎らで広範に広がる形態である。包含層出土遺物、礫共に礫群と対応するように、調査区中央やや北寄りと南端付近で集中的に検出された。特に礫群２、３が検出された付近では、剥片尖頭器が未製品も含め９個体出土しており特徴的な分布を示す。またそこから西へ６ｍほど離れた位置では、42 点が接合した接合資料④が出土している。

第１項　礫群

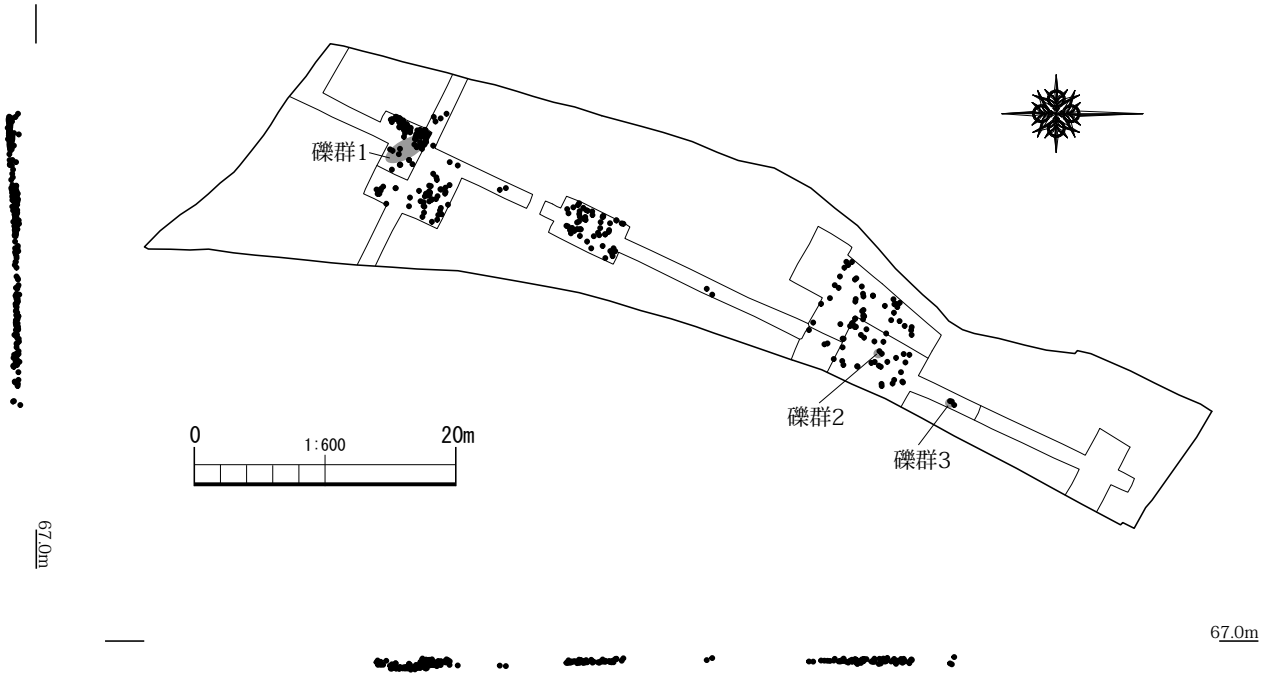
礫群１　調査区の南側に広がる散礫の一部にまとまりがみられたため礫群１とした。構成礫の範囲は 2.8 ｍ× 1.8 ｍを測り、総数は 102 点を数える。被熱痕のみられるものが多い。

遺物は構成礫内から１の頁岩製石錐と２の磨石が出土した。

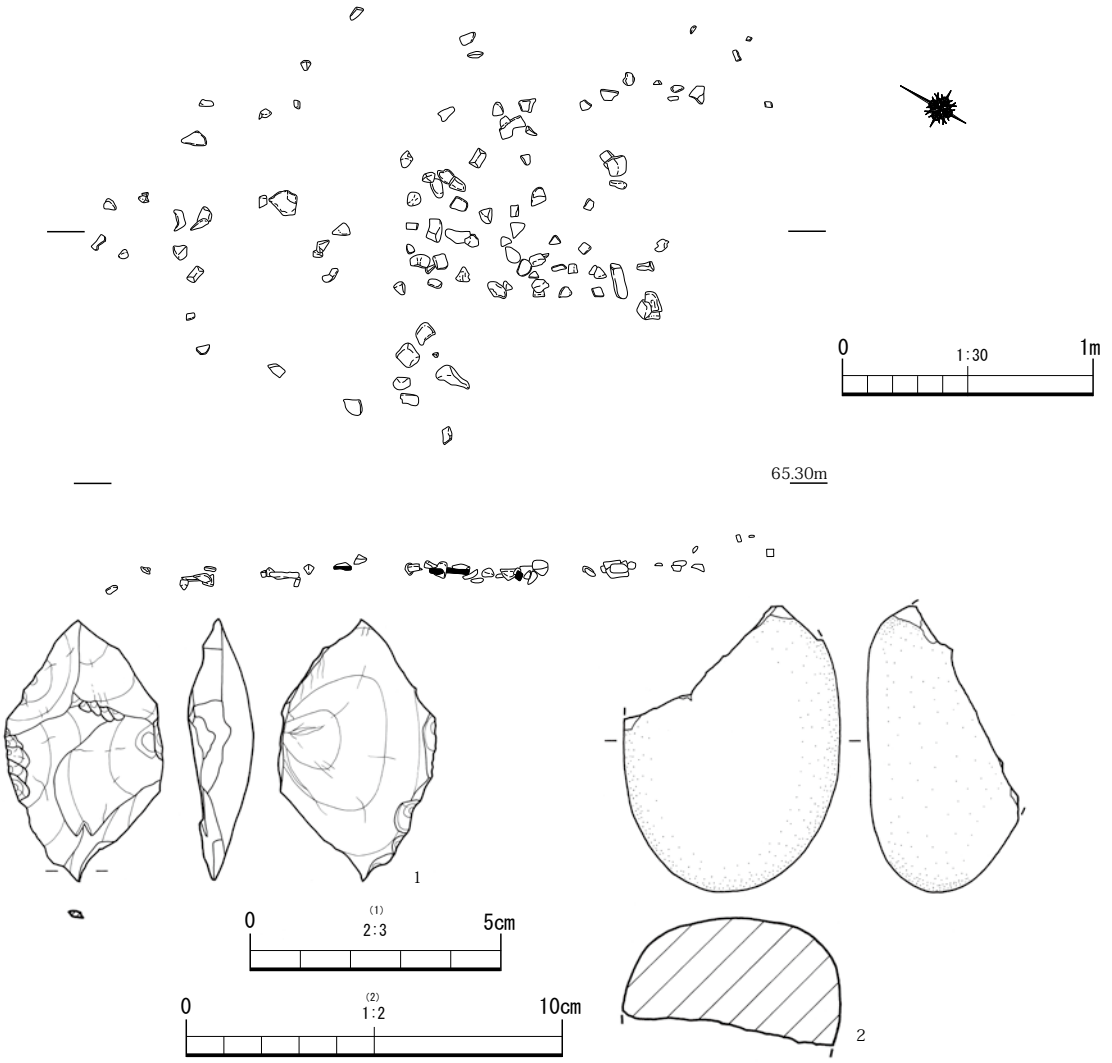
礫群２　調査区の北寄りに位置し、周辺からは剥片尖頭器などの製品、礫が検出されている。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.45 ｍ、短軸 0.35 ｍ、掘り込みの深さ 0.1 ｍを測る。礫数は 25 点であり被熱痕がみられる。

遺物は３の砂岩製敲石が出土した。三角柱に近い形状を呈し、小口面の稜付近に敲打痕がみられる。重量は 175 ｇである。

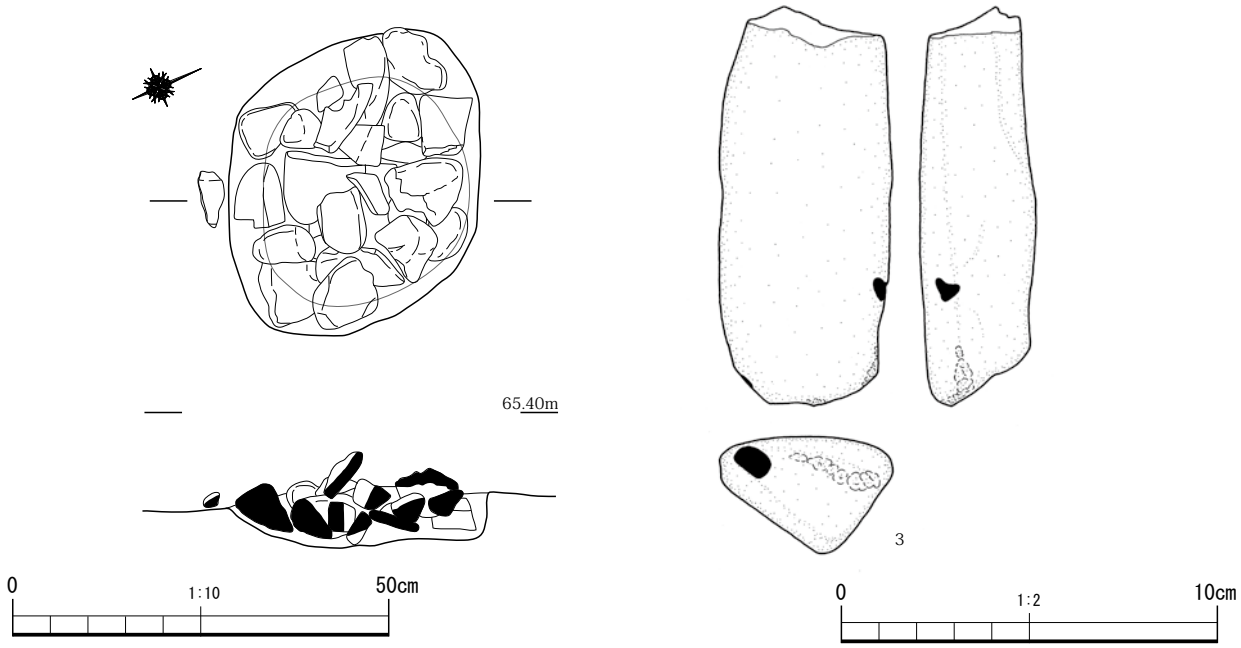
礫群３　調査区の北寄りで検出された。周辺の礫分布は少ない。平面形は卵形で長軸 0.35 ｍ、短軸 0.25 ｍ、掘り込みの深さ 0.08 ｍを測る。礫数 28 点で被熱痕が見られるものが多い。欠損部位が多かったため図化していないが２点の砂岩製剥片が構成礫として含まれていた。



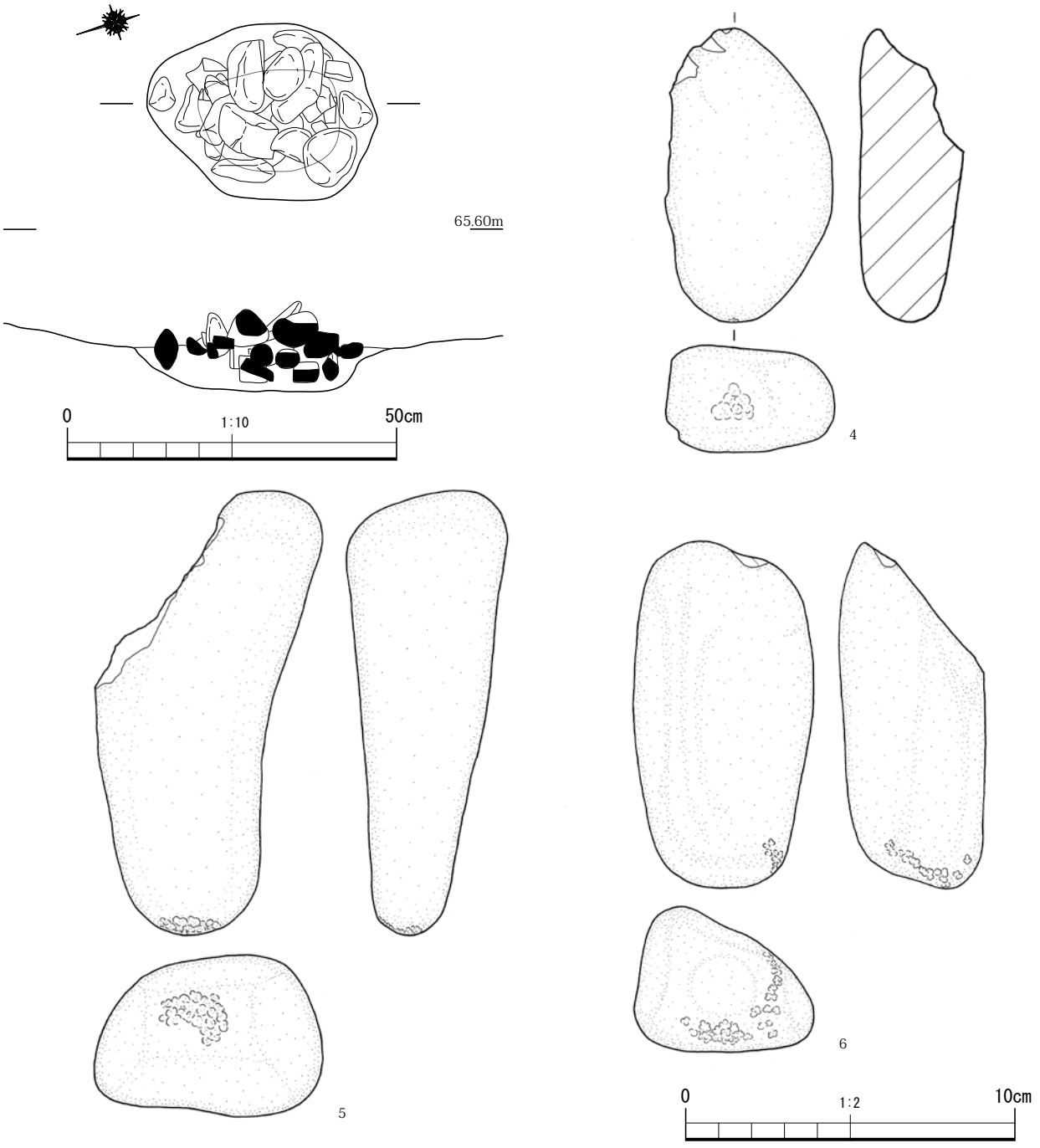
第4図　旧石器時代遺構配置図、遺物包含層出土礫分布図(S=1/600)



第 5 図　礫群 1 実測図 (S=1/30)、出土遺物実測図 (S=2/3・1/2)



第 6 図　礫群 2 実測図 (S=1/10)、出土遺物実測図 (S=1/2)

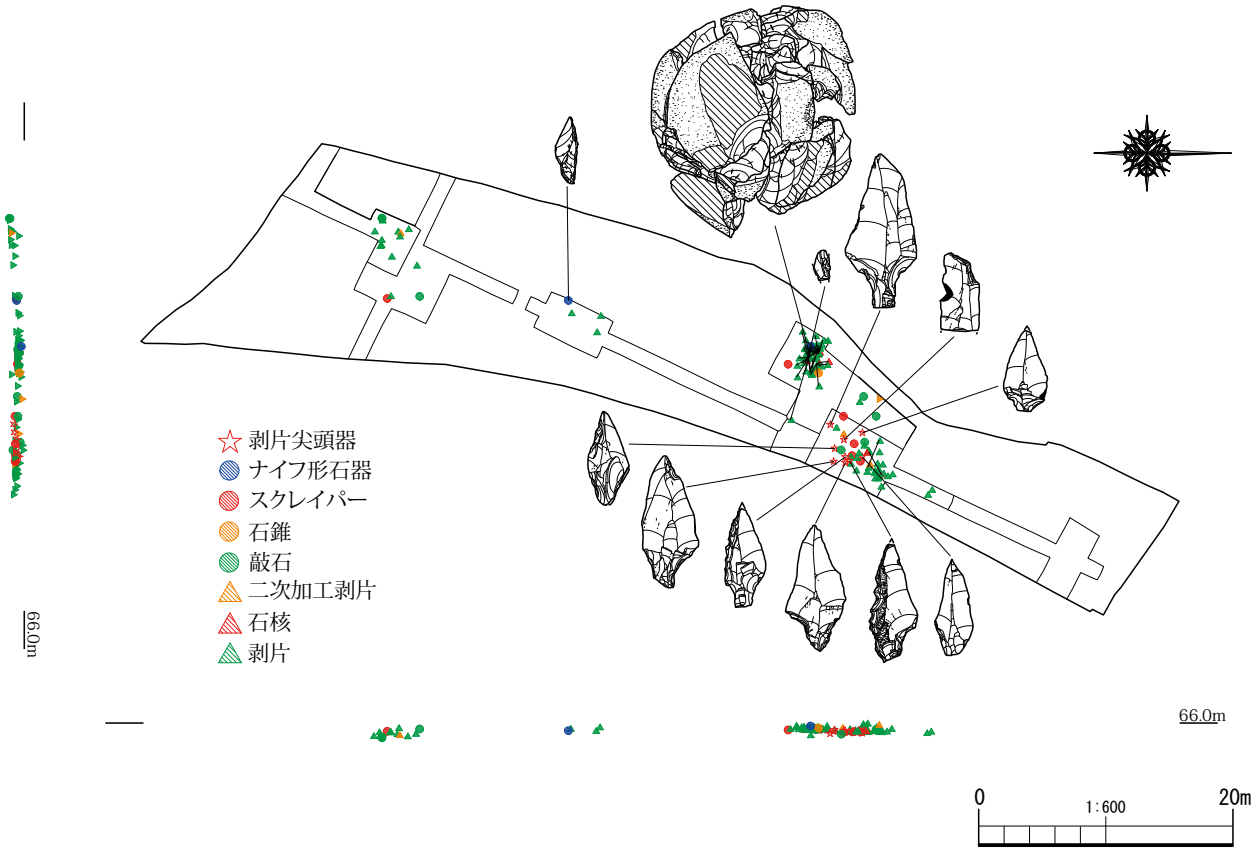


第 7 図　礫群 3 実測図 (S=1/10)、出土遺物実測図 (S=1/2)

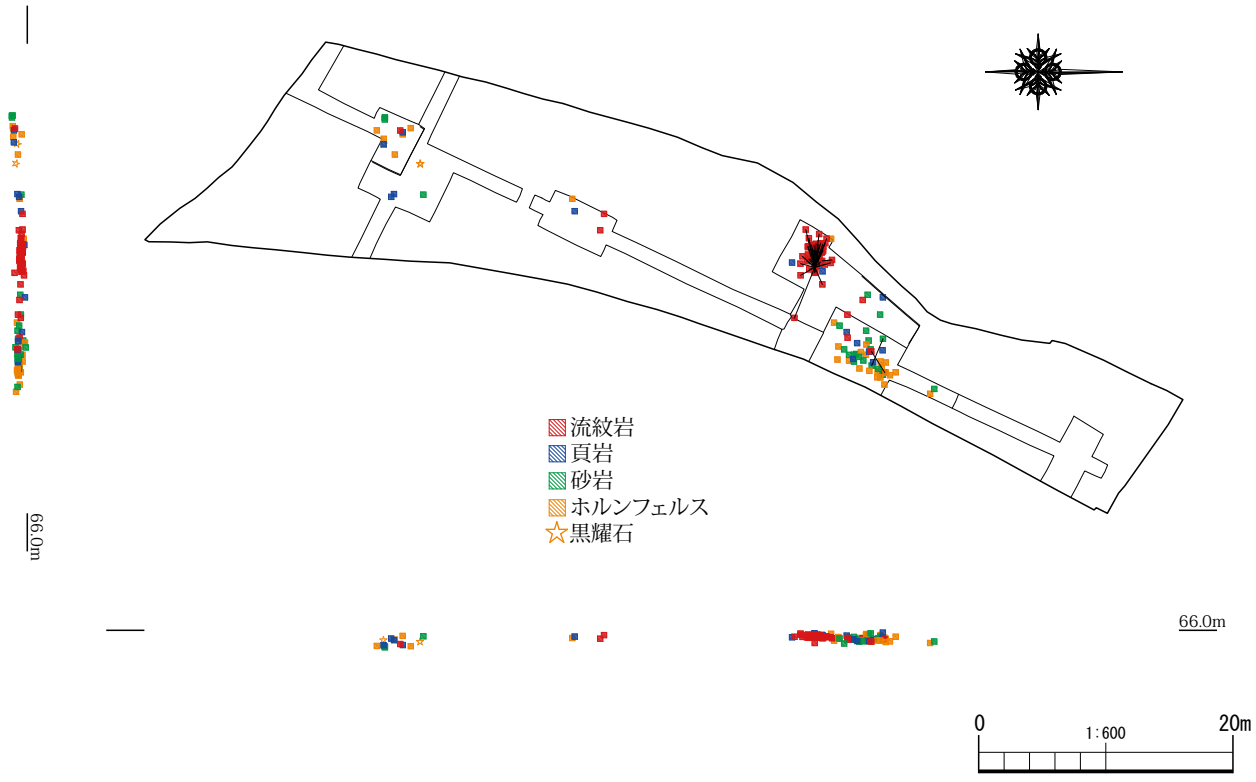
遺物は前述の砂岩製剥片の他に 3 点の敲石が出土している。いずれも砂岩製で小口面に敲打痕がみられる共通性をもつ。4 は 175 ｇ、5 は 437 ｇ、6 は 317.5 ｇで用途により使い分けしていた可能性がある。

第 2 項　包含層出土石器

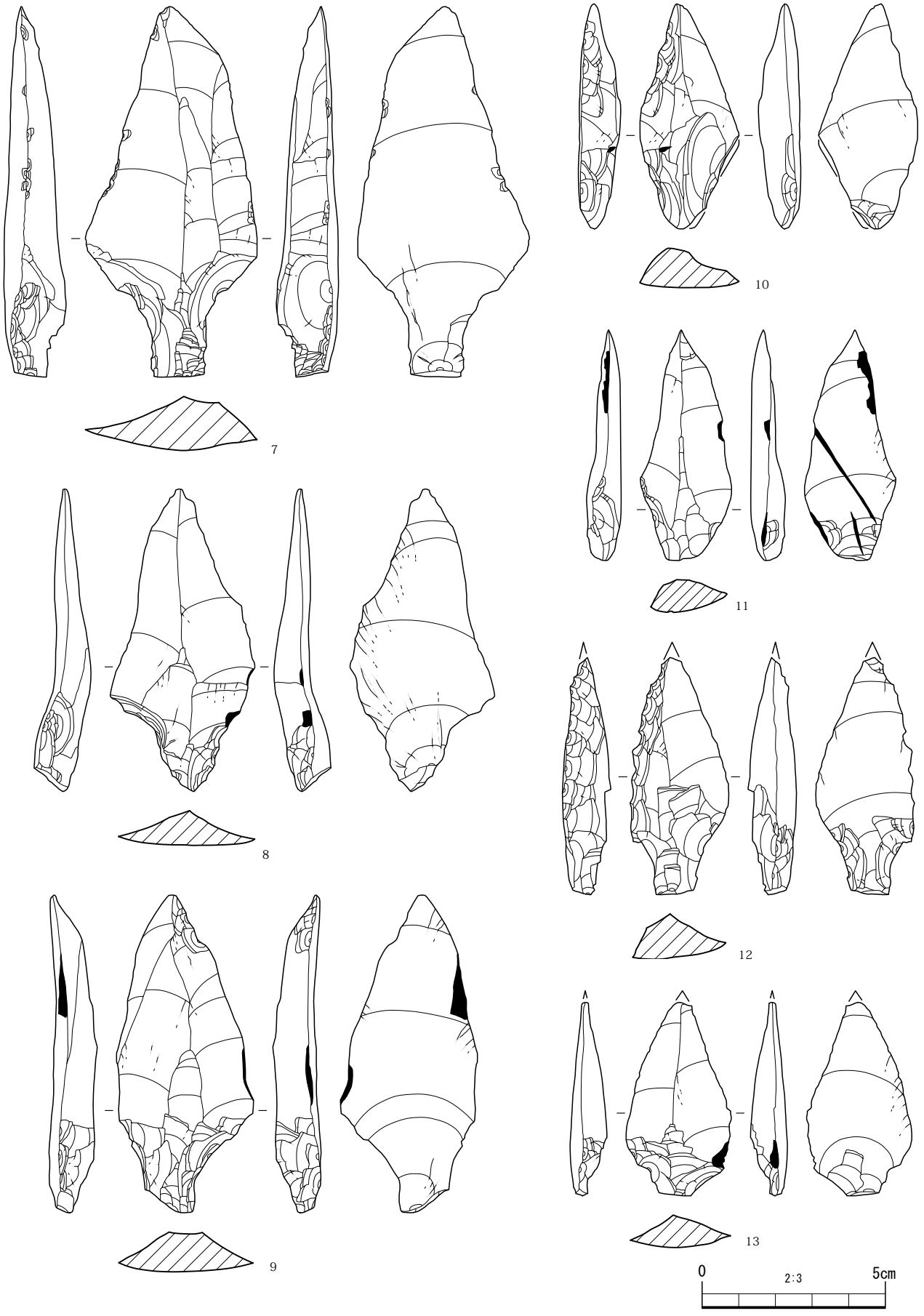
旧石器時代の遺物包含層からは石器 126 点、礫 277 点が出土している。出土分布図をみると 9 点の剥片尖頭器が半径 4 ｍほどの範囲に集中して分布する。また縄文時代早期包含層中から出土した剥片尖頭器も同様の範囲内から出土したことから、本来は 10 点の剥片尖頭器がセット関係を有して



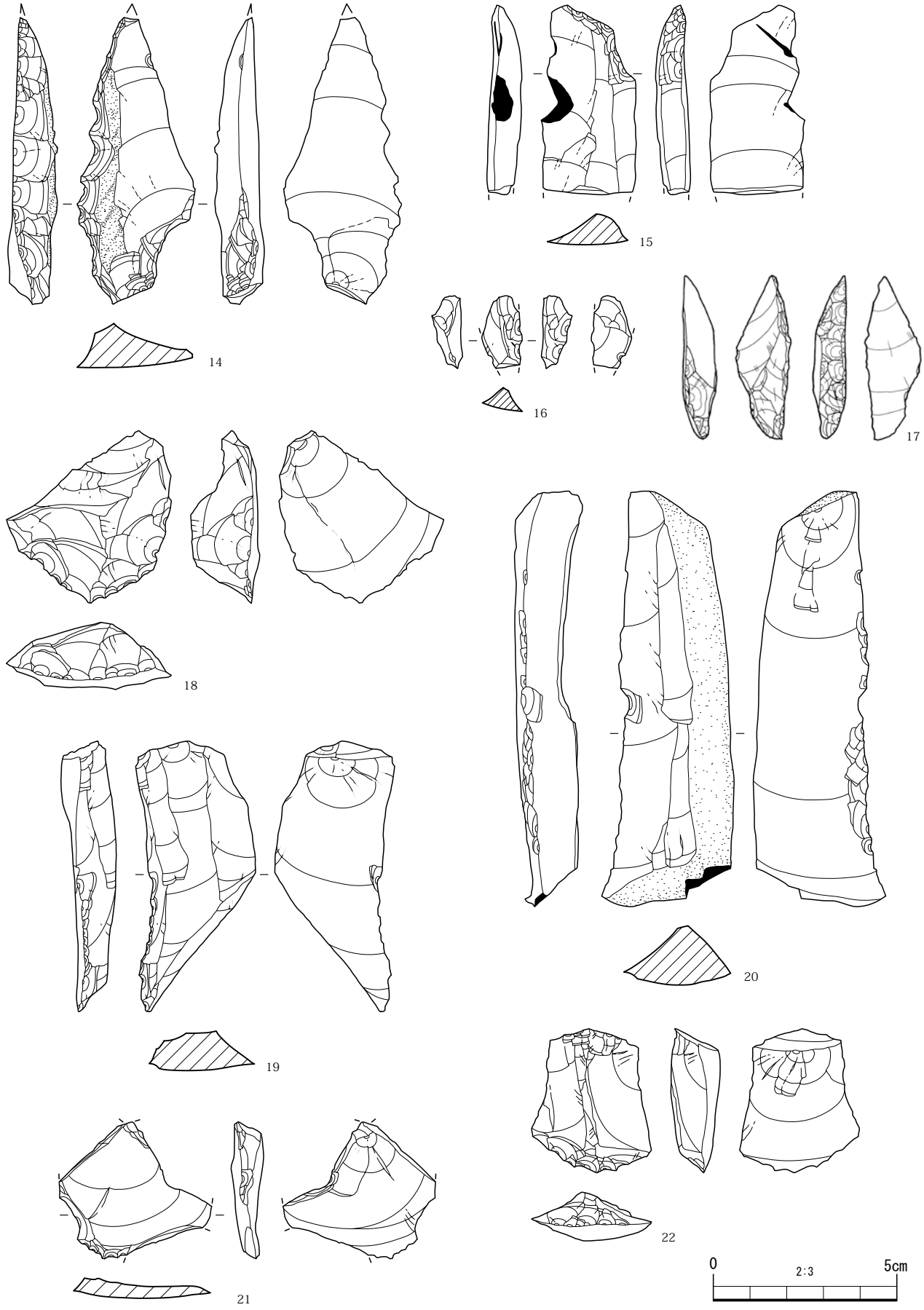
第8図　旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図①(S=1/600)



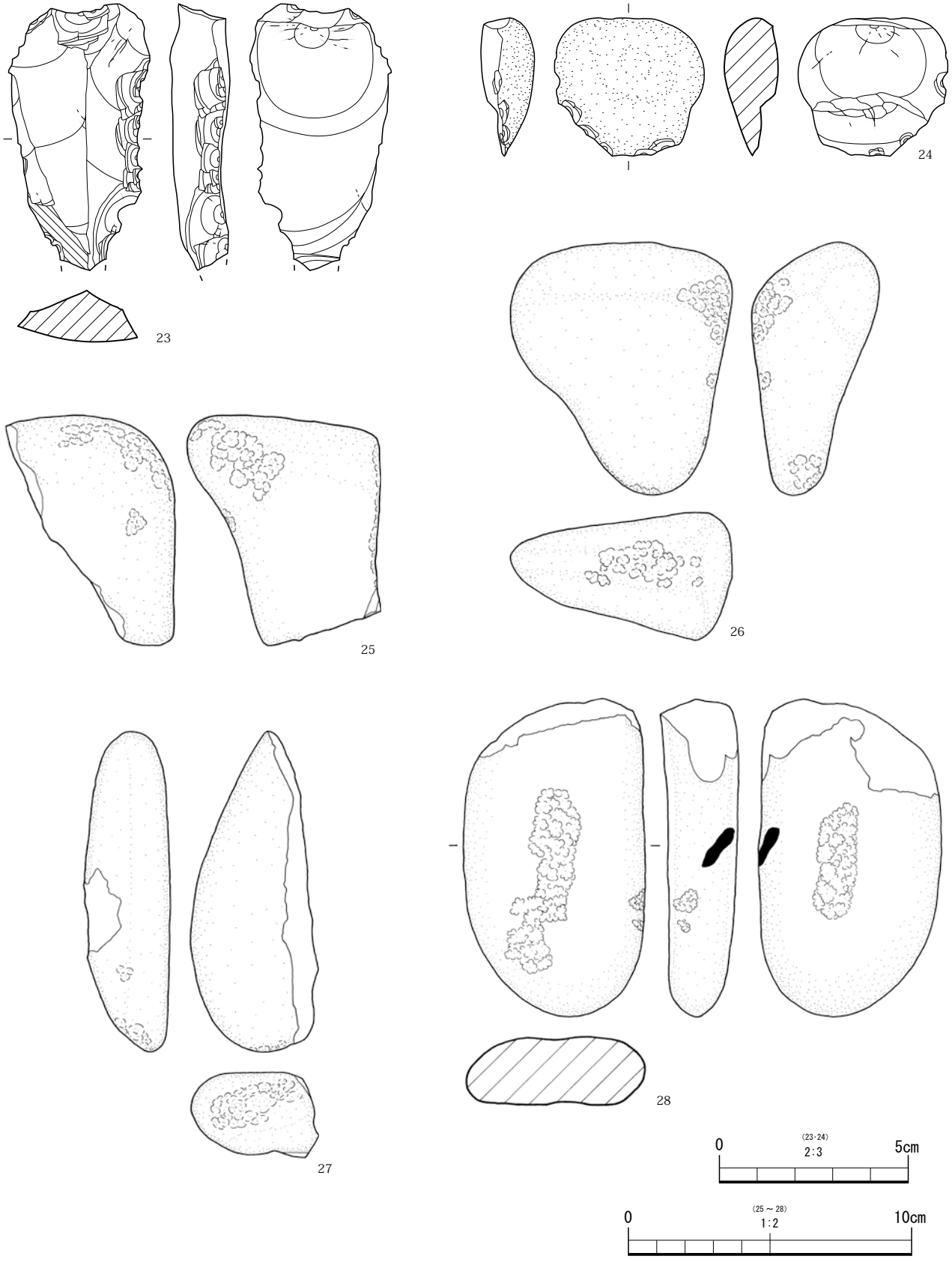
第9図　旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図②(S=1/600)



第 10 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



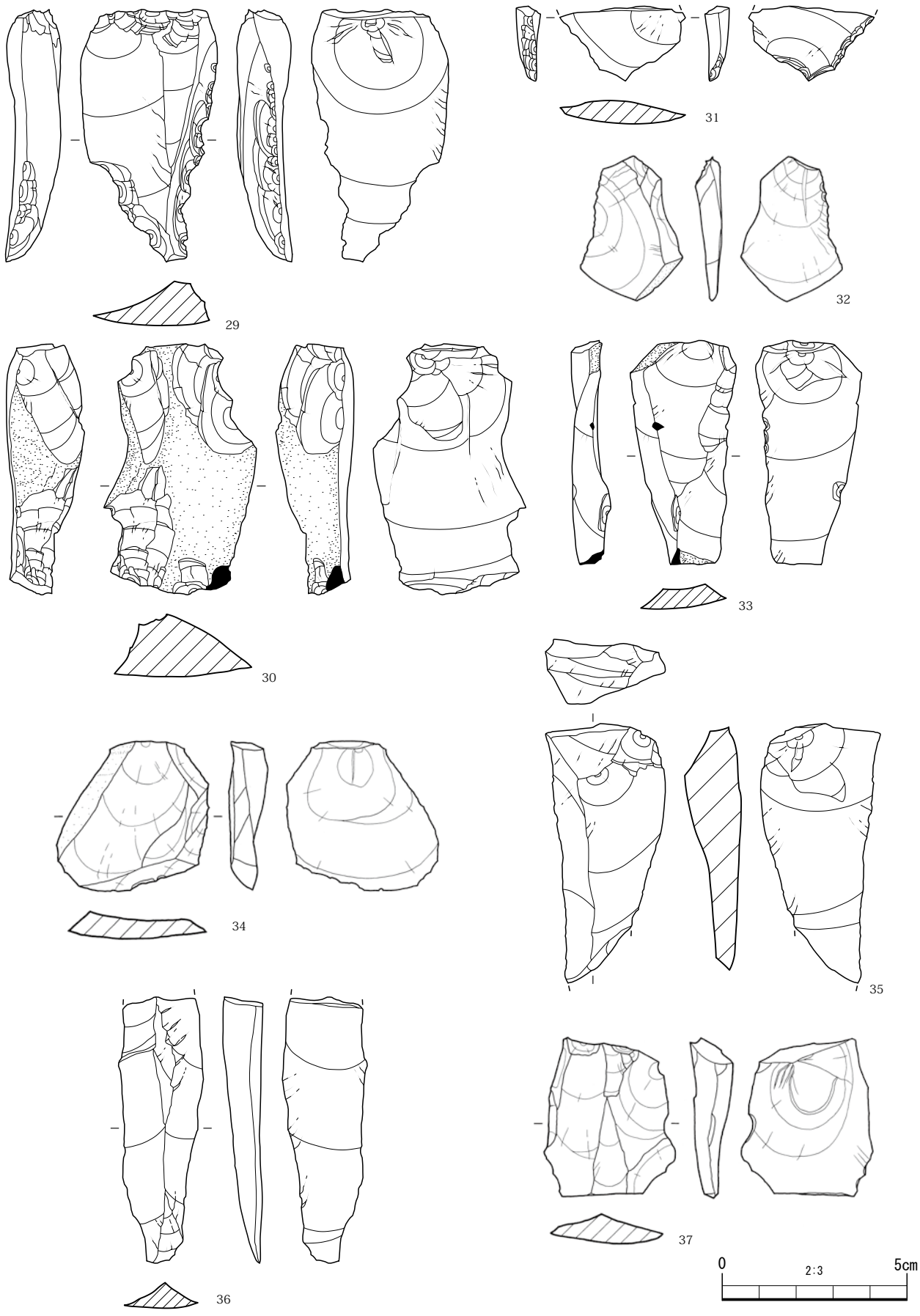
第 11 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



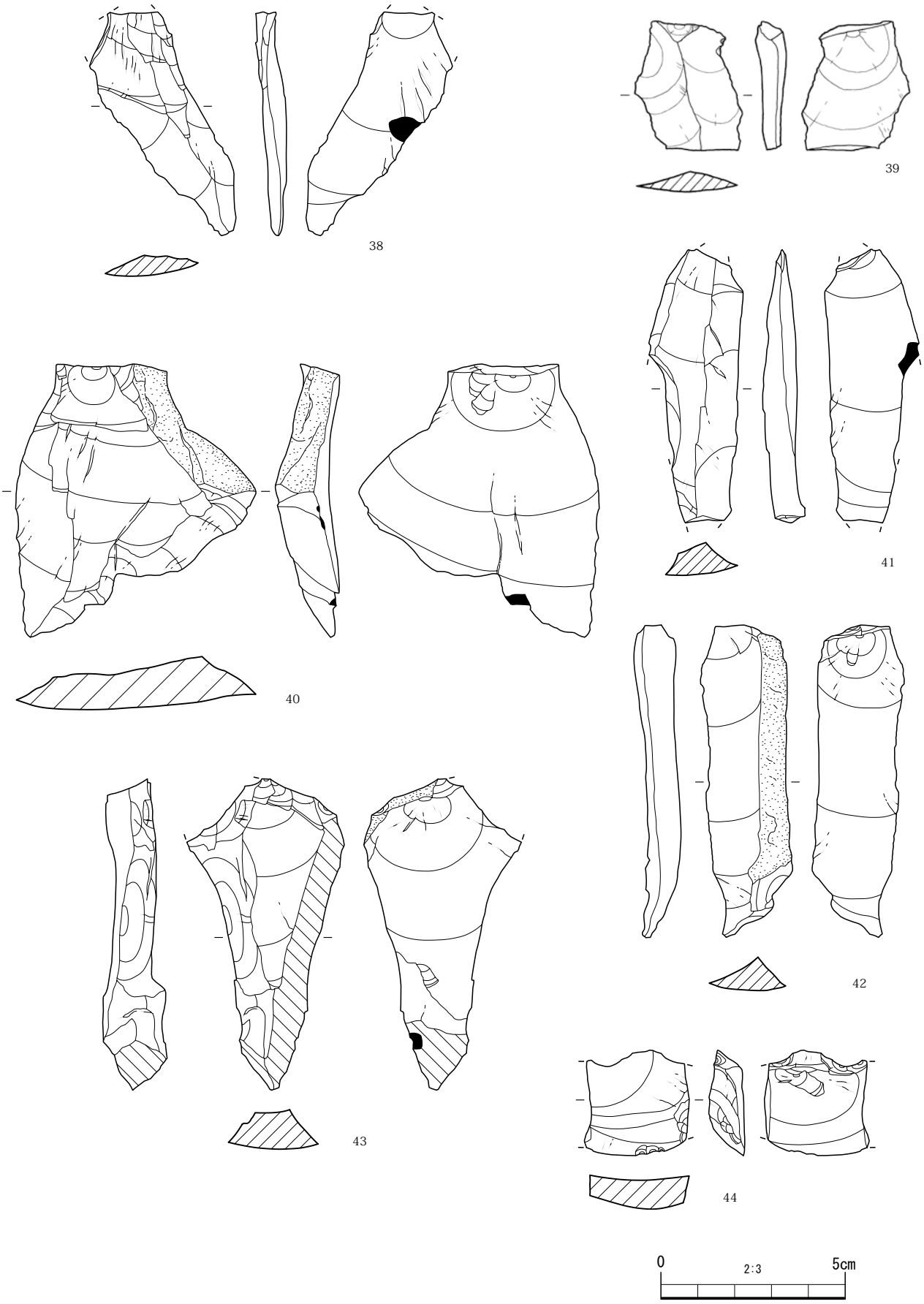
第 12 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)

いた可能性がある。

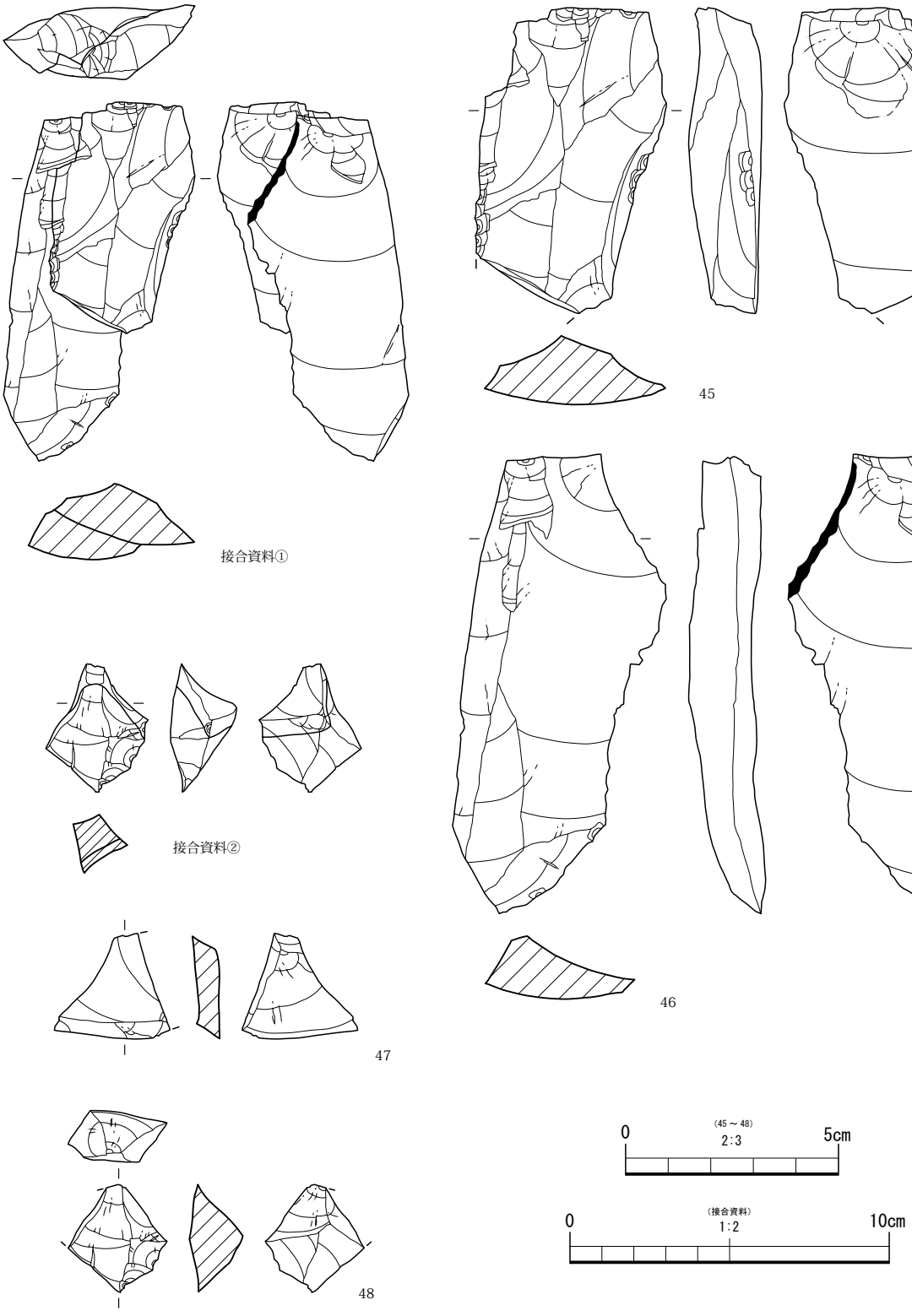
剥片尖頭器　剥片尖頭器は未成品、縄文時代早期包含層出土例も含め 10 点出土している。当遺跡で



第 13 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)

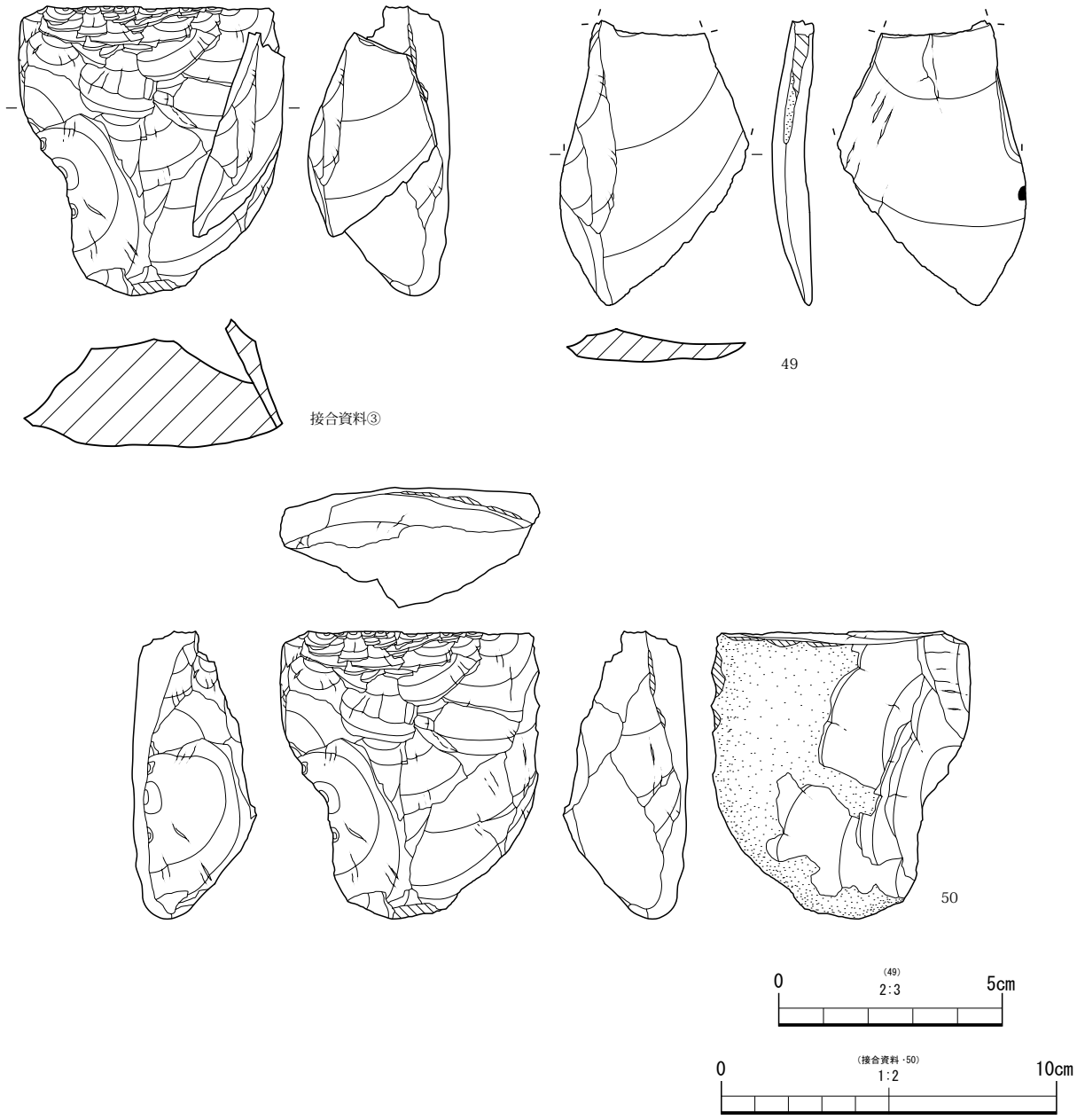


第 14 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



第 15 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3・S=1/2)

は長さが 8cm より大型の一群（7 ～ 9）、7cm 程度の中型の一群（14）、6cm 程度の小型の一群（10 ～ 13、93）に分類できる。7 ～ 11 はホルンフェルス製、12、13、93 は砂岩製、14 は頁岩、15 は流紋岩製である。7 は長さ 10.5cm と大型で、基部を茎状に大きく抉り平坦打面を有する。8、9 も基部を大きく抉るが、基部先端付近まで調整を施し尖らせている。10、11 は同じホルンフェルス製

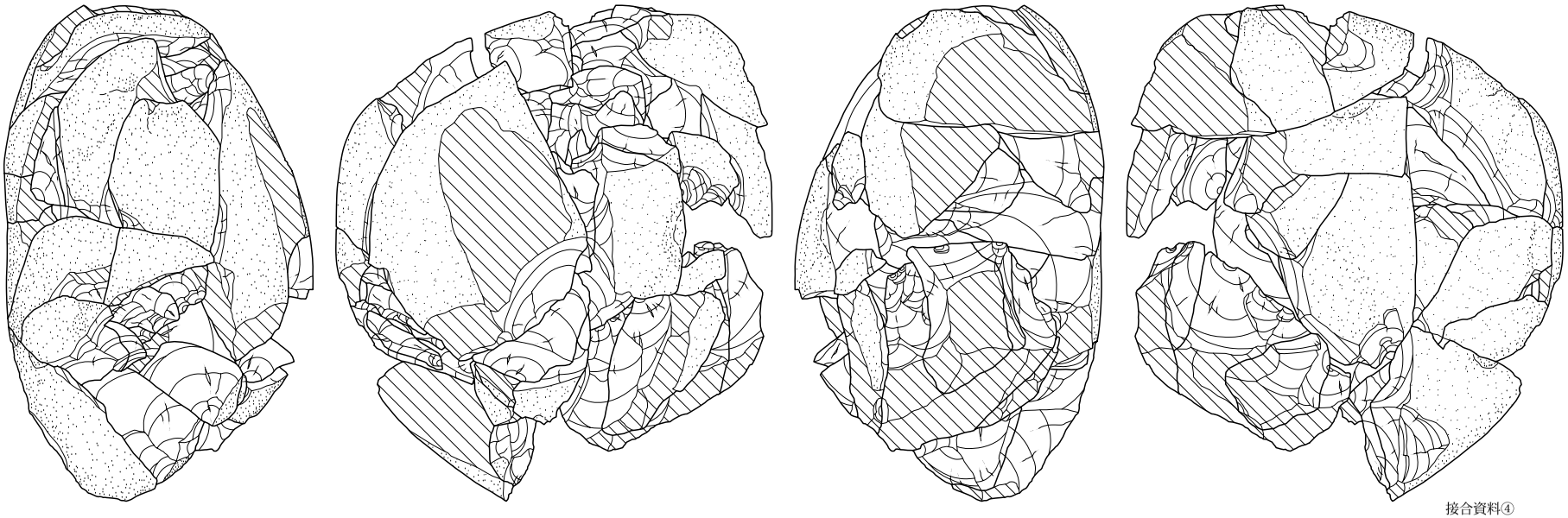


第 16 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3・S=1/2)

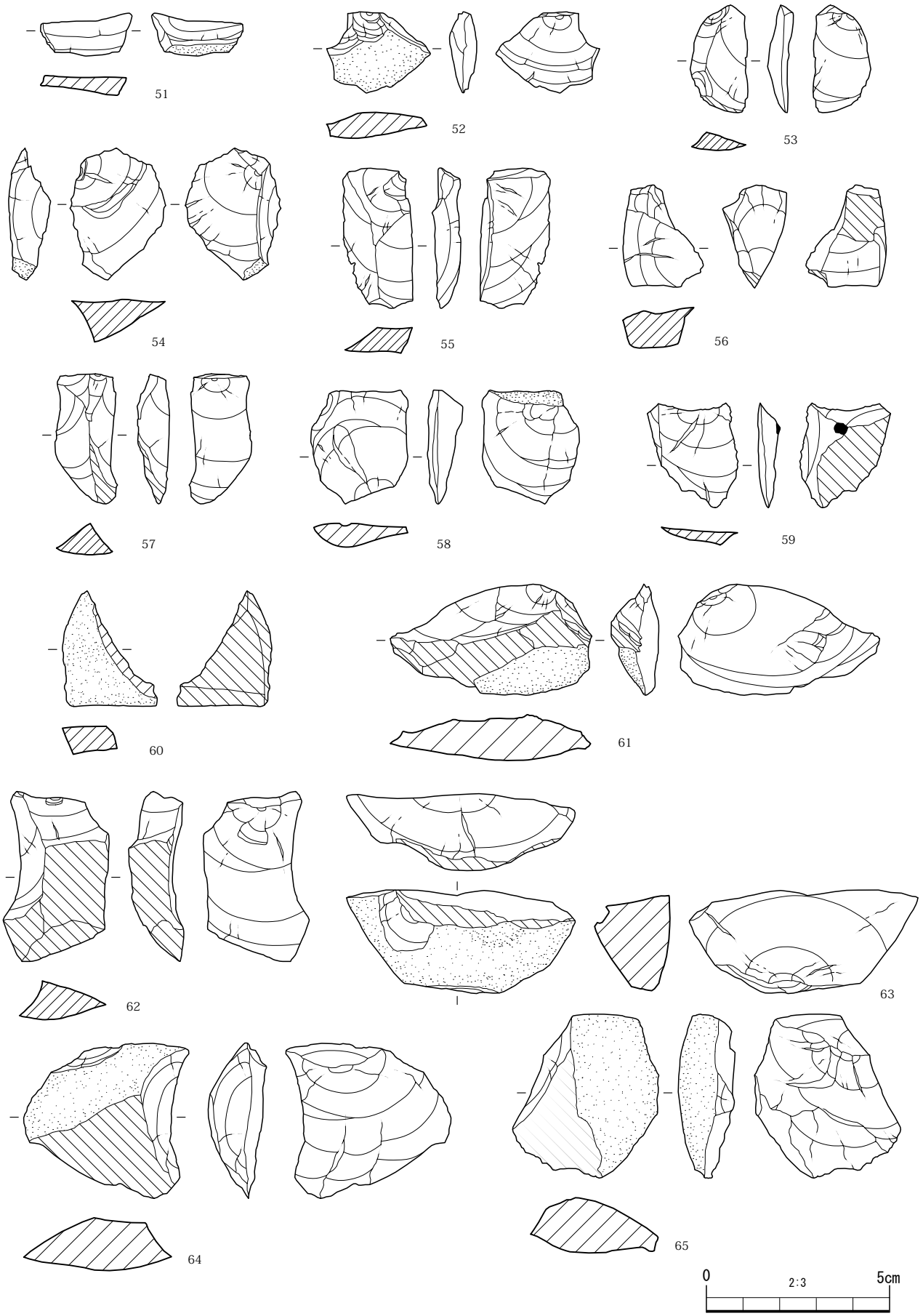
であるが大型の製品に比べ基部の抉りが甘く、明確な茎状になっていない。12 は左側縁に細かな調整を施す。小型の製品であるが基部の抉りは比較的明瞭で平坦打面を残す。13 は基部調整を途中で放棄した未成品である。14 は自然面を残した剥片を利用している。左側縁を中心に調整を施す。基部は右側縁を強く抉る。15 は基部を欠損した剥片尖頭器である。右側縁先端部付近に主要剥離面側からの調整がみられる。

ナイフ形石器　2点出土している。16は横長剥片を素材としたナイフ形石器の基部付近の破片である。細片のため全体的な形状は判然としない。17 は縦長剥片を素材としている。

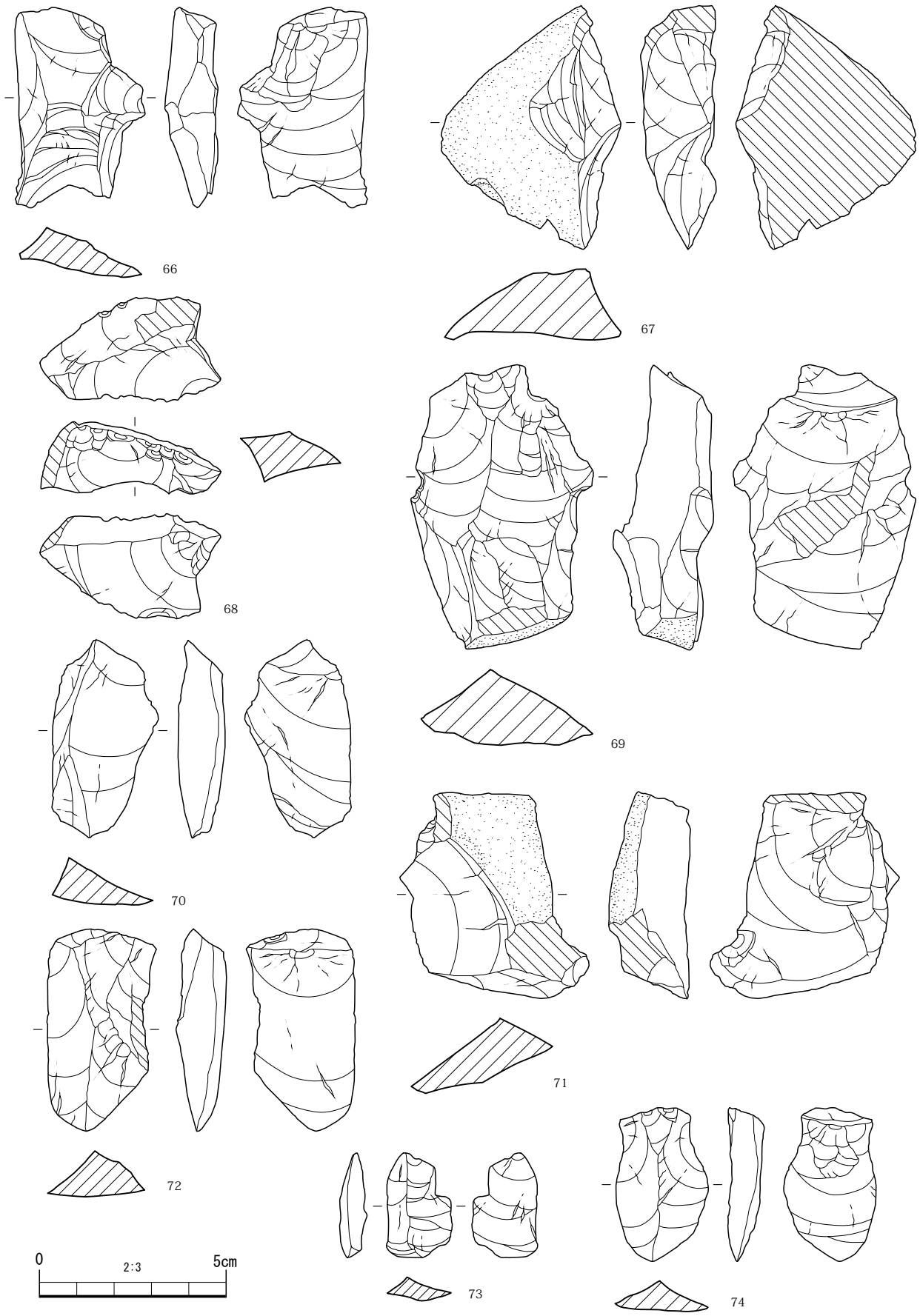
スクレイパー　7 点出土している。砂岩製で縦長剥片の 1 側縁のみに調整を施すもの（19、20）が特徴的である。22 は下端面に主要剥離面側から調整を施し刃部を作り出している。23 は頁岩製の縦長剥片の右側縁に調整を施し刃部を形成している。24 は自然面を大きく残した剥片の下端面に僅か



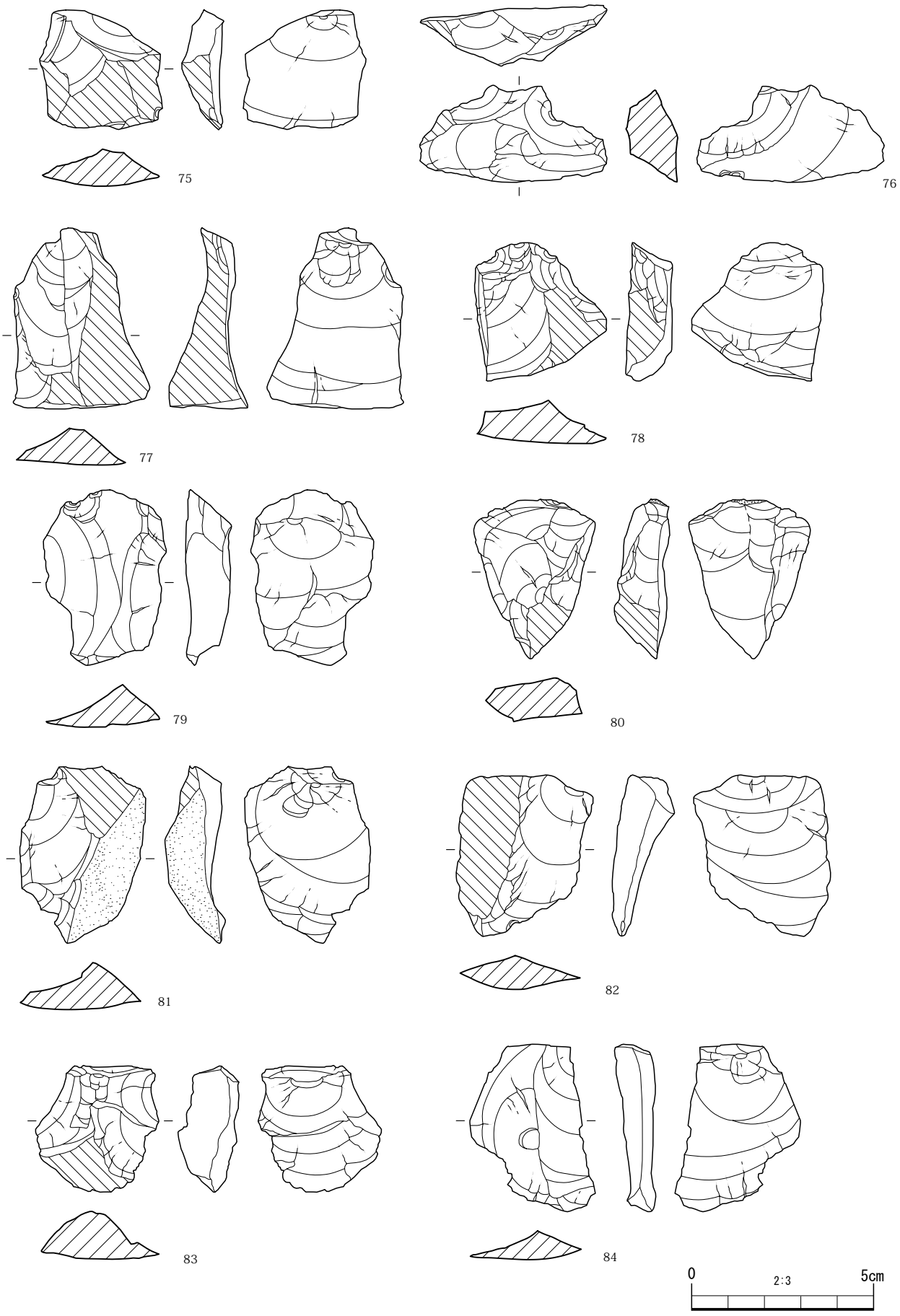
第 17 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=1/2)



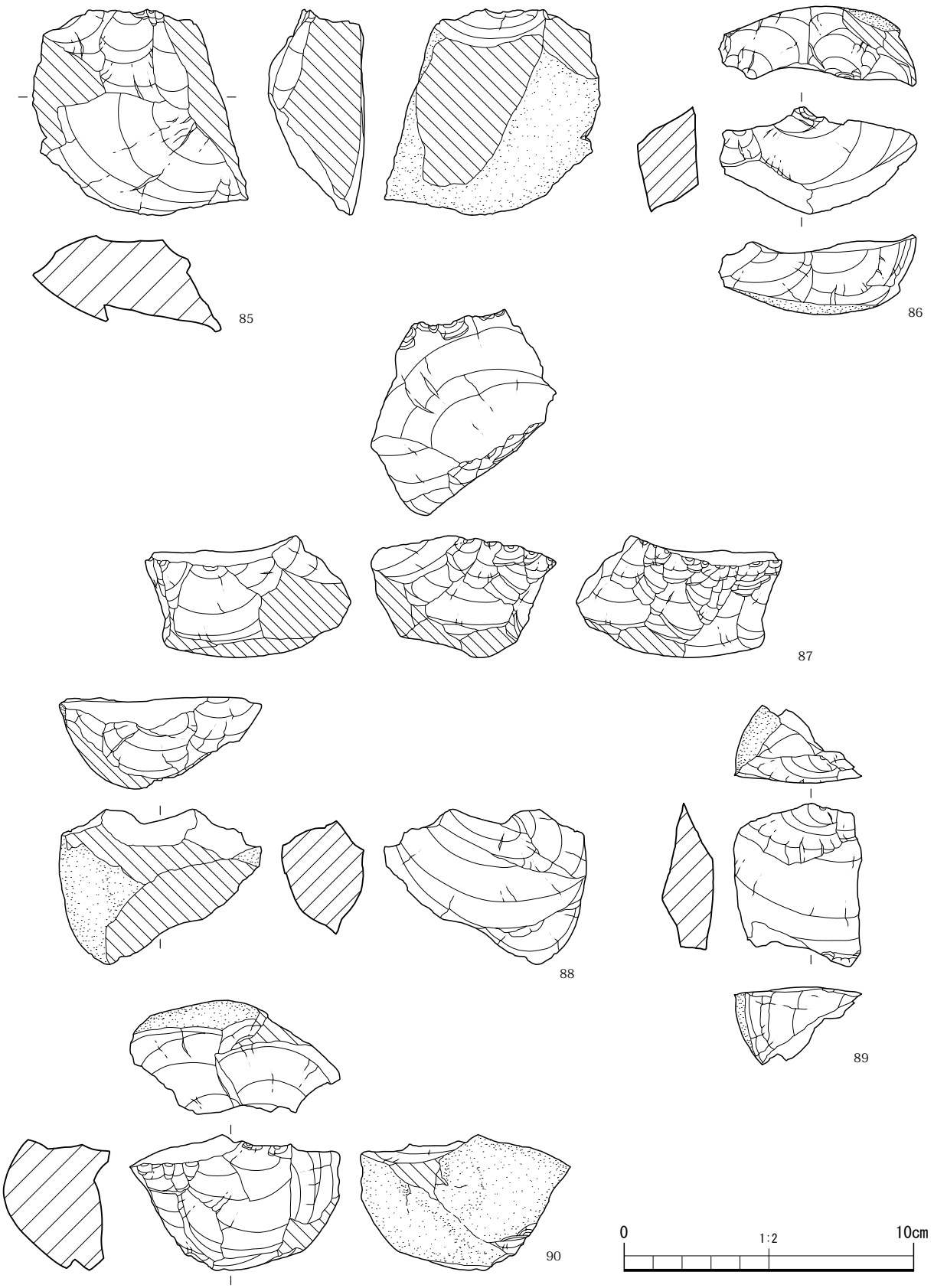
第 18 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3)



第 19 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=2/3)



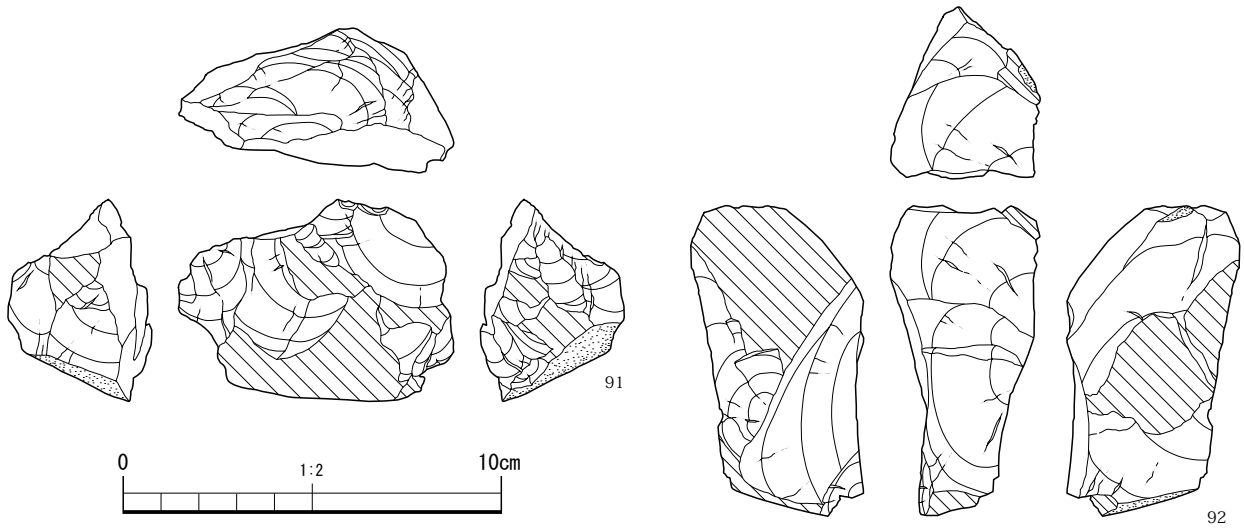
第 20 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=2/3)



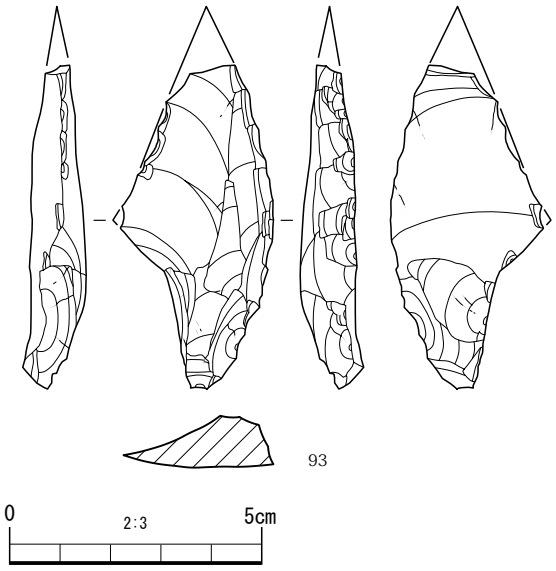
第 21 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=1/2)

に調整を施す粗雑な作りである。

敲石　7 点中 4 点の図化をおこなった。いずれも砂岩製であり角、小口を敲打面として使用するも



第 22 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑬ (S=1/2)



第 23 図　縄文時代早期包含層出土
旧石器時代石器実測図 (S=2/3)

の（25 ～ 27）と表裏面を敲打面として使用するもの（28）がある。28 は磨石としても使用している。

二次加工剥片・剥片　16 点を図化した。縦長剥片が大半を占めるが 1 点のみ横長剥片が出土している（44）。29 は右側縁と左側縁の一部に調整を施す。

接合資料　接合資料①は剥片 2 枚の接合資料である。砂岩製の縦長剥片で 45 は両側縁に微細な剥離が認められる。接合資料②は頁岩製の小型の剥片（47）、石核（48）の接合資料である。接合資料③は流紋岩製の剥片（49）と石核（50）の接合資料である。石核の上端面に細かな調整が施されている。接合資料④は流紋岩製で 34 点の剥片（51 ～ 84）と 8 点の石核（85 ～ 92）、総数 42 点が接合した。表面が赤化している部分があり、自然面を除去し易くするため、火にくべたものと想定される。接合した剥片の多くは自然面の除去により生じたものであり、出土地点において原礫から連続的に剥片を作り出したと考えられる。工程は大きく 3 つから成り、最初に自然礫を 2 分割し、その後各々の自然面を除去、作出された石核から縦長剥片を剥離するというものである。しかし製作者が意図した目的剥片が作出できなかったためか、多くの素材剥片が放棄され、ブロック内から出土している。素材剥片の長さは 4cm 前後（55、57 等）、5cm 前後（70、72 等）と比較的短いことから、本来は剥片尖頭器の素材となる程度のもう少し大型の剥片を作出することを目的としていた可能性がある。また基本的には縦長剥片を作出しているが、横長剥片（68）と石核（86）が接合しており、一母岩から縦長剥片と横長剥片を作出している。

縄文時代早期包含層出土旧石器時代遺物　93 は砂岩製の剥片尖頭器である。先端を欠損している。基部は左側縁を大きく抉り込み作り出されている。

第５節　縄文時代の遺構と遺物

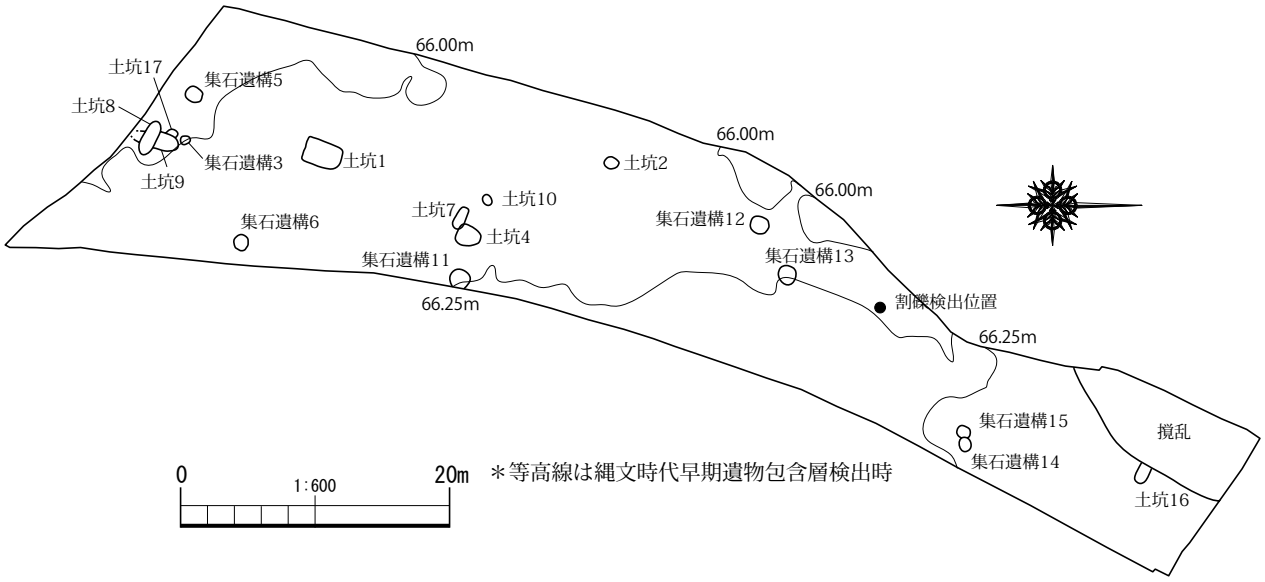
縄文時代早期の遺構は集石遺構８基、炉穴３基、陥し穴状遺構１基、土坑４基が検出された。集石遺構、炉穴、土坑は調査区中央から南側に主に分布し、遺物や礫の分布と概ね合致する。陥し穴状遺構は調査区の北端付近に位置し、周辺からは遺物、礫共に出土量は少ないことから、居住空間外であることがわかる。

第１項　集石遺構

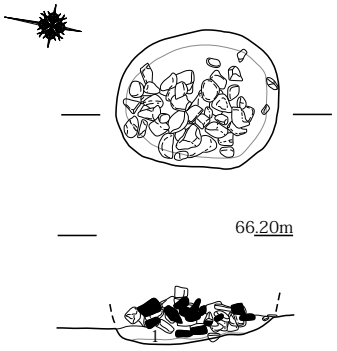
今回の調査では集石遺構が８基確認された。集石遺構は基本層序５層の遺物包含層を掘り下げていく過程で、散礫が集中する箇所を掘り下げていくと、掘り込みプランとともに、より礫が集中する形で検出された。そのため厳密には本来の掘り方を一部削平した状態で検出されている可能性もある。今回調査を行った８基の集石遺構はいずれも浅い掘り込みを有し、掘り方の底面よりやや浮いた位置から礫が検出されるものが中心となる。計測値等は第５表に掲載している。以下、特徴的な遺構のみ記載する。

集石遺構５　調査区の南端付近で集石遺構３の西側で検出された。平面形は円形で長軸が 1.08 ｍと本遺跡では平均的な規模である。掘り込みの形状は逆台形状で、断面図にはかかっていないが床面に張り付くような状態で礫が検出された。埋土内には多量の炭化物が含まれ、3cm 程度の炭化材も出土した。

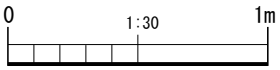
集石遺構 11　調査区南寄りの東側調査区壁にかかる形で検出された。平面形は円形を呈するとみられ、調査区内での長軸 1.35 ｍと本遺跡では大型の部類となる。礫は中央付近が窪むような状況で検出され、その内部には泥炭のような粘性の強い黒褐色の土が堆積していた。検出された礫をみると赤化礫は少数である。中央の窪みは礫を再利用など何らかの理由で抜き取り、そこを周囲の炭化物で埋めたため上記のような検出状況となった可能性がある。



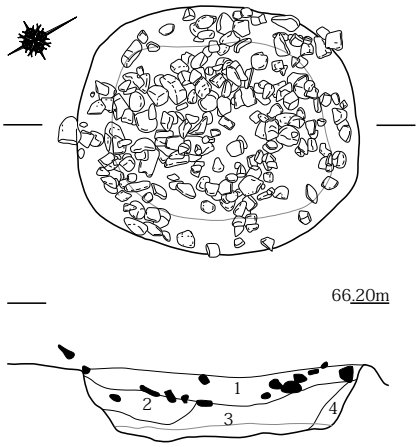
第24図　縄文時代早期遺構分布図(S=1/600)



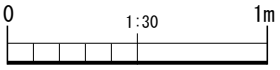
1.10YR5/6 黄褐色　締りやや弱い　粘性強い
　ローム　微量に炭化物含む。地山土と類似するが
　僅かに色調が暗く粘性が強い。



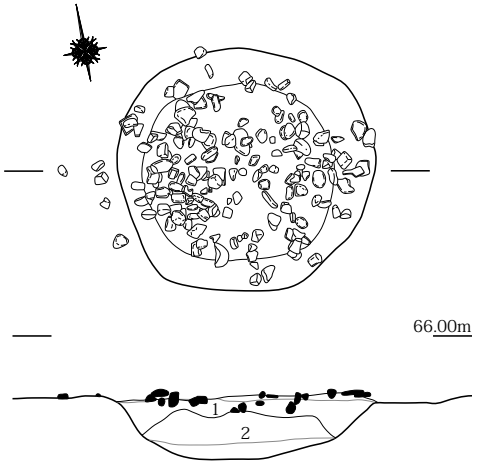
第25図　集石遺構3実測図(S=1/30)



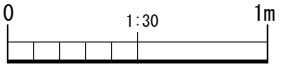
1.10YR3/4 暗褐色　締りやや弱い　粘性強い
　ローム　炭化物粒子微量に含む。
2.10YR2/3 暗褐色　締りやや弱い　粘性強い
　ローム　3cm以下の炭化物含む。
3.10YR2/2 黒褐色　締り強い　粘性強い
　ローム　霧島小林軽石混ロームブロック・炭化物含む。
4.10YR4/4 褐色　締りやや強い　粘性強い
　ローム　炭化物微量に含む。



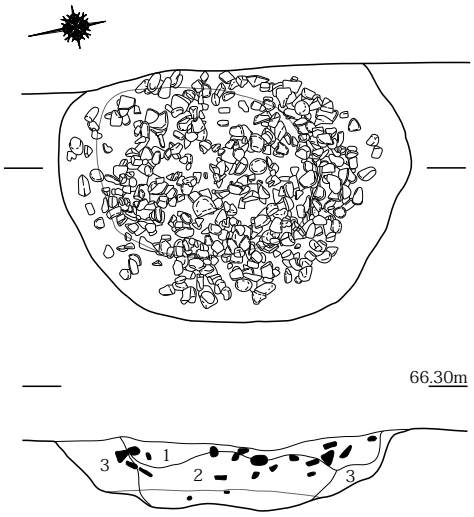
第26図　集石遺構5実測図(S=1/30)



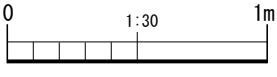
1.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや弱い
　シルト　炭化物微量に含む。
2.10YR3/2 暗褐色　締りやや強い　粘性やや弱い
　ローム　霧島小林軽石混ロームブロック少量、
　炭化物微量に含む。



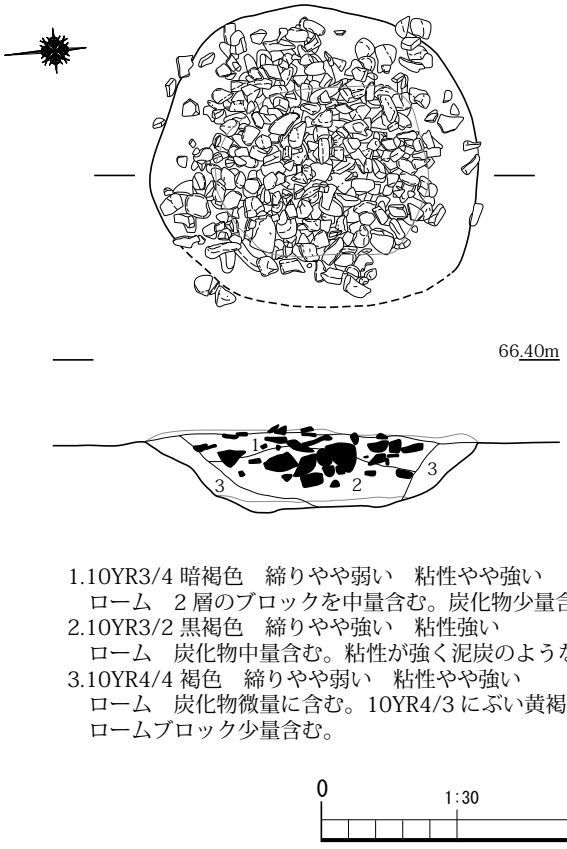
第27図　集石遺構6実測図(S=1/30)



1.10YR3/4 暗褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　2層のブロックを中量含む。炭化物少量含む。
2.10YR3/2 黒褐色　締りやや強い　粘性強い
　ローム　炭化物中量含む。粘性が強く泥炭のような層。
3.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　炭化物微量に含む。10YR4/3にぶい黄褐色
　ロームブロック少量含む。

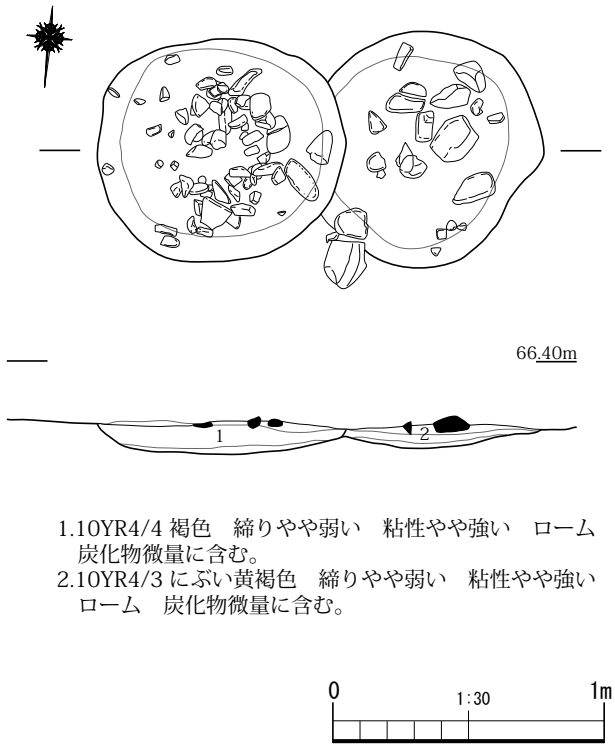


第28図　集石遺構11実測図(S=1/30)



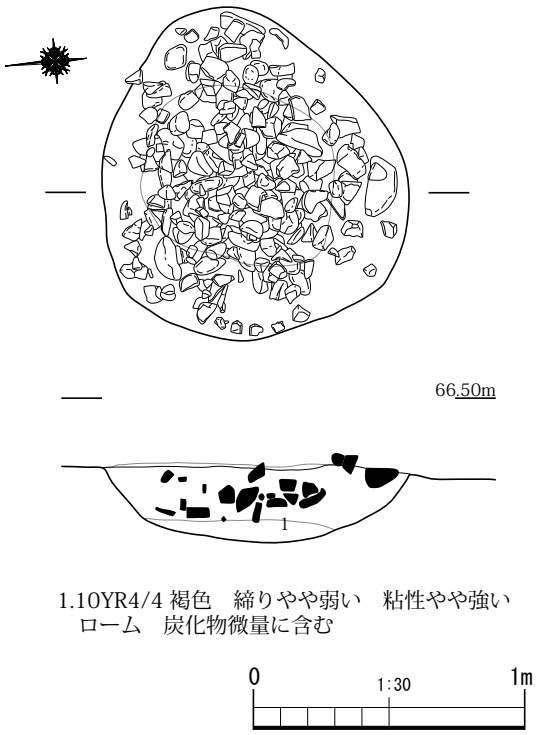
1.10YR3/4 暗褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　2 層のブロックを中量含む。炭化物少量含む。
2.10YR3/2 黒褐色　締りやや強い　粘性強い
　ローム　炭化物中量含む。粘性が強く泥炭のような層。
3.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　炭化物微量に含む。10YR4/3 にぶい黄褐色
　ロームブロック少量含む。

第 29 図　集石遺構 12 実測図 (S=1/30)



1.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム
　炭化物微量に含む。
2.10YR4/3 にぶい黄褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　炭化物微量に含む。

第 31 図　集石遺構 14･15 実測図 (S=1/30)



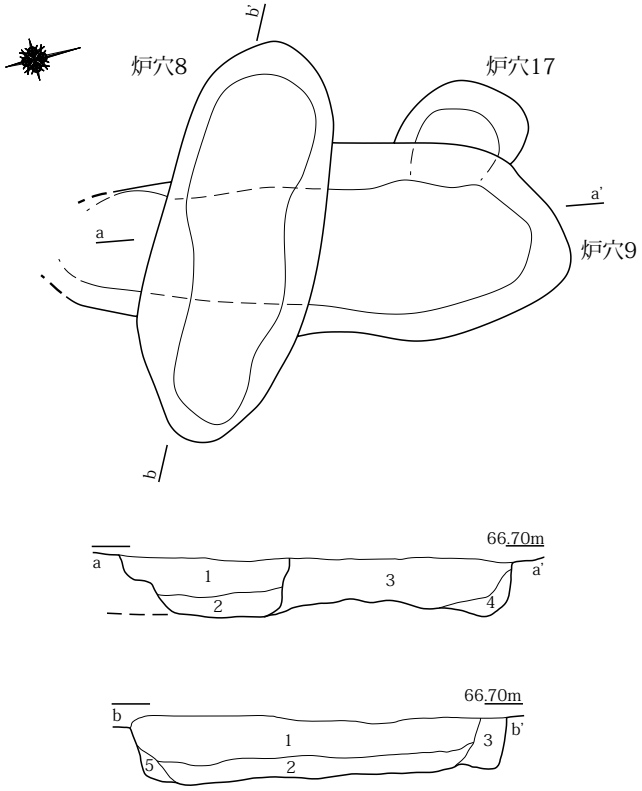
1.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い
　ローム　炭化物微量に含む

第 30 図　集石遺構 13 実測図 (S=1/30)

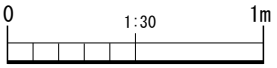
集石遺構 12　調査区の北西側で検出された。平面は円形で長軸 1.21 m と本遺跡では大型の部類である。礫が密に検出され、礫の総重量が 82.15kg と本遺跡では最も多い。使用される礫も集石遺構 11 と比較するとやや大振りのものが使用されている。埋土内からは一定量の炭化物が検出され、粘性の強い泥炭状の埋土も確認されている。

第 2 項　炉穴

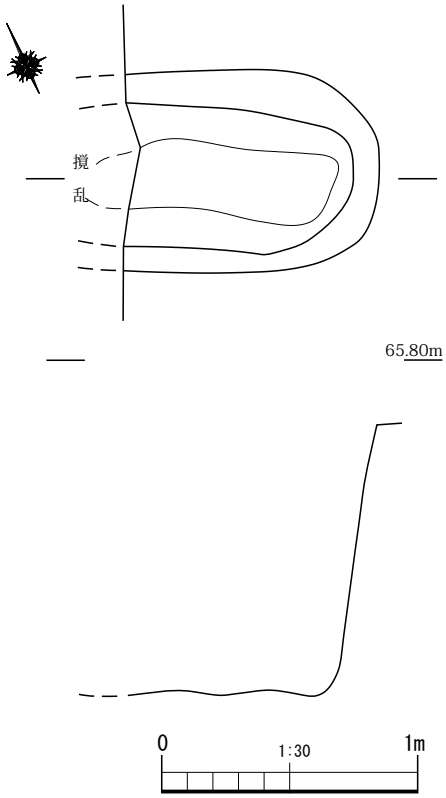
今回の調査では 3 基の炉穴が切り合う形で調査区の南端付近で検出された。試掘トレンチと重なっていたため、当初は霧島小林軽石混ローム層（基本層序第 6 層）がトレンチ底で検出されているものとの認識であったが、周囲の遺物包含層を掘り下げ、トレンチ底面とレベルが等しくなったにもかかわらず、周囲は霧島小林軽石を含む暗褐色土のブロックが疎らに見られる程度であったため遺構と認定し調査をおこなった。上記の理由から遺構



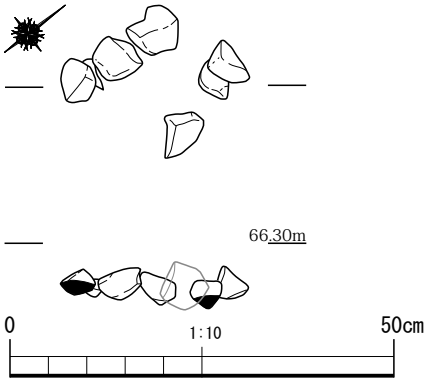
1.10YR3/4 暗褐色　締り強い　粘性やや強い　ローム
　炭化物微量に含む。
2.10YR4/6 褐色　締り強い　粘性弱い　シルト
　炭化物（微量～多量）に含む。
3.7.5YR4/6 褐色　締り強い　粘性弱い　ローム
　霧島小林軽石混ロームブロック・黄褐色土ブロック多量に含む。
4.10YR4/4 褐色　締り強い　粘性弱い　ローム
　黄褐色土ブロック微量に含む。
5.10YR5/6 黄褐色　締りやや強い　粘性弱い　ローム
　炭化物微量に含む。



第 32 図　炉穴 8・9・17 実測図 (S=1/30)



第 33 図　陥し穴状遺構 16 実測図 (S=1/30)

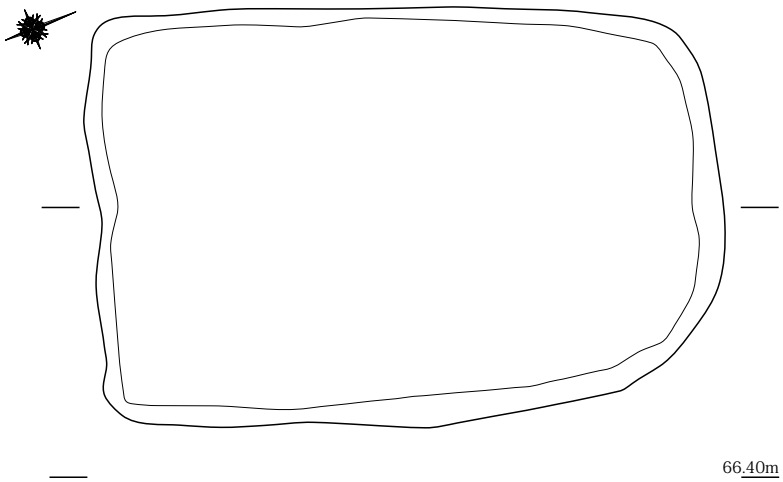


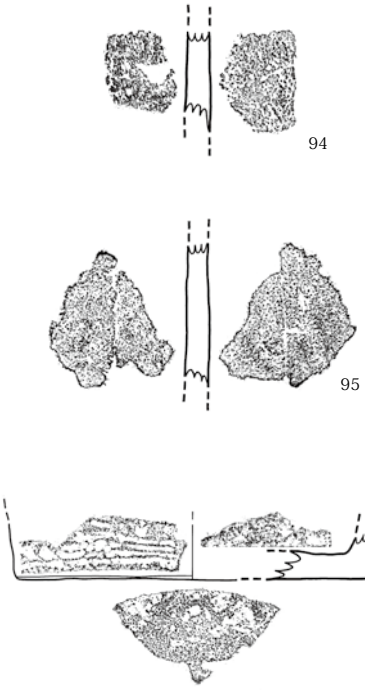
第 34 図　割礫実測図 (S=1/10)

掘削面は不明瞭であるが 5 層下位と思われる。埋土は霧島小林軽石混ロームが主体となる。試掘時の状況をみると、遺構上面付近で多数の焼けた礫が検出されている。

炉穴 8　切り合いの関係から 3 基の中で最も後出する炉穴である。平面形は長楕円形で、長軸 1.48 m、短軸 0.6 m、検出面からの深さ 0.22 mを測る。埋土内からは炭化物は検出されたものの、焼土は東側で僅かに検出された程度である。埋土内から数点の焼けた礫が出土した。

炉穴 9　遺構の南側が調査区外へと延びている。平面形は長楕円形で長軸検出長 1.8 m、短軸 0.7 m、検出面からの深さ 0.2 mを測る。埋土は南側を中心に炭化物、焼土が検出され、南側調査区壁付近で遺構壁面が僅かに被熱している状況が確認された。このことから燃焼部は南側に位置していたと

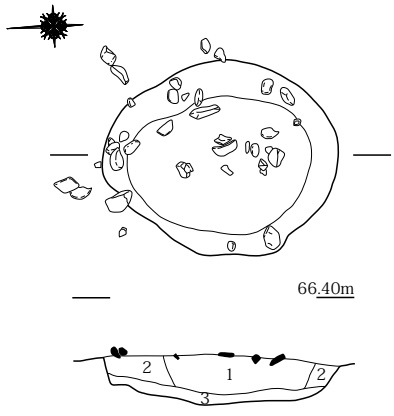




1.10YR5/6 黄褐色　締りやや強い　粘性やや強い　ローム
　牛の脛ロームブロック中量含む。
2.10YR5/6 黄褐色　締りやや弱い　粘性強い　ローム
　地山土と類似するがやや軟らかい。

0　1:30　1m　　0　1:3　10cm

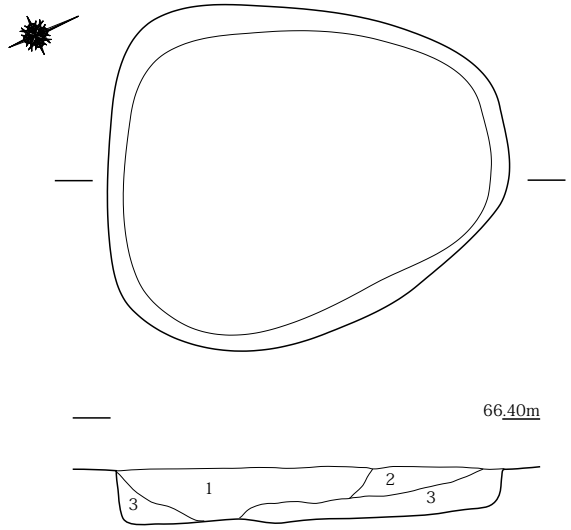
第 35 図　土坑 1 実測図 (S=1/30)、出土土器実測図 (S=1/3)



1.10YR4/3 にぶい黄褐色　締りやや強い
　粘性やや強い　ローム　炭化物少量含む。
2.10YR4/6 褐色　締りやや強い
　粘性やや強い　ローム　炭化物微量に含む。
3.10YR4/4 褐色　締りやや強い
　粘性やや強い　ローム　炭化物微量に含む。

0　1:30　1m

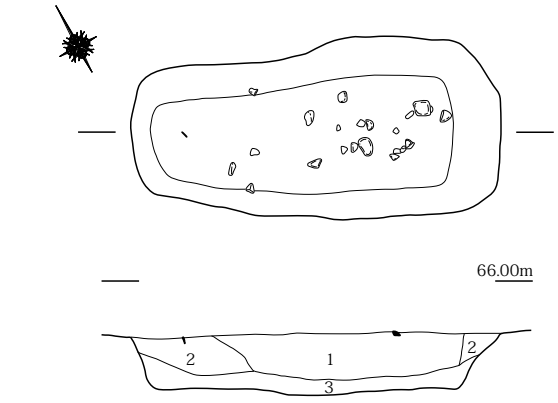
第 36 図　土坑 2 実測図 (S=1/30)



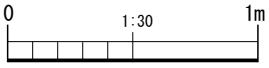
1.10YR4/4 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム
　少量の炭化物含む。
2.10YR4/6 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム
　牛の脛ロームブロック少量含む。
3.10YR5/6 黄褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム
　地山土に類似するが色調がやや暗い。

0　1:30　1m

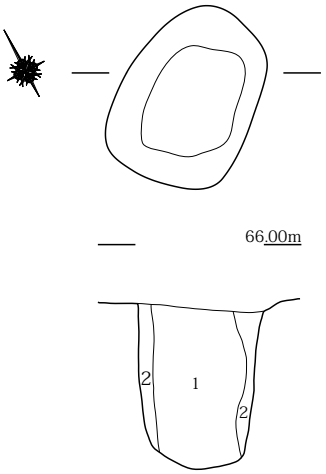
第 37 図　土坑 4 実測図 (S=1/30)



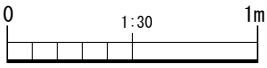
1.10YR3/4 暗褐色　しまり強い　粘性やや強い　ローム
　霧島小林軽石混ロームブロック径10㎝以下多量に含む。炭化物中量含む。
2.10YR4/6 褐色　締りやや弱い　粘性やや強い　ローム
　霧島小林軽石混ロームブロック径5㎝以下少量含む。炭化物微量に含む。
3.10YR4/6 褐色　締りやや強い　粘性やや強い　ローム
　霧島小林軽石混ロームブロック径3㎝以下少量含む。炭化物微量に含む。



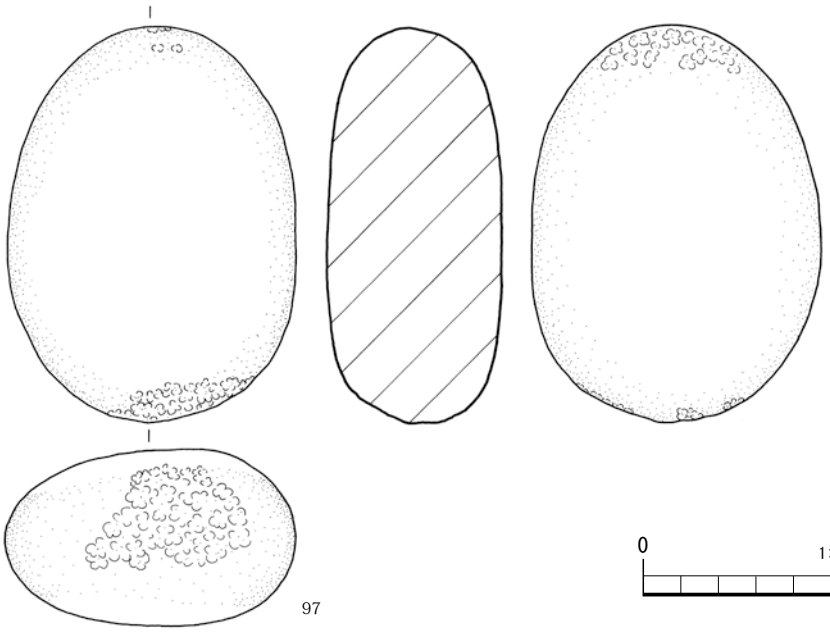
第 38 図　土坑 7 実測図 (S=1/30)



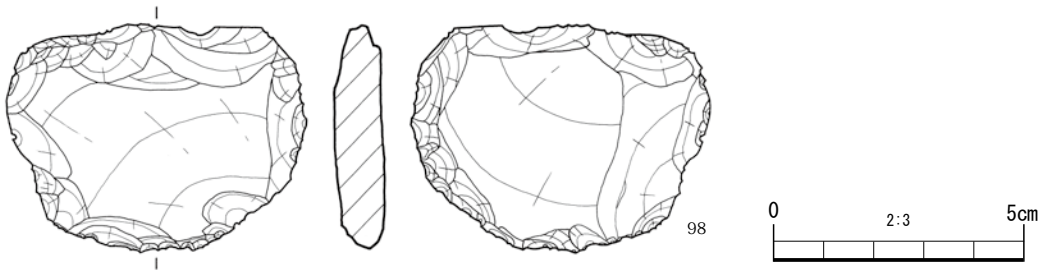
1.10YR3/3 暗褐色　締り硬い　粘性弱い　ローム
　霧島小林軽石混ロームブロック主体土。
　クラックに褐色ローム入る。
2.10YR3/4 暗褐色　締りやや強い　粘性弱い　ローム
　1層と類似するが色調がやや明るく柔らかい。



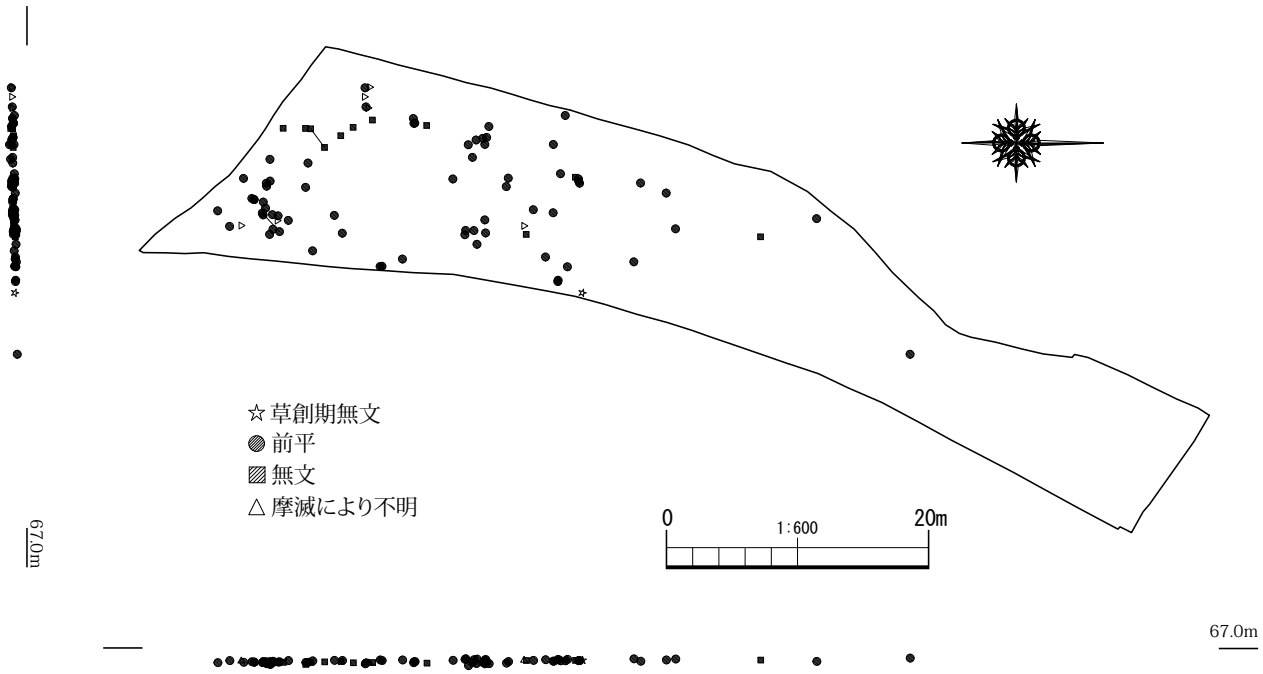
第 39 図　土坑 10 実測図 (S=1/30)



第 40 図　土坑 7 出土石器実測図 (S=1/2)



第 41 図　土坑 10 出土石器実測図 (S=2/3)



第42図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図(S=1/600)

考えられる。

炉穴 17　炉穴 2 に切られているため規模は不明であるが、検出状況からかなり小規模な炉穴と思われる。埋土は炉穴 2 に類似する。

試掘時に炉穴直上で前平式土器が出土しており、炉穴に帰属する可能性が高いが、詳細な位置関係が不明であるため試掘時の土器として第 45 図において掲載している。

第 3 項　陥し穴状遺構

本調査では 1 基のみの検出となった。

陥し穴状遺構 16　調査区の北端付近で撹乱に一部切られる形で検出された。検出層は 5 層下位であるが掘削途中に降雨で水没し、肩口が崩落してしまったため、検出面よりもやや下げた位置で図化をおこなっている。平面形は楕円形を呈すると思われ、長軸検出長 0.9 m、短軸 0.74 m、深さは 1.0 m以上となる。底面からは逆茂木痕は検出されていないが、遺構の形状から陥し穴状遺構と認定した。埋土は霧島小林軽石混ローム層を主体とし硬質である。

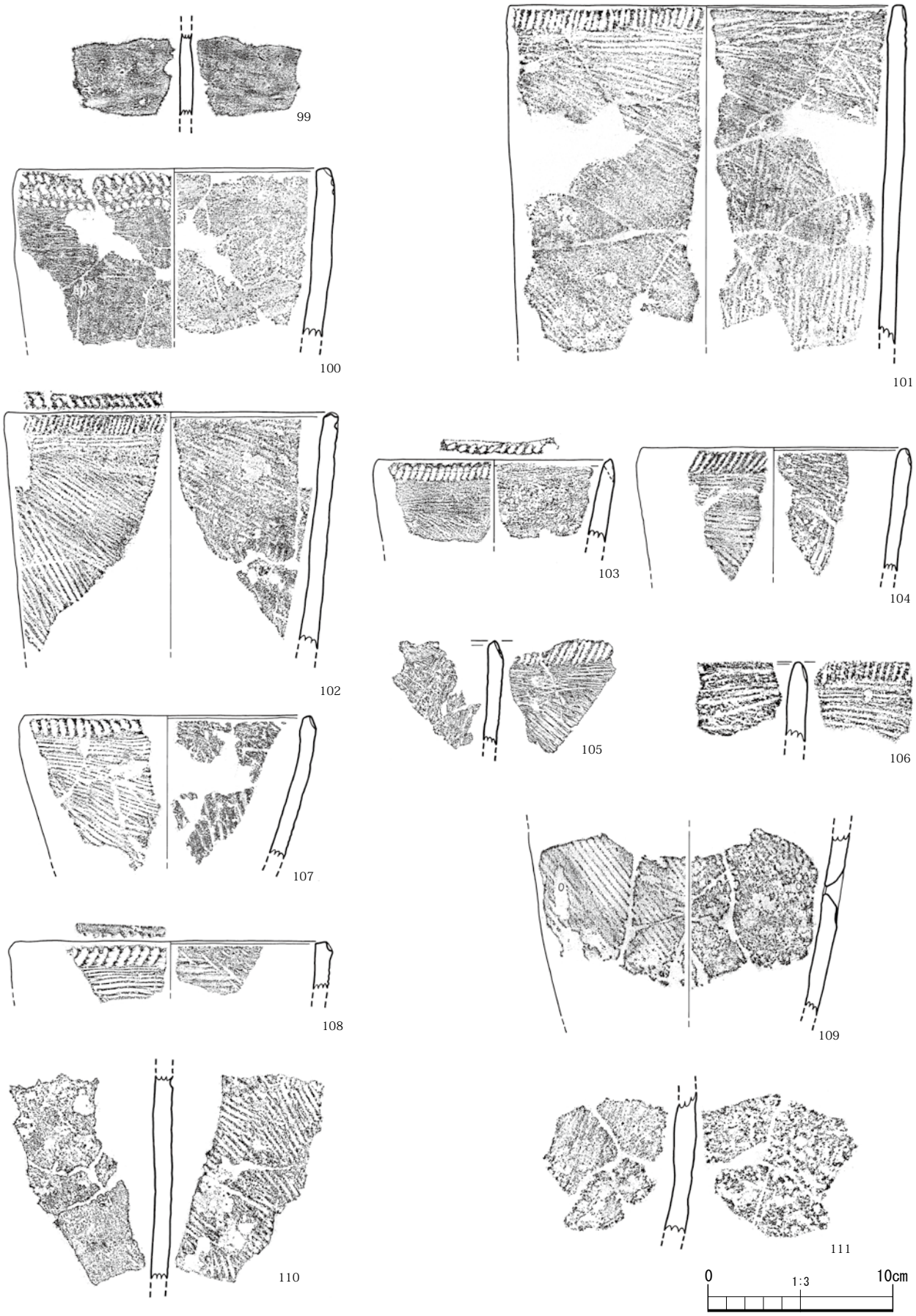
遺物は出土していない。

第 4 項　土坑

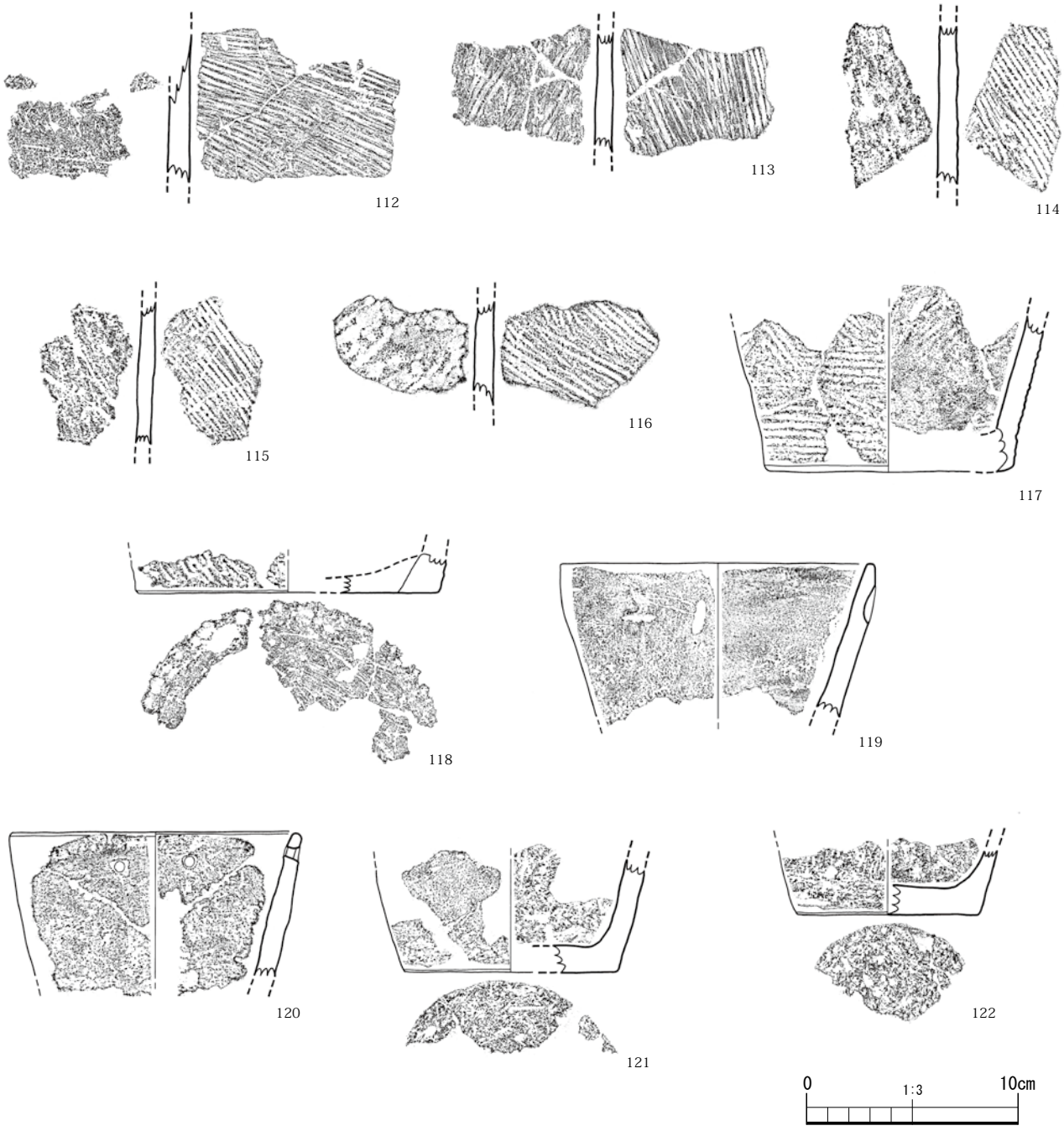
今回の調査では 5 基の用途が不明瞭な土坑が検出された。

土坑 1　調査区の南側で検出された。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.36 m、短軸 1.5 m、検出面からの深さ 0.22 mを測る。断面形は皿状を呈する。

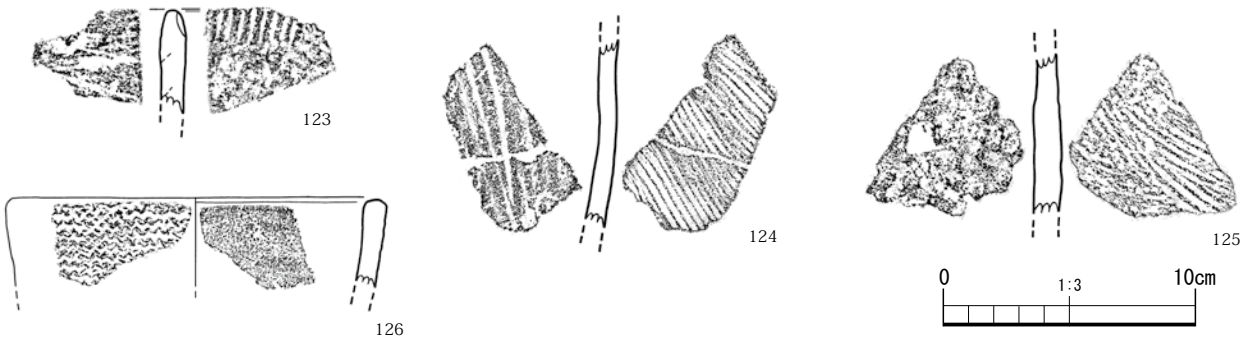
遺物は土器片が少量出土し、3 点の図化をおこなった。94、95 は内外面ともにナデ調整の土器である。96 は前平式土器底部片である。



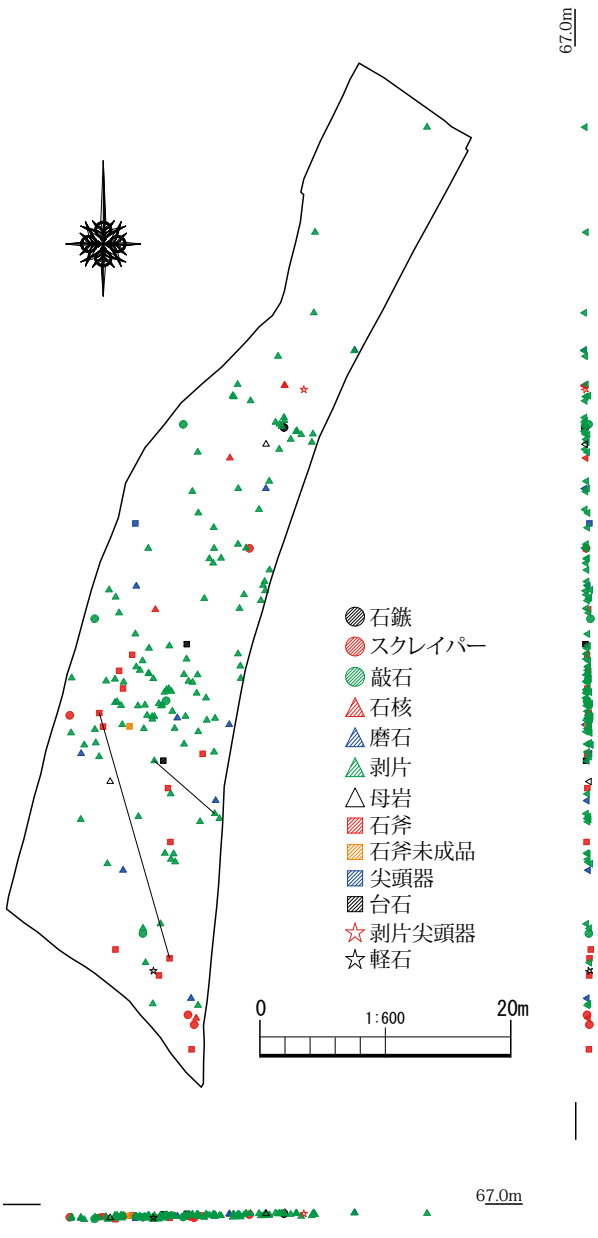
第 43 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



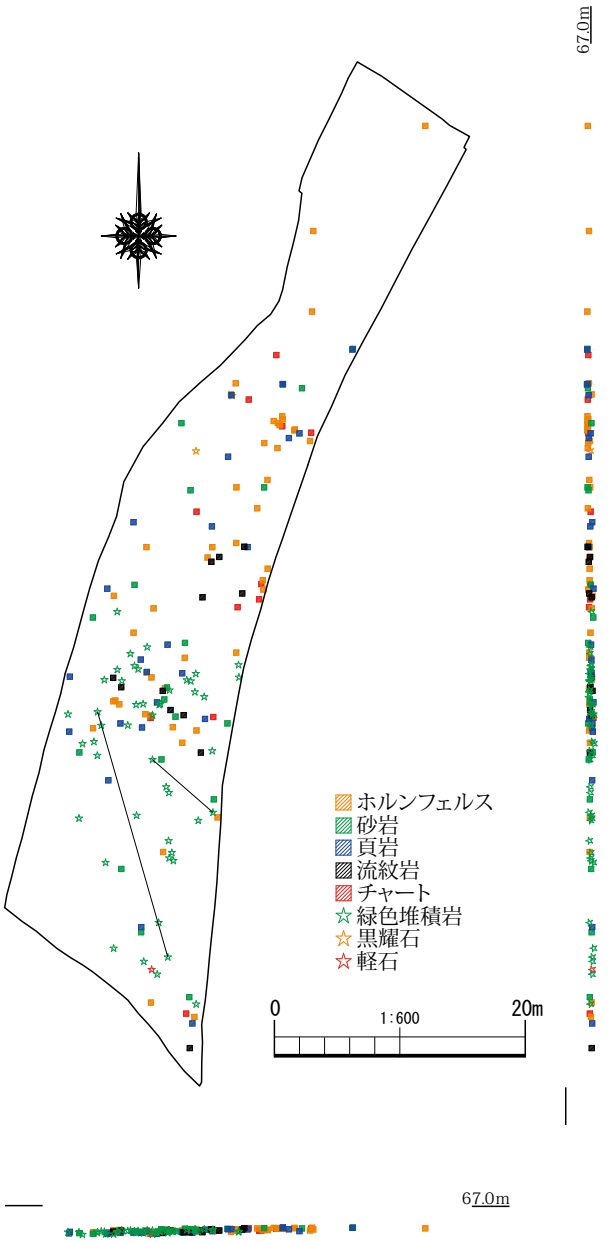
第 44 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



第 45 図　試掘トレンチ・表土出土土器実測図 (S=1/3)



第46図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図①
(S=1/600)

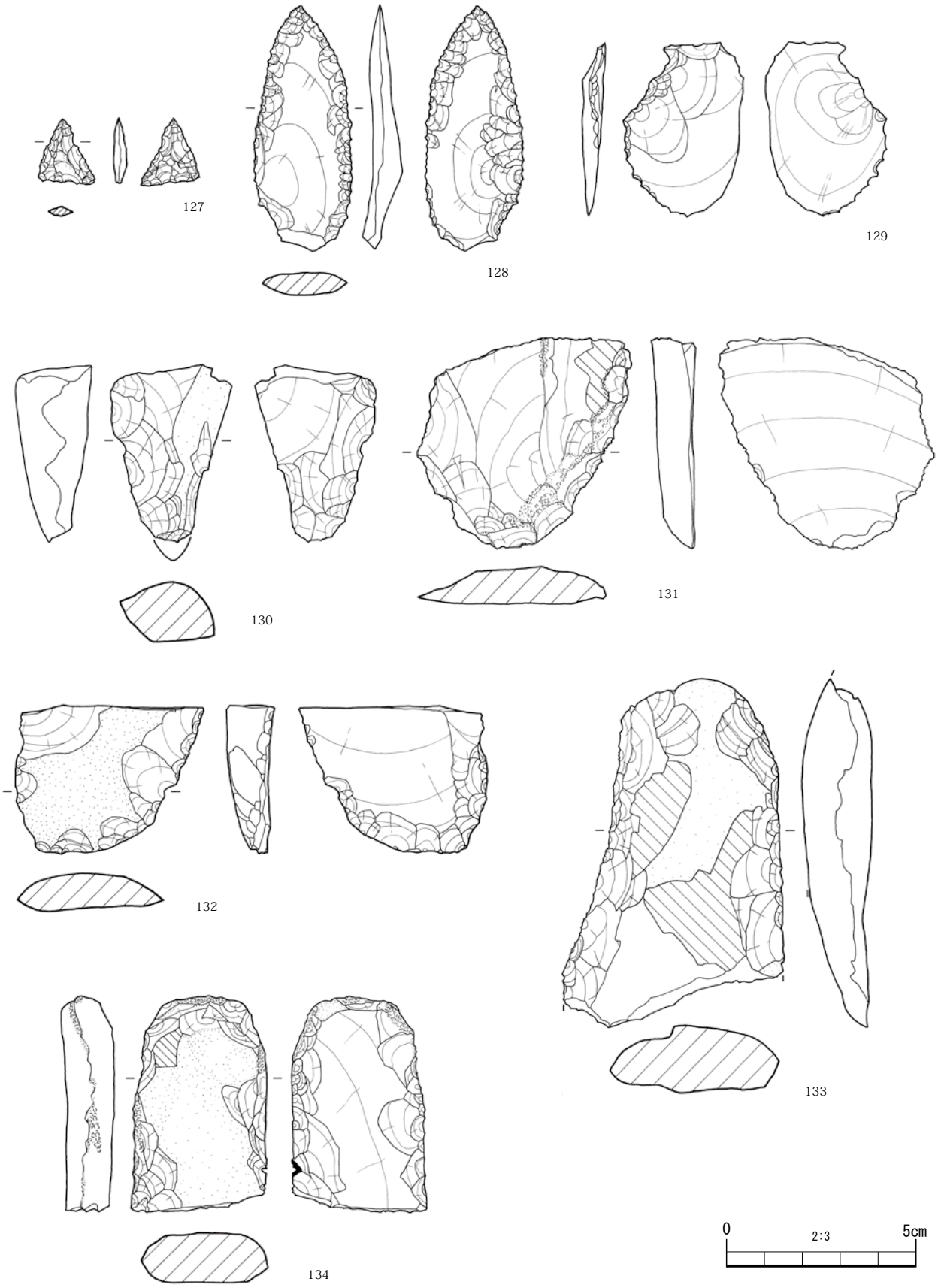


第47図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図②
(S=1/600)

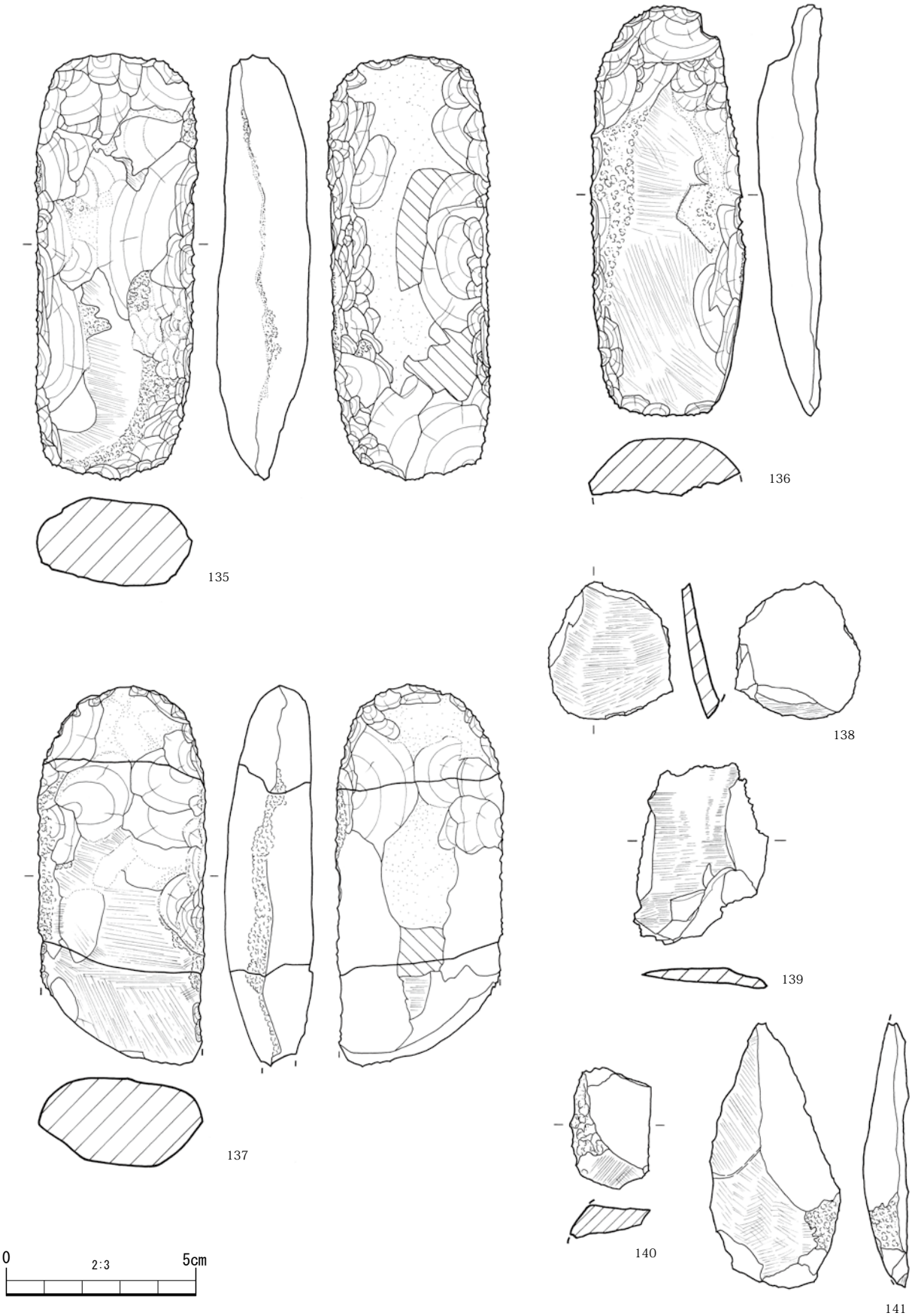
土坑 2　調査区の中央西寄りで検出された。検出時は礫が纏まっている状況が確認されたため集石遺構を想定したが、半裁した段階で下層から全く礫が検出されなかったことから土坑と認定した。平面形は楕円形で長軸 0.88 m、短軸 0.72 m、検出面からの深さ 0.18 mを測る。断面形は逆台形状を呈す。埋土内からは少量であるが炭化物が検出されている。

土坑 4　調査区の中央東寄りで検出された。平面形は隅丸三角形で長軸 1.48 m、短軸 1.25 m、検出面からの深さ 0.21 mを測る。断面は壁面が垂直に近い形で立ち上がる。埋土内からは少量の牛の脛ロームブロックと炭化物が検出されている。

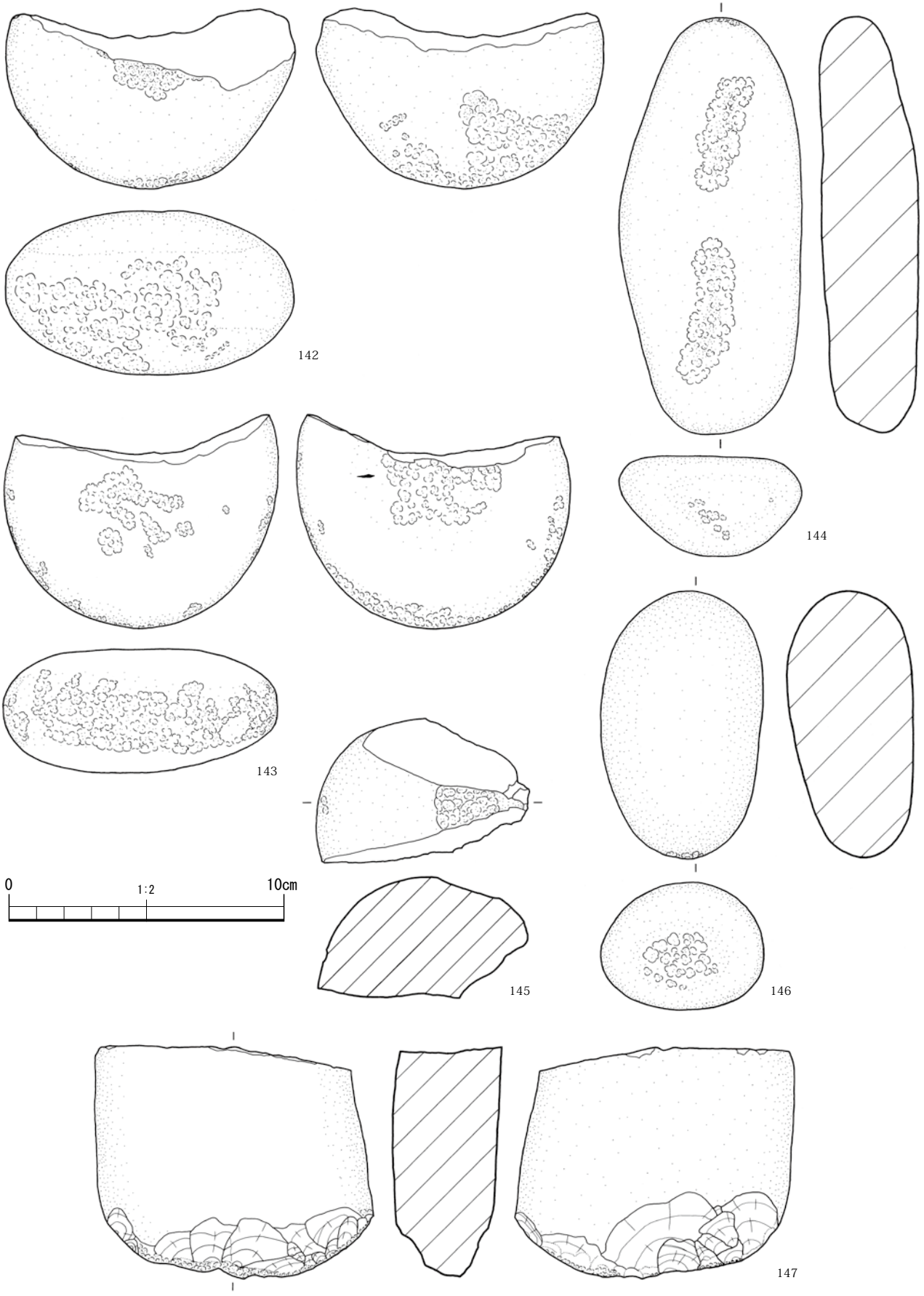
土坑 7　調査区の中央付近で検出された。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.38 m、短軸 0.67 m、検出面からの深さ 0.23 mを測る。断面形は逆台形状を呈す。遺構上位層において礫が出土している。埋



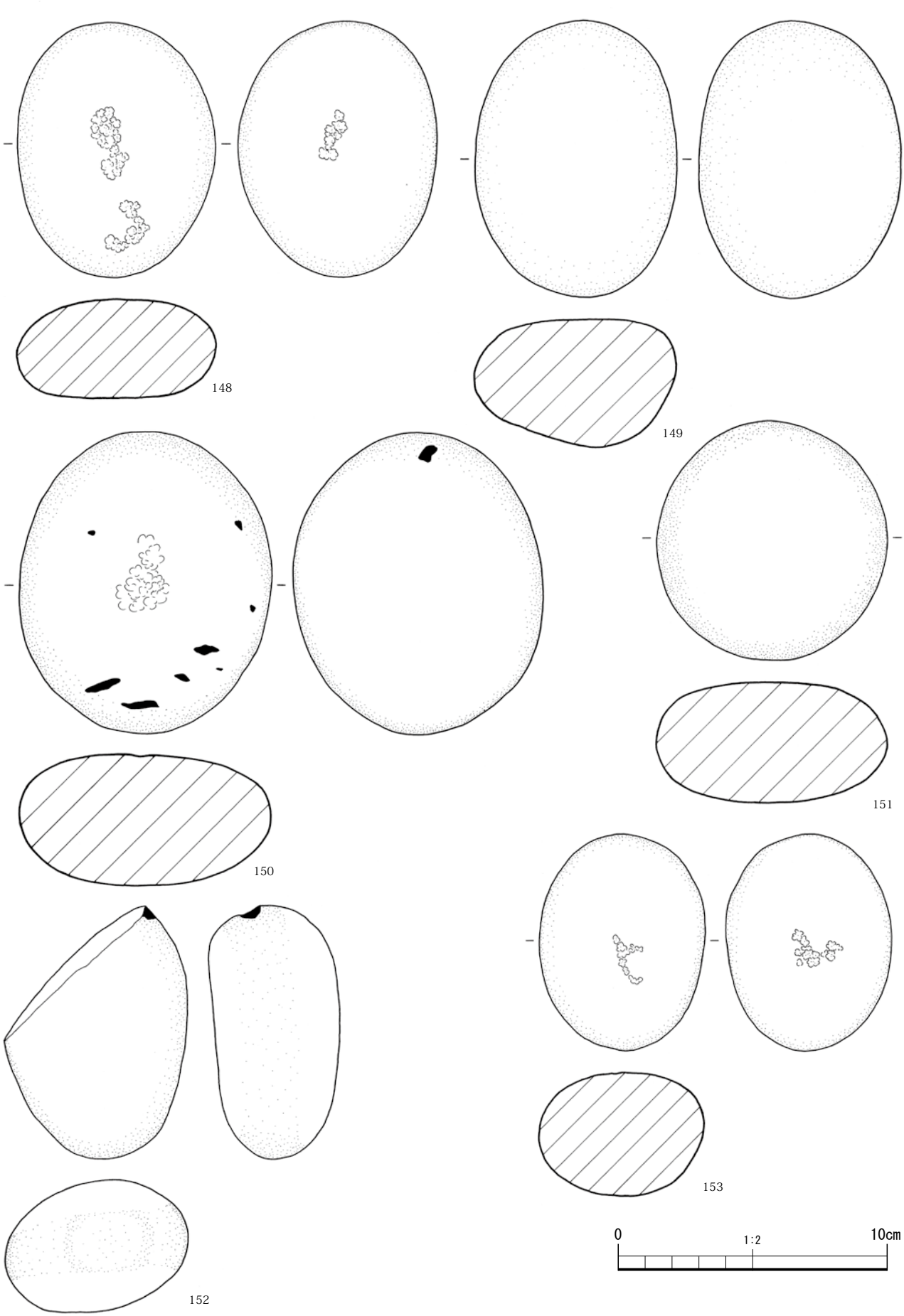
第 48 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



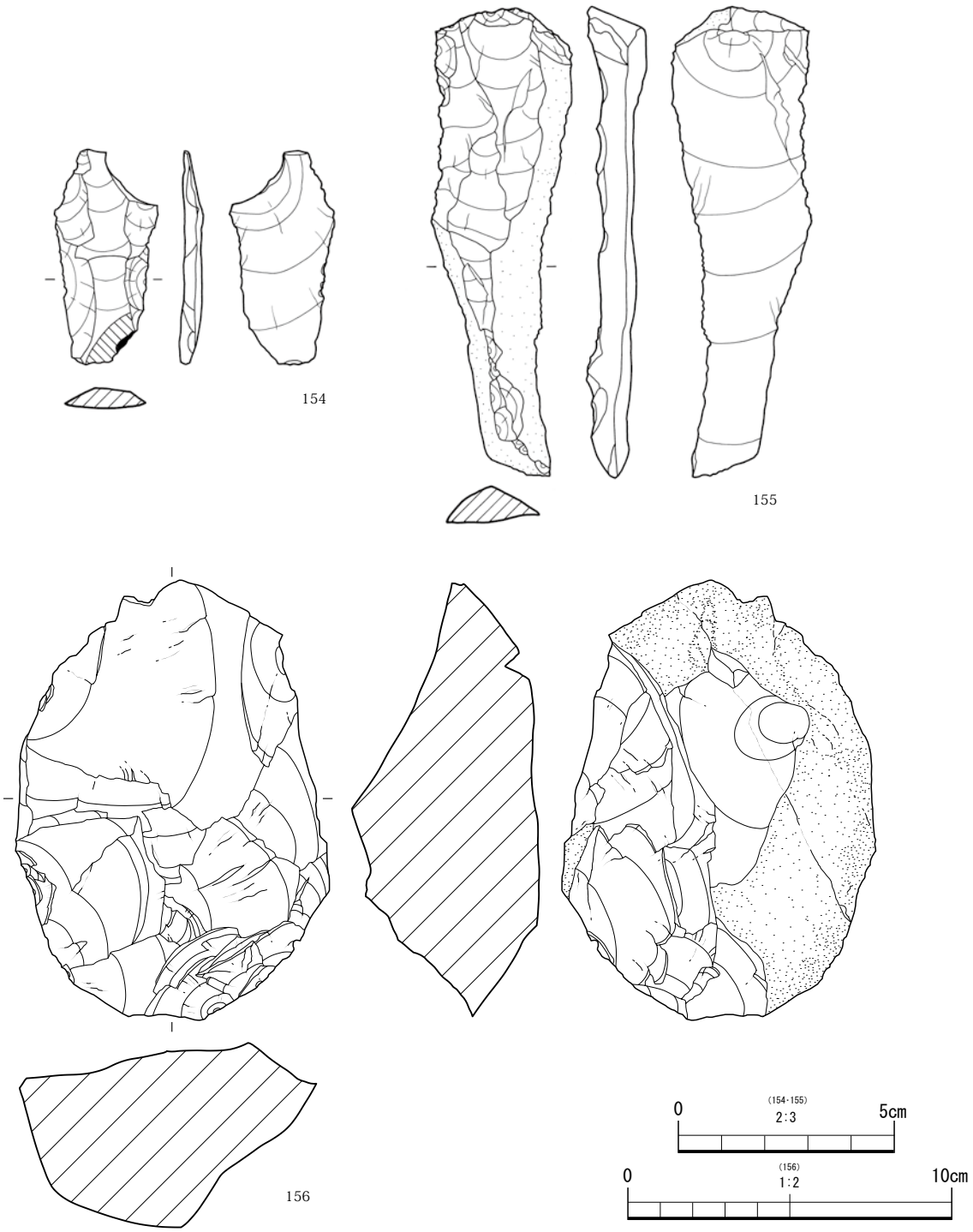
第 49 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



第 50 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=1/2)



第 51 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=1/2)



第 52 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=1/2)

土は霧島小林軽石混ロームのブロックを含み、炭化物も上位層で多くみられる。

遺物は 97 の敲石が出土している。長軸の両端に敲打痕が顕著にみられる。

土坑 10　調査区の中央付近で検出された。平面形は歪な楕円形で断面形状からはピットとすべきかもしれない。長軸 0.68 m、短軸 0.5 m、検出面からの深さ 0.6 mを測る。埋土は霧島小林軽石混ロームを主体とする。

遺物は 98 のスクレイパーが出土した。

第53図　縄文時代早期遺物包含層出土礫分布図(S=1/600)

第５項　包含層等出土遺物

土器　土器は総数 89 点に止まり出土量は多くない。99 は薄手の無文土器である。内外面ともに指頭圧が顕著である。清武上猪ノ原遺跡第 5 地区土坑 313 出土土器に類似することから縄文時代草創期に属すると思われる。100 ～ 118 は前平式土器である。胴部から口縁部まで直線的に立ち上がるものと（101 など)、やや内湾しつつ立ち上がるもの（107 など）が出土している。内湾気味のものは直線的なものに比べやや小型である。胴部に縦長の補修孔を施すものが確認されている（109)。119 ～ 122 は無文土器である。99 と比較すると厚手で胎土も荒い。119、120 は補修孔と見られる孔が開けられているが 119 は貫通していない。123 ～ 125 は試掘時に炉穴直上から出土した土器である。試掘時は炉穴の認識がなく帰属が確実ではないためここで掲載した。126 は表土出土の山形押型文土器である。包含層を含め唯一の出土である。

出土量は決して多くはないが、出土土器をみると前平式土器の段階が当遺跡の主体となろう。

石器　石器は総数 165 点出土している。本遺跡の特徴は石鏃等狩猟具の僅少さと石斧の卓越である。石鏃は 1 点（127）のみの出土である上に製作過程で放棄されており完成品ではない。また尖頭器も 1 点（128）のみの出土である。石斧は転用品も含め 10 点図化した。そのうち 7 点は緑色堆積岩である。129 ～ 132 はスクレイパーである。131 は緑色堆積岩石斧片の転用品である。133 ～ 141 は石斧、石斧片である。133、134 は流紋岩、その他は緑色堆積岩である。138 は刃部片であるが非常に丁寧に研磨が施されている。142 ～ 147 は敲石である。147 は剥離により刃部状に作り上げた部分に多数の敲打痕がみられる。148 ～ 153 は磨石である。148、150、153 は磨面の一部に敲打痕がみられる。154、155 は縦長剥片である。156 は頁岩の大型の石核である。

第１表　出土土器観察表

掲載頁 図番号	番 号	遺構 等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土（上:mm 下:量） A	B	C	D	E	備考	実測 番号
p.28 第35図	94	土坑1	縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ		1 少	1 少				26
	95		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ		2 多	1 少				25
	96		縄文 深鉢	—	(13.6)	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻条痕	ナデ		1.5 多	1.5 少				27
p.31 第43図	99	5層	縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	指押さえ	指押さえ		0.5 僅	0.5 僅			内外面ともに指押さえが顕著	13
	100		縄文 深鉢	(15.8)	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		1 多	1 多				19
	101		縄文 深鉢	(19.8)	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		1.5 多	1.5 多				5
	102		縄文 深鉢	(17.1)	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		2 多	微 少				15
	103		縄文 深鉢	(12.6)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻刺突・ナデ・貝殻条痕	貝殻条痕		1 少	0.5 少				24
	104		縄文 深鉢	(14.0)	—	—	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		2 多	1 多				14
	105		縄文 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		2.5 多	微 多				6
	106		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄橙	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		1.5 多	1.5 多				16
	107		縄文 深鉢	(14.8)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		1 多	1 多				12
	108		縄文 深鉢	(16.3)	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		1.5 多	1 少				11
	109		縄文 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	良好	貝殻条痕	貝殻条痕か		1.5 多	微 少				1
	110		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻条痕	貝殻条痕か		2 少	1 多				3
	111		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	不良	貝殻条痕か	貝殻条痕か	6 多	0.5 多	1 多			内外面風化	7
p.32 第44図	112	5層	縄文 深鉢	—	—	—	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻条痕	ナデ		1 多	1 多				18
	113		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄橙	良好	貝殻条痕	貝殻条痕		1 多	1 多				20
	114		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	貝殻条痕	ナデ		1 僅					17
	115		縄文 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻条痕	ナデ		2 僅					23
	116		縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/6 明褐	10YR3/2 黒褐	良好	貝殻条痕	ナデ		1.5 多	1 少				22
	117		縄文 深鉢	—	(11.4)	—	5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	貝殻条痕	ナデ		2 多	1.5 多				8
	118		縄文 深鉢	—	(14.0)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻条痕	ナデ		1.5 多	0.5 少				2
	119		縄文 深鉢	(14.6)	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ナデ		1 多	0.5 少			未貫通の穿孔有り	4
	120		縄文 深鉢	(13.2)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ	ナデ		1 多	微 僅			穿孔有り	21
	121		縄文 深鉢	—	(9.8)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ	ナデ		2 僅					9
	122		縄文 深鉢	—	(8.2)	—	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデか	ナデ		1 僅				外面風化	10
p.32 第45図	123	試掘 トレンチ	縄文 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	良好	貝殻刺突 貝殻条痕	貝殻条痕		2 多	1 多				29
	124	試掘 トレンチ	縄文 深鉢	—	—	—	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	良好	貝殻条痕	貝殻条痕		1 微					30
	125	試掘 トレンチ	縄文 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	良好	貝殻条痕	ナデか		1 少	1.5 多			内面風化	31
	126	表土	縄文 深鉢	(14.2)	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	良好	山形押型文	ナデ		微 多	微 多	微 多		胎土にパミス含む	28

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第２表　出土石器観察表①

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考	実測No.
p.8	第5図	1	礫群1	石錐	頁岩	5.2	3.2	1.4	18.2		41
		2	礫群1	磨石	砂岩	7.6	5.8	4.0	176.0		18
p.8	第6図	3	礫群2	敲石	砂岩	10.5	4.6	3.1	175.0		22
p.9	第7図	4	礫群3	敲石	砂岩	8.8	5.1	3.2	175.0		19
		5	礫群3	敲石	砂岩	13.5	6.9	4.9	437.0		34
		6	礫群3	敲石	砂岩	10.5	5.5	4.4	317.5		8
p.11	第10図	7	7層150	剥片尖頭器	ホルンフェルス	10.5	4.1	1.7	52.3		107
		8	7層108	剥片尖頭器	ホルンフェルス	8.2	4.0	1.6	21.9		101
		9	7層109	剥片尖頭器	ホルンフェルス	8.6	3.7	1.3	33.0		102
		10	7層3	剥片尖頭器	ホルンフェルス	6.1	2.7	1.1	13.4		100
		11	7層1	剥片尖頭器	ホルンフェルス	6.3	2.5	0.9	11.5		99
		12	7層110	剥片尖頭器	砂岩	(6.4)	2.6	1.3	19.0		103
		13	7層147	剥片尖頭器	砂岩	(5.3)	2.9	1.0	9.8	未成品	106
p.12	第11図	14	7層117	剥片尖頭器	頁岩	(7.7)	3.1	1.3	21.4		104
		15	7層112	剥片尖頭器	流紋岩	(5.1)	(2.5)	(0.9)	12.8		105
		16	7層203	ナイフ形石器	頁岩	(2.0)	(1.1)	(0.8)	1.2		108
		17	7層326	ナイフ形石器	ホルンフェルス	4.4	1.5	0.9	5.3		45
		18	7層8	スクレイパー	頁岩	4.7	4.5	1.8	28.8		127
		19	9層56	スクレイパー	砂岩	7.3	3.2	1.5	28.0		113
		20	7層161	スクレイパー	砂岩	11.8	3.6	1.9	67.6		114
		21	7層44	スクレイパー	頁岩	3.7	4.1	0.8	9.0		117
		22	7層239	スクレイパー	頁岩	3.9	3.2	1.3	13.1		116
p.13	第12図	23	9層26	スクレイパー	頁岩	(6.9)	3.7	1.6	36.6		112
		24	7層169	スクレイパー	流紋岩	(3.6)	3.9	1.4	21.7		115
		25	9層138	敲石	砂岩	(8.0)	(5.8)	6.8	334.0		25
		26	9層94	敲石	砂岩	8.9	7.8	4.5	290.0		20
		27	7層249	敲石	砂岩	(11.3)	(4.4)	2.9	168.0		32
		28	7層200	磨石	砂岩	(11.2)	6.4	2.6	277.0	敲石としても使用	7
p.14	第13図	29	7層44	二次加工剥片	頁岩	6.7	3.5	1.5	28.1		109
		30	7層119	二次加工剥片	頁岩	6.7	4.1	2.0	49.1		110
		31	9層91	二次加工剥片	頁岩	(2.0)	3.3	0.7	33.5		111
		32	9層116	剥片	ホルンフェルス	3.9	2.7	0.8	5.6		38
		33	9層45	剥片	ホルンフェルス	6.1	2.8	1.0	9.4		123
		34	9層90	剥片	ホルンフェルス	4.1	4.1	1.1	14.6		36
		35	7層308	剥片	ホルンフェルス	7.0	3.2	1.8	26.0	両面に打点残存	126
		36	9層93	剥片	砂岩	8.4	2.4	1.3	17.2		122
		37	9層49	剥片	砂岩	4.4	3.6	1.2	14.4		40
p.15	第14図	38	9層55	剥片	砂岩	6.0	3.9	0.8	6.8		124
		39	9層87	剥片	砂岩	3.5	3.0	1.0	7.0		39
		40	7層121	剥片	砂岩	7.4	6.4	1.7	60.6		120
		41	7層122	剥片	砂岩	(7.3)	(2.5)	1.1	12.6		121
		42	9層93	剥片	砂岩	8.4	2.4	1.3	17.2		125
		43	7層46	剥片	頁岩	8.3	(4.2)	1.6	38.8		118
		44	7層18	剥片	流紋岩	2.8	(2.8)	0.8	8.8		119
p.16	第15図	45	7層123	剥片	砂岩	(7.2)	4.5	1.7	55.6	接合資料①	47
		46	7層139	剥片	砂岩	10.7	4.9	1.8	62.9	接合資料①	48
		47	7層9	剥片	頁岩	2.5	(2.7)	0.6	4.0	接合資料②	54
		48	7層210	石核	頁岩	3.4	(3.1)	1.6	10.6	接合資料②	53
p.17	第16図	49	9層50	剥片	流紋岩	(6.3)	(4.2)	1.0	19.4	接合資料③	51
		50	7層126	石核	流紋岩	8.5	7.7	3.6	256.9	接合資料③	50

第３表　出土石器観察表②

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（ｇ）	備考	実測No.
p.19	第18図	51	7層224	剥片	流紋岩	1.2	2.5	0.6	1.6	接合資料④	86
		52	7層279	剥片	流紋岩	2.2	2.8	0.7	3.7	接合資料④	96
		53	7層20	剥片	流紋岩	2.9	1.5	0.7	1.9	接合資料④	62
		54	7層7	剥片	流紋岩	3.6	2.5	1.1	6.7	接合資料④	57
		55	7層194	剥片	流紋岩	3.8	1.9	0.8	5.4	接合資料④	71
		56	7層196	剥片	流紋岩	2.8	2.2	1.7	7.3	接合資料④	72
		57	7層204	剥片	流紋岩	3.5	1.7	0.9	4.2	接合資料④	77
		58	7層205	剥片	流紋岩	3.1	2.6	0.7	6.4	接合資料④	78
		59	7層235	剥片	流紋岩	2.7	2.4	0.6	2.8	接合資料④	92
		60	7層298	剥片	流紋岩	3.0	2.5	0.8	5.4	接合資料④	97
		61	7層202	剥片	流紋岩	3.0	5.4	1.8	17.0	接合資料④	76
		62	7層232	剥片	流紋岩	4.6	2.3	1.5	13.0	接合資料④	90
		63	7層234	剥片	流紋岩	2.8	6.2	1.9	33.3	接合資料④	91
		64	7層181	剥片	流紋岩	5.2	4.5	1.7	23.7	接合資料④	65
		65	7層22	剥片	流紋岩	4.4	4.0	1.5	23.6	接合資料④	63
p.20	第19図	66	7層225	剥片	流紋岩	5.3	3.5	1.4	16.4	接合資料④	87
		67	7層206	剥片	流紋岩	6.5	4.8	2.0	46.8	接合資料④	79
		68	7層264	剥片	流紋岩	1.9	4.8	2.8	20.1	接合資料④	94
		69	7層6	剥片	流紋岩	7.6	4.9	2.6	65.7	接合資料④	56
		70	7層186	剥片	流紋岩	5.3	2.8	1.3	12.8	接合資料④	67
		71	7層198・254	剥片	流紋岩	5.5	5.1	2.4	42.1	接合資料④	73
		72	7層199	剥片	流紋岩	5.4	2.9	1.3	18.6	接合資料④	74
		73	7層221	剥片	流紋岩	2.8	1.8	0.7	2.7	接合資料④	85
		74	7層216	剥片	流紋岩	4.1	2.5	1.0	7.9	接合資料④	82
p.21	第20図	75	7層13	剥片	流紋岩	3.3	3.3	1.0	8.4	接合資料④	61
		76	7層208	剥片	流紋岩	2.6	5.1	1.4	14.3	接合資料④	80
		77	7層192	剥片	流紋岩	4.9	3.7	1.0	22.9	接合資料④	69
		78	7層209	剥片	流紋岩	3.8	3.6	1.3	15.7	接合資料④	81
		79	7層185	剥片	流紋岩	4.8	3.3	1.2	15.0	接合資料④	66
		80	7層220	剥片	流紋岩	4.4	3.3	1.5	17.1	接合資料④	84
		81	7層200	剥片	流紋岩	4.8	3.4	1.6	19.6	接合資料④	75
		82	7層193	剥片	流紋岩	4.4	3.8	1.8	15.1	接合資料④	70
		83	7層12	剥片	流紋岩	3.4	3.4	1.6	13.7	接合資料④	60
		84	7層10・310	剥片	流紋岩	4.6	3.4	1.1	11.4	接合資料④	58
p.22	第21図	85	7層251	石核	流紋岩	7.0	7.4	3.3	151.6	接合資料④	93
		86	7層271	石核	流紋岩	3.6	6.7	2.7	52.7	接合資料④	95
		87	7層226	石核	流紋岩	4.2	6.4	7.1	171.6	接合資料④	88
		88	7層190	石核	流紋岩	5.4	7.0	2.6	91.4	接合資料④	68
		89	7層11	石核	流紋岩	5.6	4.4	2.7	55.0	接合資料④	59
		90	7層217・14	石核	流紋岩	4.7	7.2	3.7	126.3	接合資料④	83
p.23	第22図	91	7層227	石核	流紋岩	5.2	7.2	3.8	123.4	接合資料④	89
		92	7層180	石核	流紋岩	8.2	3.9	4.5	114.9	接合資料④	64
p.23	第23図	93	4層80	剥片尖頭器	砂岩	(6.3)	(3.0)	1.1	18.3	縄文早期包含層出土	98
p.29	第40図	97	土坑7	磨石	砂岩	10.5	7.7	4.7	557.0	敲石としても使用	4
p.29	第41図	98	土坑10	スクレイパー	頁岩	4.6	6.0	1.1	38.0		119
p.34	第48図	127	4層68	石鏃	チャート	1.9	1.5	3.7	0.7		129
		128	5層121	尖頭器	頁岩	6.4	2.6	1.1	10.6		42
		129	4層55	スクレイパー	頁岩	4.5	3.2	0.6	6.0		43
		130	5層7	スクレイパー	チャート	4.7	3.2	2.0	26.6		130
		131	4層27	スクレイパー	緑色堆積岩	5.6	5.7	1.2	39.0	石斧転用	14

第 4 表　出土石器観察表③

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
p. 34	第48図	132	5層100	スクレイパー	頁岩	3.9	5.0	1.3	26.0		6
		133	5層98	磨製石斧	流紋岩	(9.2)	(5.9)	1.9	91.0		10
		134	4層36	磨製石斧	流紋岩	(5.7)	3.6	1.4	40.0		17
p. 35	第49図	135	4層17	磨製石斧	流紋岩	11.2	4.3	2.5	167.5		33
		136	4層10	磨製石斧	緑色堆積岩	10.9	4.1	(1.8)	87.1		30
		137	4層26・5層103・127	磨製石斧	緑色堆積岩	(10.0)	4.5	2.3	141.0		24
		138	4層14・5層102	磨製石斧	緑色堆積岩	(5.5)	(3.2)	(1.5)	9.2	石斧片	37
		139	4層47	磨製石斧	緑色堆積岩	(4.7)	(3.5)	(0.5)	6.0	石斧片	23
		140	4層25	磨製石斧	緑色堆積岩	(3.2)	(2.1)	(0.8)	6.1	石斧片	35
		141	4層62	磨製石斧	緑色堆積岩	(6.9)	(3.4)	(1.2)	24.0	石斧片	44
p. 36	第50図	142	5層188	敲石	砂岩	(5.6)	10.5	6.0	452.0		29
		143	5層122	敲石	砂岩	(7.8)	10.0	4.5	454.0		16
		144	4層83	敲石	砂岩	(7.7)	(7.2)	(4.2)	203.0		5
		145	5層185	敲石	砂岩	15.1	6.7	3.6	482.0		15
		146	5層174	敲石	砂岩	9.7	5.9	4.6	359.0		12
		147	5層179	敲石	砂岩	(8.5)	10.1	3.9	561.0		27
p. 37	第51図	148	5層156	磨石	砂岩	9.4	7.4	3.7	361.0	敲石としても使用	11
		149	5層170	磨石	砂岩	10.3	7.5	4.8	513.0		26
		150	4層21	磨石	砂岩	11.2	9.3	4.9	700.0	敲石としても使用	1
		151	5層93	磨石	砂岩	8.8	8.6	4.6	464.0		2
		152	5層112	磨石	砂岩	(9.3)	6.8	4.9	372.0		13
		153	5層157	磨石	砂岩	8.0	6.1	4.6	302.0		9
p. 38	第52図	154	6層2	二次加工剥片	頁岩	5.0	2.4	0.5	5.0		3
		155	5層141	剥片	ホルンフェルス	10.9	3.3	1.4	31.8		28
		156	4層78・79	石核	頁岩	13.6	9.7	6.0	712.7		128

第 5 表　集石遺構計測表

掲載頁	図番号	遺構番号	形状	規模			礫数	礫重量 (kg)	土坑の有無	底石の有無	備考
				長軸(m)	短軸(m)	深さ (m)					
p. 25	第25図	集石遺構3	円形	0.62	0.53	0.2+	68	11.7	有	無	
	第26図	集石遺構5	円形	1.08	0.94	0.22	259	37.5	有	無	炭化物多
	第27図	集石遺構6	円形	1.00	0.98	0.21	200	14.4	有	無	
	第28図	集石遺構11	円形	1.35	0.97+	0.28	560+	35.85+	有	無	炭化物多 赤化礫少ない
p. 26	第29図	集石遺構12	円形	1.21	1.17	0.26	567	82.15	有	無	
	第30図	集石遺構13	不整円形	1.22	1.13	0.26	342	70.7	有	無	
	第31図	集石遺構14	円形	0.92	0.82	0.11	83	11.7	有	無	
		集石遺構15	円形	0.86	0.76	0.07	18	10.2	有	無	

第Ⅲ章　総括

高浜中原遺跡では、旧石器時代、縄文時代早期の文化層を確認することができた。ここではそれらの要点をまとめ総括としたい。

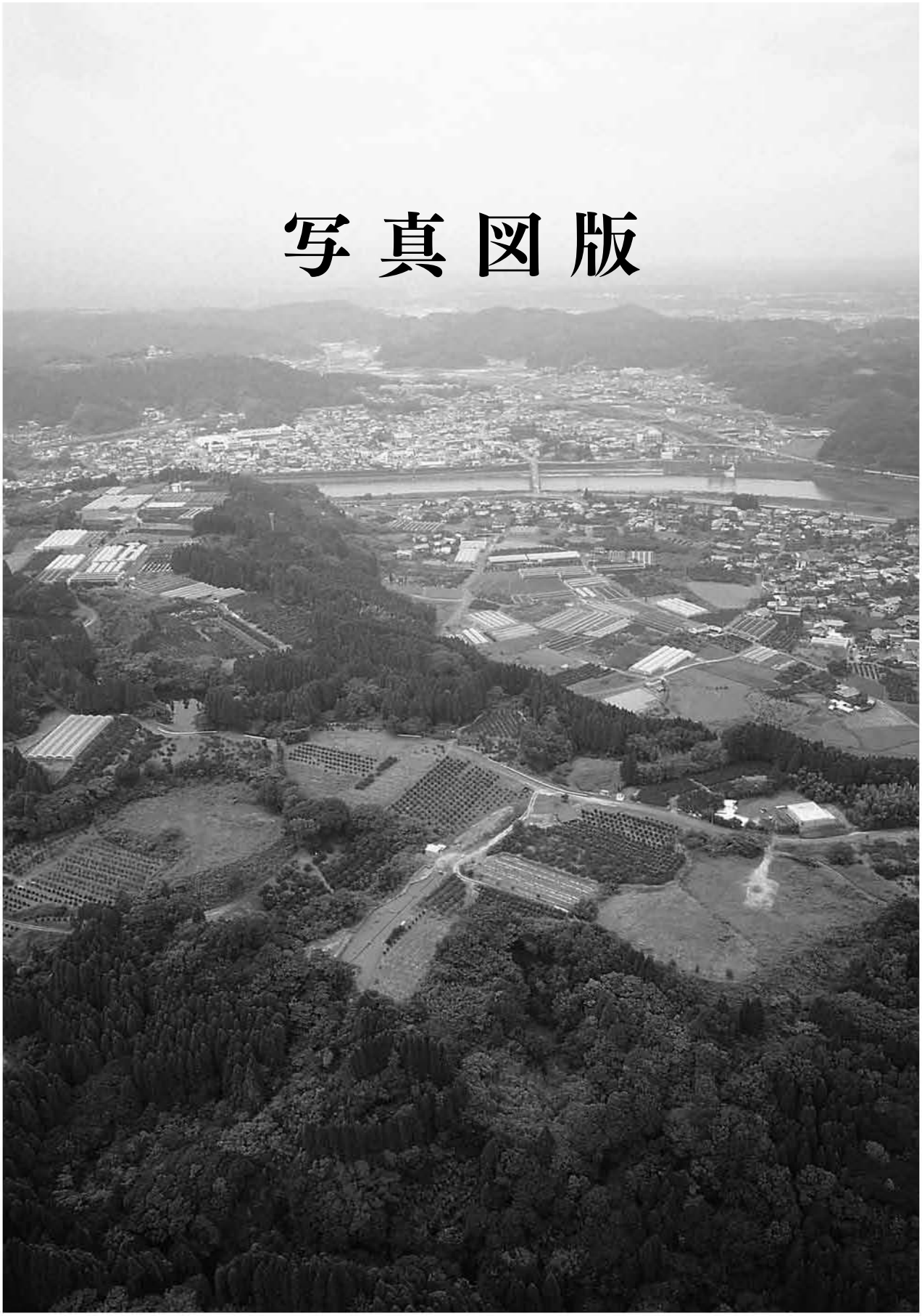
旧石器時代　本遺跡の主な旧石器時代の遺構、遺物としては、礫群 3 基、10 点の剥片尖頭器、42 点の剥片、石核が接合した接合資料が挙げられる。礫群は広範に広がる礫群 1 と掘り込みをもち小型であるが礫が密集する礫群 2、3 に分けられる。この礫群 2 に近接する位置で剥片尖頭器が未成品も含め 10 点出土した。その範囲は径 4 mほどであり、縄文時代早期遺物包含層に混入して出土した 93 以外は出土レベルも大きな隔たりはない。石材に着目してみると、ホルンフェルス製の剥片尖頭器が 5 点と最も多いが、ホルンフェルスの石核は本遺跡では出土しておらず、剥片も小振りであり 7 ～ 9 といった大型の剥片尖頭器を作り出せるほど大型の剥片は出土していない。砕片が出土していないことも加味するとホルンフェルス製の剥片尖頭器は製品として遺跡外から持ち込まれたと考えられる。砂岩（2 点）、頁岩（1 点）に関しては、素材剥片は出土しているものの、砕片が出土していないことから製品＋素材剥片を本遺跡に持ち込んだ可能性がある。流紋岩（1 点）に関しては接合資料が出土しているものの、剥片尖頭器と接合はせず、出土位置、出土レベルも相違することから製品として持ち込まれたと想定される。本資料は欠損資料であるが、側縁先端付近に調整がみられ転用品の可能性がある。接合資料は 42 点が接合した接合資料④が注目される。接合するとほぼ母岩に近い形状となり、素材剥片として持ち出した点数は少数と思われる。また、作出する剥片は縦長剥片を基本とするものの、一部横長剥片を作出していることから、一母岩から縦長、横長両剥片を作出する稀有な事例である。本遺跡出土石器は宮崎 10 段階編年の第 6 段階に位置づけられる。

縄文時代　縄文時代は草創期の土器が 1 点出土しているものの、早期前葉、前平式土器が中心である。出土した土器は全体数でも少数であり、本遺跡は継続的に利用された場所ではないようである。石器は特徴的な組成を示す。石鏃など狩猟具の出土が非常に少数であり、磨製石斧の出土が顕著である。遺構として注目されるのは炉穴である。大淀川流域の内陸丘陵部への入口付近に当たる旧高岡町域では、多くの縄文時代早期の遺跡が調査されているが、本遺跡の調査までは炉穴は確認されていなかった。分布域に若干の変更が生じることになる。

本遺跡の調査で最も大きな成果といえるのが、当遺跡が所在する段丘上で旧石器時代の遺構、遺物が確認されたことである。今回の調査以前は、谷を挟んで南側、高野原遺跡や永迫第 1、第 2 遺跡が所在する段丘上には旧石器時代の遺跡が存在するが、その段丘よりも標高がやや低く、大淀川に近い当遺跡が所在する段丘上には旧石器時代の遺跡は存在しないと想定されてきた。今回の調査結果により、今後当遺跡が所在する段丘上では旧石器時代の遺構、遺物が検出されることを念頭に置き調査する必要がある。

註：本遺跡で出土した流紋岩は、いわゆる五ヶ瀬川流域産の流紋岩とは異なるものである。

写真図版



高浜中原遺跡遠景（天ヶ城を望む）

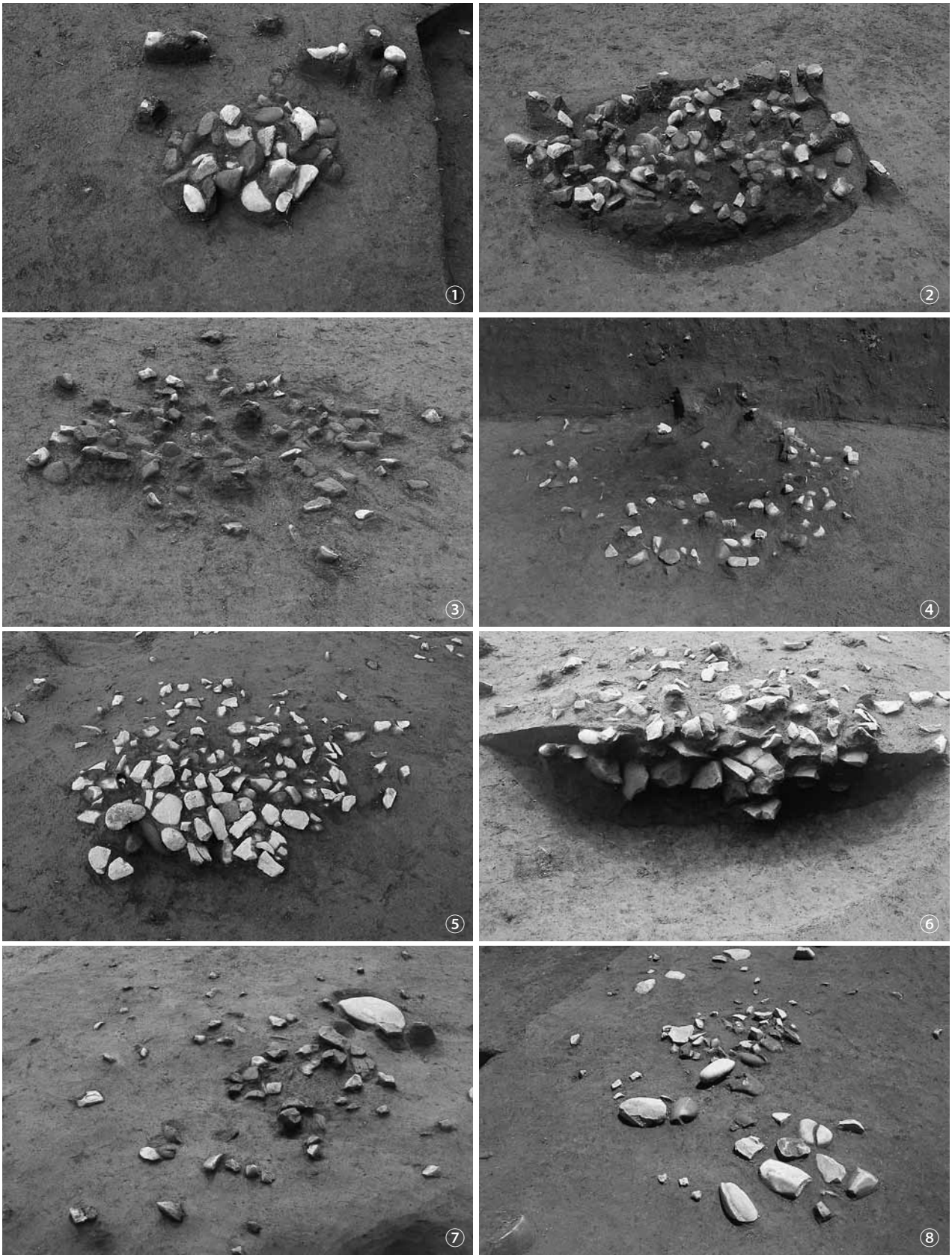
図版 1

調査区遠景（西から）

調査区垂直写真

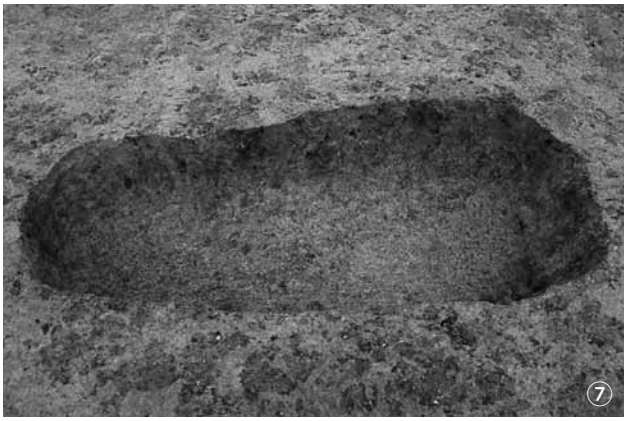
①礫群 1 検出状況（北から）
②礫群 2 検出状況（西から）
③礫群 3 検出状況（西から）
④旧石器接合資料出土状況
（南西から）
⑤剥片尖頭器出土状況
（南西から）
⑥旧石器出土状況①（南東から）
⑦旧石器出土状況②（北西から）

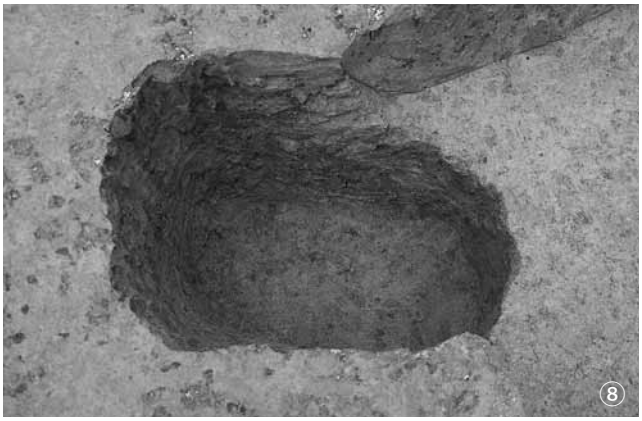
図版 3



①集石遺構 3 検出状況（西から）　②集石遺構 5 検出状況（東から）
③集石遺構 6 検出状況（北から）　④集石遺構 11 検出状況（西から）
⑤集石遺構 12 検出状況（西から）　⑥集石遺構 12 半裁状況（北西から）
⑦集石遺構 13 検出状況（南西から）　⑧集石遺構 14・15 検出状況（西から）

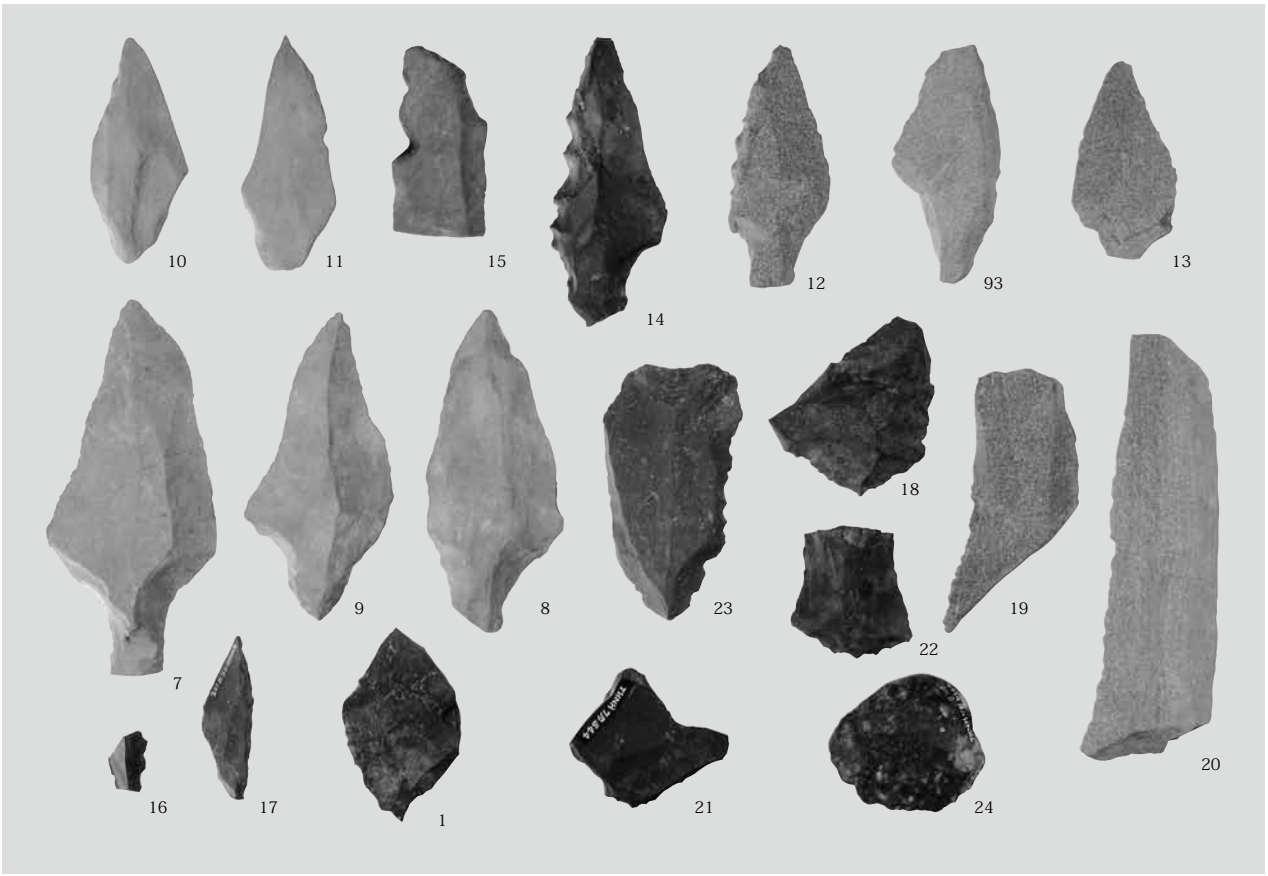
②陥し穴状遺構 16
土層堆積状況
（東から）
④土坑 1 完掘状況
（東から）
⑥土坑 4 完掘状況
（東から）
⑧土坑 10 完掘状況
（東から）



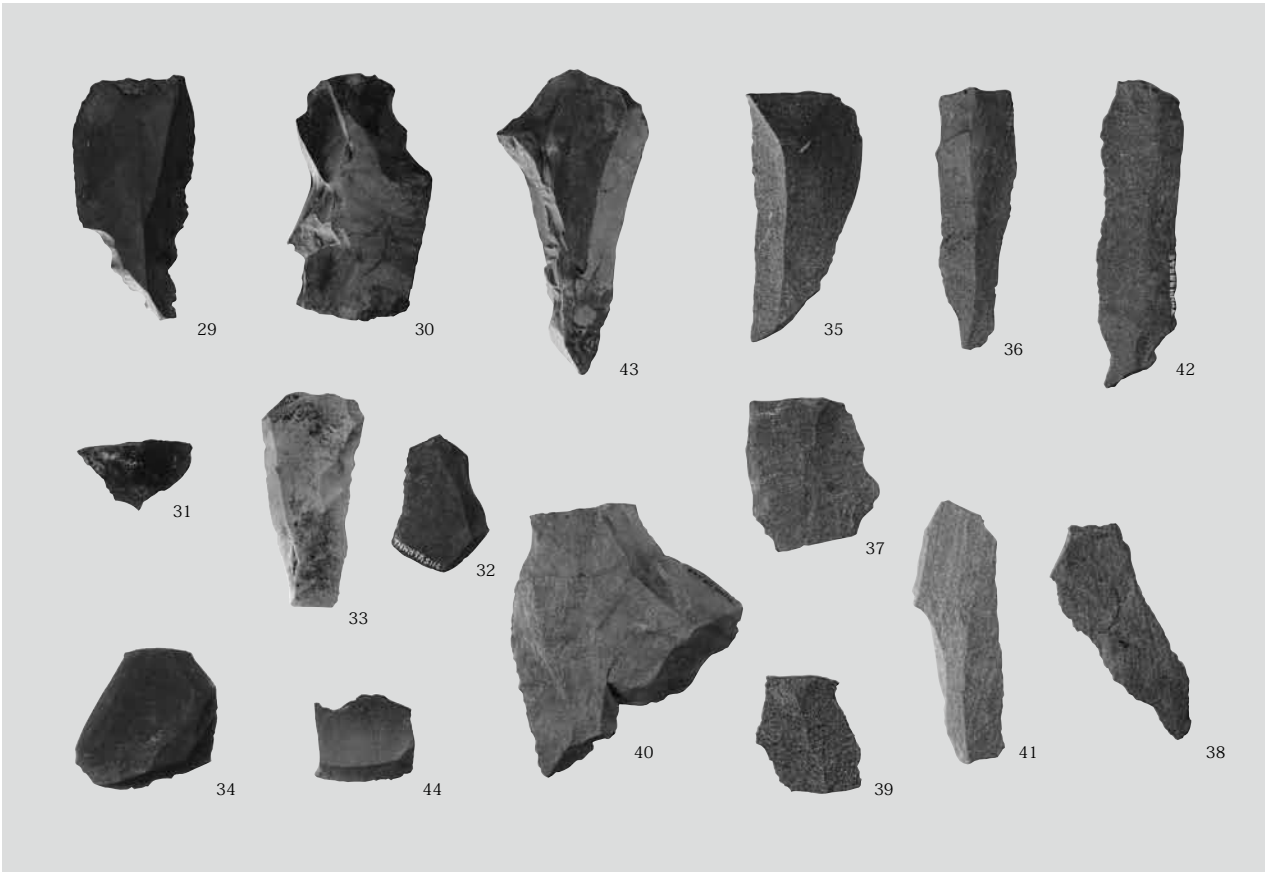


①炉穴 8 ・ 9 ・ 17 完掘状況（北から）
③割礫出土状況（東から）
⑤土坑 2 半裁状況（南西から）
⑦土坑 7 完掘状況（南から）

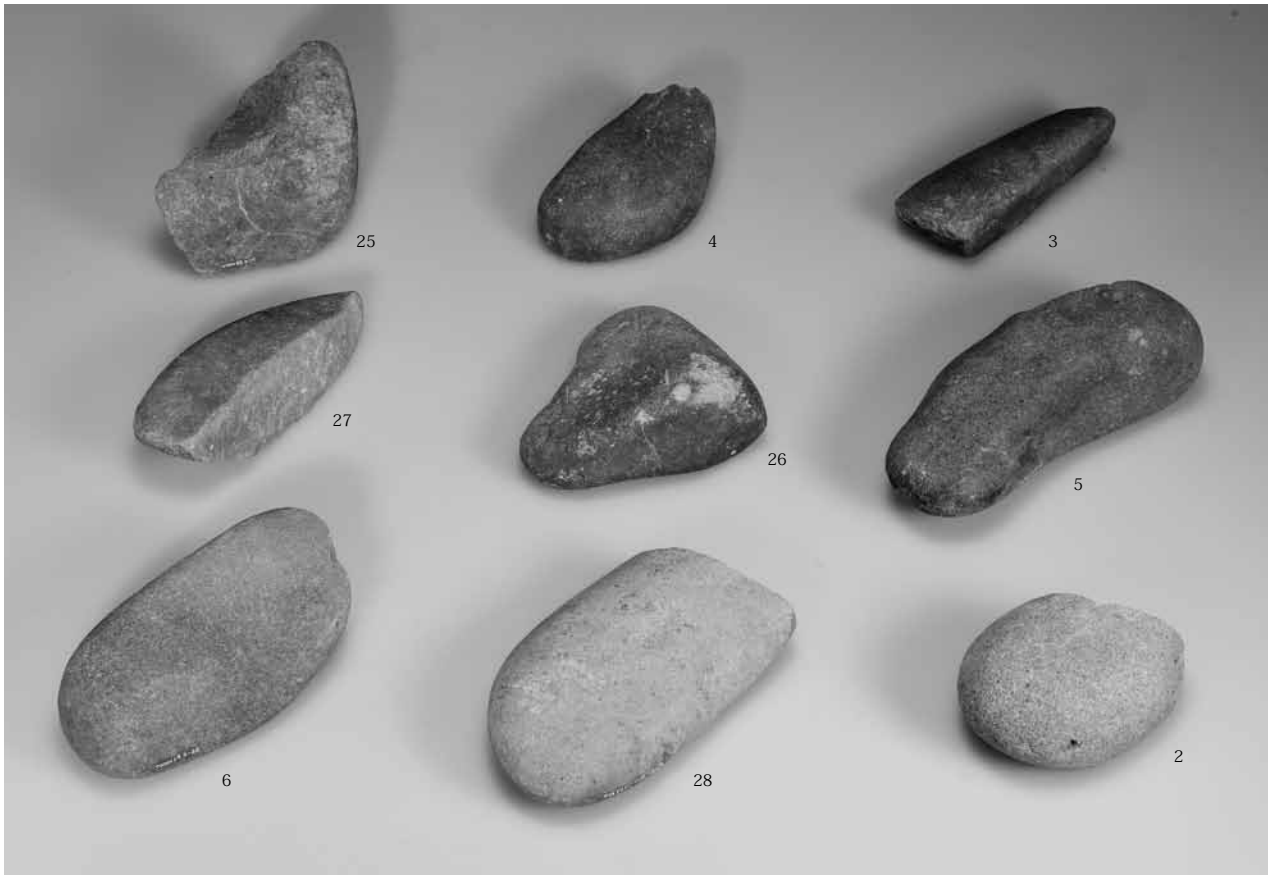
図版 5



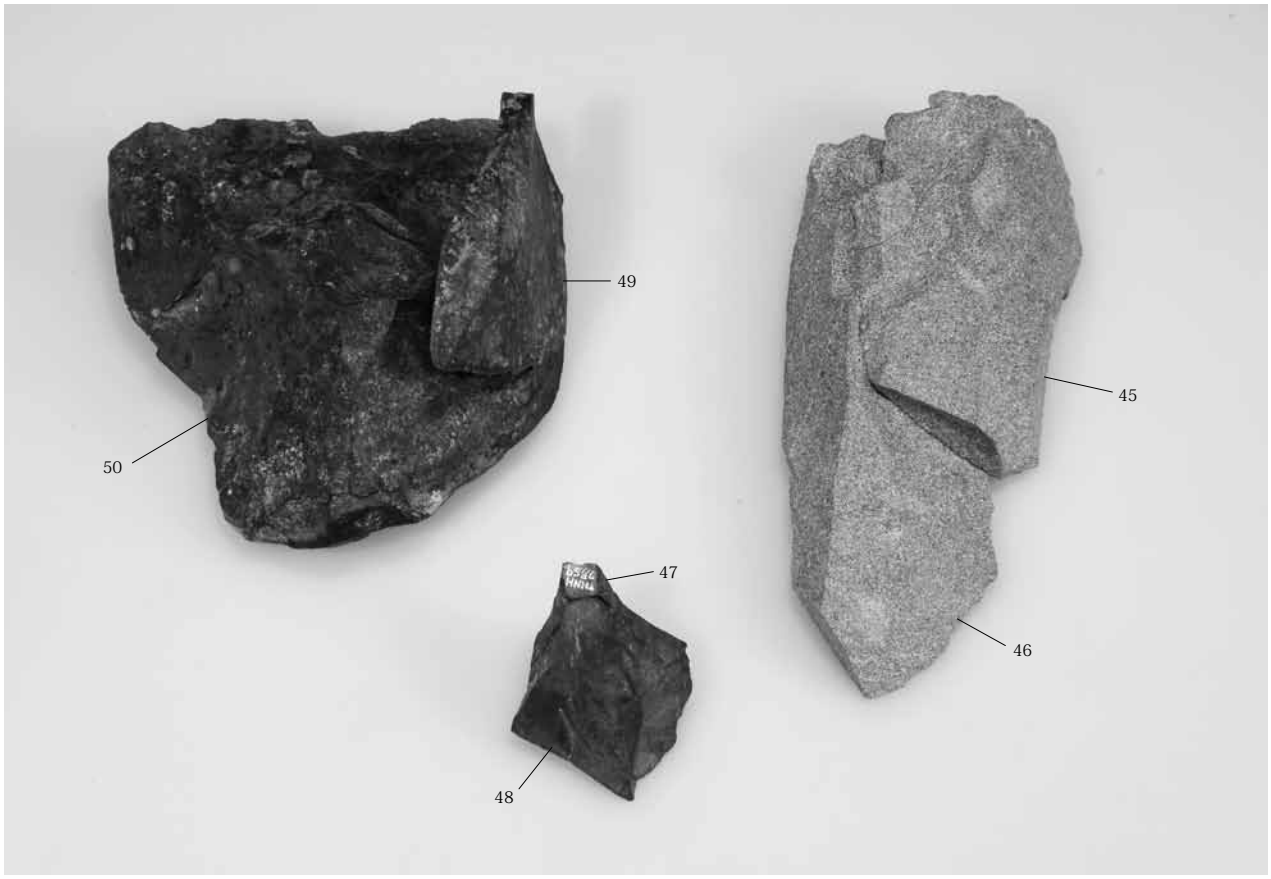
旧石器時代出土石器①



旧石器時代出土石器②



旧石器時代出土石器③



旧石器時代包含層出土接合資料①～③

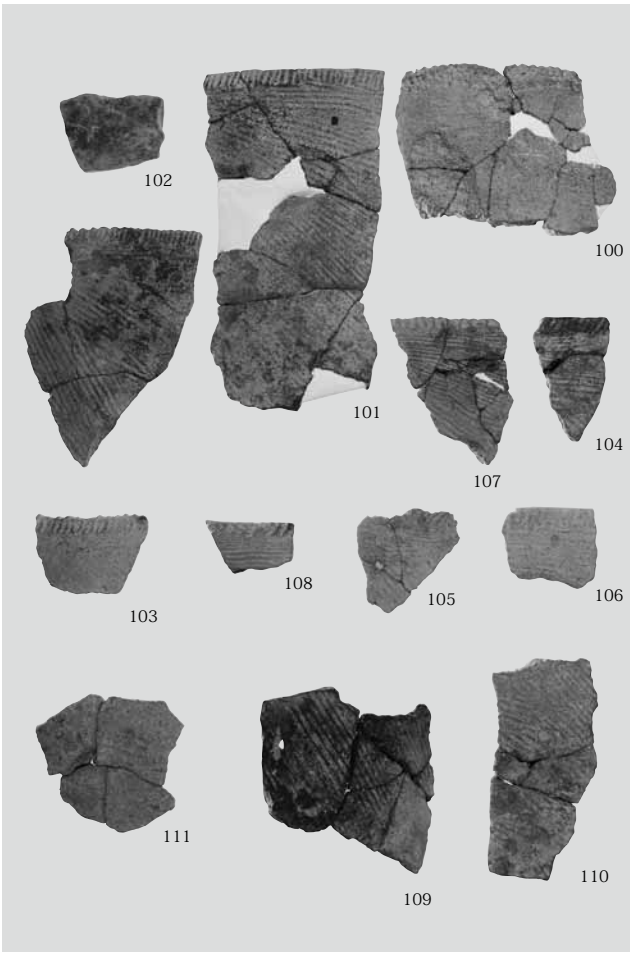
図版 7

旧石器時代遺物包含層出土接合資料④接合状況

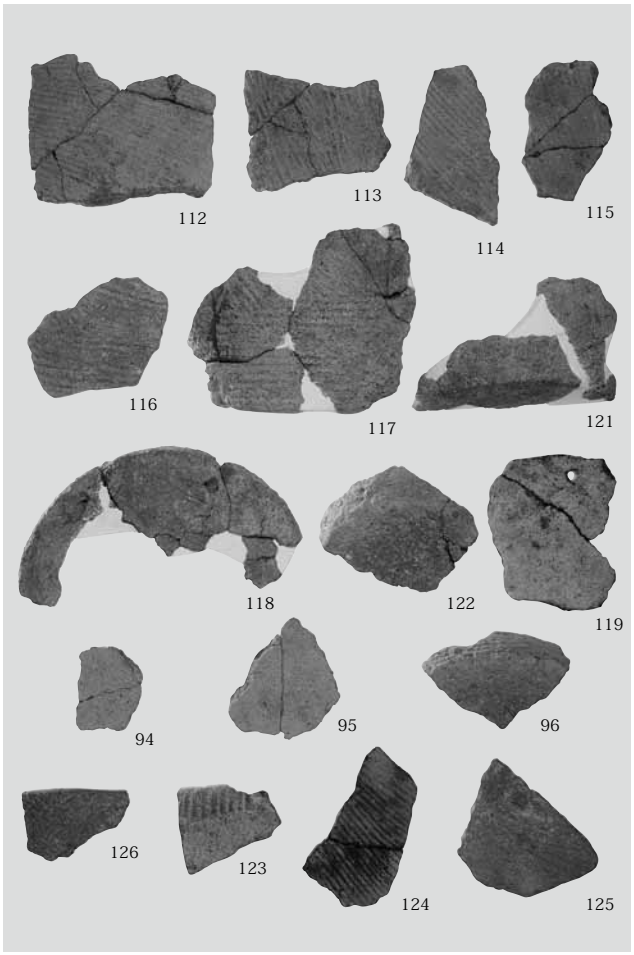
旧石器時代遺物包含層出土接合資料④剥片接合状況

旧石器時代遺物包含層出土接合資料④個別

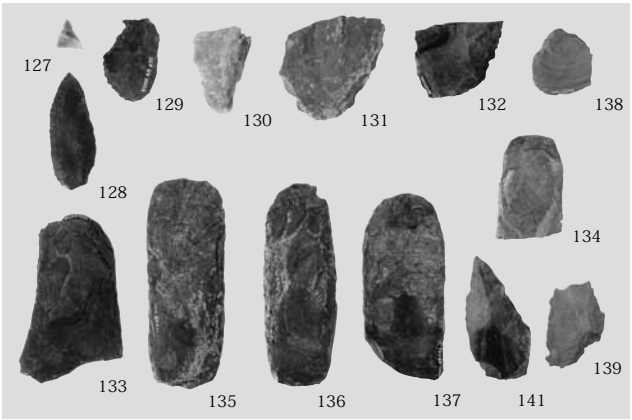
図版 9



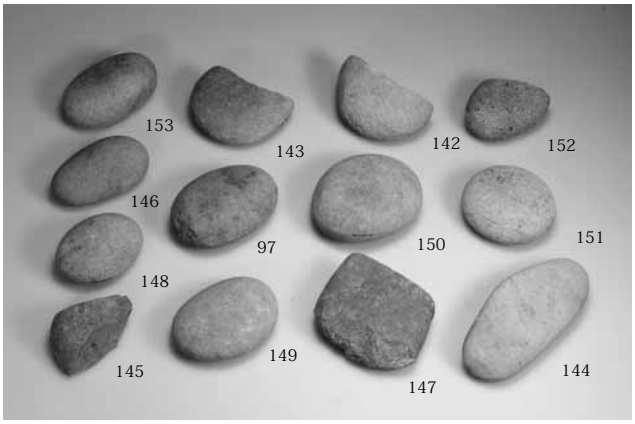
縄文時代早期出土土器①



縄文時代早期出土土器②



縄文時代早期出土石器①



縄文時代早期出土石器②

報 告 書 抄 録

ふりがな	たかはまなかはらいせき
書名	高浜中原遺跡
副書名	基幹農道整備事業楠見 3 期地区Ａ工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 110 集
編著者名	石村 友規
編集機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒 880-0805　宮崎市橘通東 1 丁目 14 番 20 号
発行年月日	2016 年 2 月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかはまなかはらいせき 高浜中原遺跡	みやざきし 宮崎市 たかおかちょうたかはま 高岡町高浜	45201	32-014	31° 94′ 56″ 付近	131° 30′ 14″ 付近	2012.5.23 ～ 2012.8.28	944㎡	農道新設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高浜中原遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代	礫群・集石遺構・炉穴・土坑	剥片尖頭器・ナイフ形石器・スクレイパー・敲石・磨石・剥片・接合資料・前平式土器	

要約	高浜中原遺跡	旧石器時代、縄文時代早期の遺構、遺物を検出した。 旧石器時代では 10 点の剥片尖頭器が近接した位置から出土、また 42 点が接合した接合資料が出土した。 縄文時代早期では出土土器の大半を前平式土器が占め、尚且つ出土量の僅少さから当遺跡の利用期間が短期間であったことを表している。

宮崎市文化財調査報告書 第 110 集

高浜中原遺跡

基幹農道整備事業楠見3期地区Ａ工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016 年2月
発行　宮崎市教育委員会